

SYLLABUS

2025 年度 秋学期

2年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
アカデミック・コミュニケーション・ベシックス	English Presentation II	(2)	選必	エシアナ ベネス	1	
	Public Speaking II	(2)	選必	エシアナ ベネス	6	
	Writing as a Social Act II	(2)	選必	小野寺 進	11	
				成田 芙美	14	
	Essay Writing II	(2)	選必	江連 敏和	17	
				小野寺 進	20	
	Active Reading Business Genres II (2限目)	(2)	選必	堀江 洋文	24	
	Active Reading Business Genres II (3限目)				27	
	English Grammar and Usage II	(2)	選必	成田 芙美	30	
				堀江 洋文	33	
プレゼンテーション	(2)	選択	植田 栄子	36		
情報と経済社会	(2)	選択	深田 秀実	39		
教養科目	哲学II	(2)	選必	大森 史博	42	
	宗教哲学	(2)	選必	木鎌 耕一郎	45	
	文学と人間	(2)	選必	横手 一彦	48	
	法律と人間	(2)	選必	小林 直樹	51	
	科学技術と社会II	(2)	選必	本田 明弘	54	
	健康と医療	(2)	選必	長岡 朋人	57	
	教養特殊講義II	(2)	選必	大森 史博	61	
キャリア科目	インターンシップI	(1)	選必	大森 史博	64	
専門科目	経営学科	環境経営論	(2)	選必	藤沼 司	66
		マーケティング論II	(2)	選必	行本 雅	69
		人事管理論II	(2)	選必	中川 宗人	72
		管理会計論II	(2)	選必	王 聖書	75
		経営特殊講義I	(2)	選択	風間 信隆	78
		現代仕事論	(2)	選択	赤坂 道俊	81
		財務管理	(2)	選択	長谷川 美千留	84
		税務会計	(2)	選択	金子 輝雄	87
		財務分析II	(2)	選択	長谷川 美千留	90
		経営史	(2)	選択	平野 恭平	93
	経済学科	計量経済学	(4)	選必	楠山 大暁	96
		国際経済学	(4)	選必	河野 秀孝	100
		公共経済学	(4)	選必	青山 直人	104
		労働経済学	(4)	選必	大矢 奈美	108
		金融経済学I	(2)	選必	山本 俊	112
		地方財政論	(2)	選択	武者 加苗	115
		経済特殊講義II	(2)	選択	秋葉 まり子	118
					丸山 千賀子	
		経済変動論	(2)	選択	高尾 築	121
		マーケティング論II【他学科展開科目】	(2)	選択	行本 雅	69
管理会計論II【他学科展開科目】	(2)	選必	王 聖書	75		
財務分析II【他学科展開科目】	(2)	選択	長谷川 美千留	90		

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
経済学 科	経済演習Ⅰ	②	必修	青山 直人	124	
		②	必修	大矢 奈美	125	
		②	必修	河野 秀孝	127	
		②	必修	樺 克裕	129	
		②	必修	木立 力	130	
		②	必修	工藤 恭嗣	131	
		②	必修	黄 年宏	132	
		②	必修	七宮 圭	134	
		②	必修	橋本 悟	136	
		②	必修	山本 俊	138	
専門 科目	地域企業論Ⅱ	(2)	選必	生田 泰亮	140	
	地域社会論Ⅱ	(2)	選必	佐々木 てる	143	
	地形地理情報論	(2)	選必	三浦 英樹	146	
	マーケティング論Ⅱ【他学科基幹科目】	(2)	選必	行本 雅	69	
	地域 みらい 学科	フィールドリサーチⅠ	(2)	選択	足達 健夫	—
					生田 泰亮	
					佐々木 てる	
					長岡 朋人	
					三浦 英樹	
					野坂 真	
					渡部 鮎美	
	安田 公治					
	行政経営論	(2)	選択	非開講	—	
地域の産業Ⅰ	(2)	選択	奥平 理	150		
地域みらい特殊講義Ⅰ	(2)	選択	竹浪 比呂夫	153		
現代仕事論【他学科展開科目】	(2)	選択	赤坂 道俊	81		
ミクロ経済学【他学科展開科目】	(4)	選択	工藤 恭嗣	156		
財務会計論Ⅰ【他学科展開科目】	(2)	選択	金子 輝雄	160		

【注1】自分が履修するクラスの担当教員ページを確認してください。

2024年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1240～」で始まる学生）

- (1) 「国際経済学」は2024年度入学生は履修できません。

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生）

- (1) 「地形地理情報論」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ICT基礎論」の読替科目です。

- (2) 「財務会計論（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、
評価の対象にはなりません。

- (3) 「管理会計論（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「管理会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「管理会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、
評価の対象にはなりません。

- (4) 「財務管理」は2020年度及び2021年度入学生は履修できません。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」 で始まる学生）

（1）「科学技術と社会（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「科学技術と社会Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「科学技術と社会Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（2）「金融経済学（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「金融経済学Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（3）「財務会計論（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「財務会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「財務会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（4）「管理会計論（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「管理会計論Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「管理会計論Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、

（5）「地形地理情報論」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ICT基礎論」の読替科目です。

当該科目の単位を修得済みの学生が「地形地理情報論」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（6）「Public SpeakingⅡ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Public Speaking and

InteractionⅡ」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Public SpeakingⅡ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（7）「Essay WritingⅡ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Academic WritingⅡ」の

読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Essay WritingⅡ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

（8）「哲学Ⅱ」は、2019年度以前入学生は履修できません。

（9）「財務管理」は2019年度以前入学生は履修できません。

[科目名] English Presentation II		[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ ベーシックス																																						
[担当者] Benneth Esiana		[オフィス・アワー] 時間: to be confirmed 場所: 602			[授業の方法] 講義, 実習																																				
[科目の概要] Giving speeches/presentations is part of our daily life, for instance, when we speak to other people, when we discuss a topic, when we share our ideas/opinions. The objective of the module is to guide students to attain a reasonable level of competency in writing and delivering a presentation. Students will engage in meaningful practises in class to study various strategies used in presentations. They will analyse sample speeches/presentations and PowerPoint slides. Furthermore, they will learn that public speaking or presentation is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved. Please be advised that a good portion of the module is taught in English, thus it is ideal for students at an intermediate level of English.																																									
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] The ability to compose and convey a message clearly and persuasively to an audience is an important skill to have. It is valuable because of its wide-ranging applications in personal, professional, and social settings. Learning to improve this skill will result in clarity and confidence when expressing oneself – a skill that is much sort after by employers.																																									
[科目の到達目標] To be able to develop basic competency in the preparation, writing and delivery of presentations in English using complementary visual aids (PowerPoint). <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>80点以上</td> <td>秀</td> <td colspan="4">当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70点以上80点未満</td> <td>優</td> <td colspan="4">当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60点以上70点未満</td> <td>良</td> <td colspan="4">当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50点以上60点未満</td> <td>可</td> <td colspan="4">当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50点未満</td> <td>不可</td> <td colspan="4">当該科目で定められた到達目標を、達成していない</td> </tr> </table>							A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している				B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している				C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している				D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している				F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない			
A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している																																						
B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している																																						
C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している																																						
D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している																																						
F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない																																						
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]																																									
学部				学科																																					
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																																			
		○																																							
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] Not applicable																																									
[教科書] Ready to Present, by Herman Bartelen & Malcolm Kostiuk, Cengage, ISBN: 978-4-86312-351-9																																									

〔指定図書〕 Not applicable	
〔参考書〕 Not applicable	
〔前提科目〕 English Presentation I (is preferably, however, it is not a mandatory pre-requisite - 好ましくは、ただし、必須の前提条件ではありませんので。)	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students will be assessed through the following methods: <ul style="list-style-type: none"> - Mandatory Assignments - In-class Exercises (creating PowerPoint slides for presentations, tests etc.) - Final Project - Others (attendance) 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 The module is taught at a pace complementary with students' ability and progress so that they are not overwhelmed. <ul style="list-style-type: none"> - Students are expected to attend class with the desire to learn. - They must actively participate in all aspects of the lesson. - An expectation for students to complete all assigned tasks, assessed or otherwise, in class or at home (self-study) 	
〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Module Orientation & Getting to know your classmates</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Module Outline etc. - Language to be used (greeting, talking about likes, dislikes, experiences etc.) - Plan and write (writing an introduction, body, and conclusion) - Presentation skills (Making good eye contact, controlling your voice) <p>教科書・指定図書 Unit 1a: Self Introduction</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Getting to know your classmates</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (greeting, talking about likes, dislikes, experiences etc.) - Plan and write (writing an introduction, body, and conclusion) - Presentation skills (Making good eye contact, controlling your voice)

	教科書・指定図書 Unit 1b: Self Introduction
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about people and things important to you</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (talking about people and things) - Plan and write (about something or someone important to you) - Presentation skills (using facial and hand gestures, “read, look up” technique, do’ s and don’ ts) <p>教科書・指定図書 Unit 2a: An Important Person or Thing</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about people and things important to you</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (talking about people and things) - Plan and write (about something or someone important to you) - Presentation skills (using facial and hand gestures, “read, look up” technique, do’ s and don’ ts) <p>教科書・指定図書 Unit 2b: An Important Person or Thing</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about interesting places</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (describing places, giving reasons, using slides) - Plan and write (about and describing places) - Presentation skills (using slides and graphics, hand gestures) <p>教科書・指定図書 Unit 3a: Places</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about interesting places</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (describing places, giving reasons, using slides) - Plan and write (about and describing places) - Presentation skills (using slides and graphics, hand gestures) <p>教科書・指定図書 Unit 3b: Places</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Sharing opinions</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (giving an opinion, examples, support and evidence, questioning) - Plan and write (opinion on a topic) - Presentation skills (speaking with emphasis, hand gestures for emphasis) <p>教科書・指定図書 Unit 4a: Opinions</p>

第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Sharing opinions</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (giving an opinion, examples, support and evidence, questioning) - Plan and write (opinion on a topic) - Presentation skills (speaking with emphasis, hand gestures for emphasis) - Unit 1 - 4 (Review) <p>教科書・指定図書 Unit 4b: Opinions</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about people</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (talking about life, experiences etc.,) - Plan and write (a biography) - Presentation skills (hand gestures, using gestures appropriately) <p>教科書・指定図書 Unit 5a: Biography</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about people</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (talking about life, experiences etc.,) - Plan and write (a biography) - Presentation skills (hand gestures, using gestures appropriately) <p>教科書・指定図書 Unit 5b: Biography</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about your past experiences and stories</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (setting up a story, using storytelling expressions) - Plan and write (personal story, learning from a story) - Presentation skills (gestures for storytelling, speaking with emphasis) <p>教科書・指定図書 Unit 6a: Stories</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Talking about your past experiences and stories</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (setting up a story, using storytelling expressions) - Plan and write (personal story, learning from a story) - Presentation skills (gestures for storytelling, speaking with emphasis) <p>教科書・指定図書 Unit 6b: Stories</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Expressing opinions about social and global issues</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (supporting opinions, stating facts, showing increases and decreases) - Plan and write (opinion about an issue, doing research) - Presentation skills (saying number, using tables and graphs, chunking sentences)

	教科書・指定図書 Unit 7a: Solving Problems
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Expressing opinions about social and global issues</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Language to be used (supporting opinions, stating facts, showing increases and decreases) - Plan and write (opinion about an issue, doing research) - Presentation skills (saying number, using tables and graphs, chunking sentences) <p>教科書・指定図書 Unit 7b: Solving Problems</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Expressing opinions, talking about experiences and the future</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Plan and write (choosing a theme for presentation & writing a great presentation) - Presentation skills (chunking, reviewing gestures, reviewing all presentation skills) <p>教科書・指定図書 Unit 8a: Final Presentation</p>
試 験	No final examination (なし)

[科目名] Public Speaking II		[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ ベーシックス			
[担当者] Benneth Esiana	[オフィス・アワー] 時間: to be confirmed 場所: 602		[授業の方法] 講義, 実習			
[科目の概要] Public speaking is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved. The module provides a comprehensive understanding of public speaking (speeches/presentations) from conception to delivery. It does this by using a series of relevant topics to demonstrate the “What” “How” and “When”, in the act of producing and delivering a speech/presentation. They will engage in regular graded practice exercises during class by giving speeches/presentations. They will also analyse sample speeches/presentations, contents, and PowerPoint slides. Please be aware that a good portion of the module is taught in English, thus it is ideal for students at an intermediate level of English.						
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Proficiency in public speaking/presentation is an indispensable skill in this day and age, given its wide-ranging applications in personal, professional, and social/public settings. Students will develop a better understanding of topics for presentation, developing content, research for presentation, and the importance of Physical, Visual, and Story messages whilst preparing and delivering speeches/presentations. Learning to improve this skill will result in clarity and confidence when expressing oneself – a skill that is much sort after by employers.						
[科目の到達目標] Throughout this module, students will gain a better understanding of topics for presentation, key contents, their audience, and the importance of Physical, Visual, and Story messages whilst preparing and delivering speeches/presentations.						
A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している			
B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している			
C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している			
D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している			
F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない			
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○				
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The module is taught at a pace complementary with students’ ability and progress.						

[教科書] Speaking of Speech – Premium Edition, by Charles LeBeau, Cengage, ISBN: 978-4-86312-385-4	
[指定図書] Not applicable	
[参考書] Not applicable	
[前提科目] Public Speaking I (is preferable, however, it is not a mandatory pre-requisite - 好ましくは、ただし、必須の前提条件ではありませんので。)	
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) Students will be assessed through the following methods: <ul style="list-style-type: none"> - Mandatory assignment(s) - In-class activities (e.g., short team and individual presentations/speeches) - Final project (extended presentation/speech) - Others (attendance) 	
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] The module is taught at a pace complementary to students' ability and progress so that they are not overwhelmed. <ul style="list-style-type: none"> - Students are expected to attend class with the desire to learn. - They must actively participate in all aspects of the lesson. - An expectation for students to complete all assigned tasks, assessed or otherwise, in class or at home (self-study) 	
[実務経歴]	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): Module Orientation & The Foundation of the Physical Message</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Module Outline etc - Physical, Visual, and Story Messages - Slide Design (working with photos and titles) - The Verbal Message (modals) <p>教科書・指定図書 Unit 1a: Posture and Eye Contact</p>

<p>第2回</p>	<p>- テーマ(何を学ぶか) : The foundation of the physical message 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Physical, Visual, and Story Messages - Slide Design (working with photos and titles) - The Verbal Message (modals) - Performance (students prepare and perform a presentation introducing their hometown or a city they recommend visiting) <p>教科書・指定図書 Unit 1b: Posture and Eye Contact</p>
<p>第3回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか) : Supporting your words with physical message 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with multiple images) - The Verbal Message (location) <p>教科書・指定図書 Unit 2a: Gestures</p>
<p>第4回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか) : Supporting your words with physical message 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with multiple images) - The Verbal Message (location) - Performance (students prepare and perform a presentation describing the layout of their ideal campus) <p>教科書・指定図書 Unit 2b: Gestures</p>
<p>第5回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか) : Emphasising key words to help the audience remember 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with text boxes) - The Verbal Message (demonstration) <p>教科書・指定図書 Unit 3a: Voice Inflection</p>
<p>第6回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか) : Emphasising key words to help the audience remember 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with text boxes) - The Verbal Message (demonstration) - Performance (students prepare and perform a presentation demonstrating how to prepare or cook a dish of their choice) <p>教科書・指定図書 Unit 3b: Voice Inflection</p>
<p>第7回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか) : Creating visuals that speak to the audience 内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design - The Verbal Message

	教科書・指定図書 Unit 4a: Effective Visuals
第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Creating visuals that speak to the audience</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design - The Verbal Message - Performance (students analyze the visuals of two presentations) <p>教科書・指定図書 Unit 4b: Effective Visuals</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Explanations that get the most out of your visuals</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (showing comparisons) - The Verbal Message (IEET (Introduce, Explain, Emphasize, and Transition)) <p>教科書・指定図書 Unit 5a: Explaining Visuals</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Explanations that get the most out of your visuals</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (showing comparisons) - The Verbal Message (IEET (Introduce, Explain, Emphasize, and Transition)) - Performance (students research two countries and perform a presentation comparing the two countries) <p>教科書・指定図書 Unit 5b: Explaining Visuals</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Engaging the audience from the start</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (designing interesting introductions) - The Verbal Message (titles) <p>教科書・指定図書 Unit 6a: The Introduction</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Engaging the audience from the start</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (designing interesting introductions) - The Verbal Message (titles) - Performance (students prepare and deliver the introduction of a product comparison presentation) <p>教科書・指定図書 Unit 6b: The Introduction</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Using evidence and transitions to build your message</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with tables) - The Verbal Message (transitions)

	教科書・指定図書 Unit 7a: The Body
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : Using evidence and transitions to build your message</p> <p>内 容:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (working with tables) - The Verbal Message (transitions) - Performance (students prepare and deliver the body of their product comparison presentation) <p>教科書・指定図書 Unit 7b: The Body</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか) : A simple formula for summarising your presentation</p> <p>内 容:</p> <p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Slide Design (making memorable conclusions) - The Verbal Message (conclusions) - Performance (students prepare and deliver the conclusion of their product comparison presentation.) <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Peer Evaluation - Presentation Focus: <ul style="list-style-type: none"> - Physical Message (posture, eye contact, gesture, voice inflection) - Visual Message (ppt slide) - Story Message (presentation structure) - Use of all other presentation skills. <p>教科書・指定図書 Unit 8: The Conclusion & FINAL PROJECT</p>
試 験	No final examination (なし)

[科目名] Writing as a Social Act II		[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシック			
[担当者] 小野寺 進	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] 演習形式			
[科目の概要] The purpose of this course is to enhance students' writing abilities of English and to build up specific English vocabulary and phrases that will help them in their working lives after graduation. Students will practice how to write an English essay. The goal of the class is to facilitate English improvement while generating student enthusiasm.						
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is one of the most important skills for learning English. Improving students' writing skill will serve to develop their English abilities. Active Writing is necessary for students who would like to present their opinion and thoughts to customers and clients. Through this writing course, students are able to practice reading skill.						
[科目の到達目標] The goal of this course is to enhance students' writing abilities. Besides, students will build up their vocabulary in English and acquire its related knowledge.						
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]						
学部				学科		
DP1	DP2 <input checked="" type="checkbox"/>	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher should make an effort to meet the students' needs, based on their progress in class.						
[教科書] Let's Write in English Mode 英語モードが身につくライティング (研究社) ISBN978-4-327-42187-8						
[指定図書] To be announced.						
[参考書] To be announced.						
[前提科目] なし						

[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)	
Students will be graded on submissions of their assignments and examination results.	
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]	
Students should attend every class with preparation for a unit. The teacher has to do his best to offer students wonderful opportunities for developing their English skills and to give them confidence in writing English.	
[実務経歴]	
なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and Writing English 内 容: Section 1主語 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第2回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 2動詞 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第3回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 3形容詞(1) 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第4回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 4形容詞(2) 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第5回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 5副詞 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第6回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 6助動詞 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第7回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 7時制(1)

	教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 8時制(2) 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 9接続詞 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 10単文 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 11重文 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 12複文(1) 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 13複文(2) 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Section 14カンマの使い方 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Review 教科書・指定図書 Let's Write in English Mode
試 験	Examination: Writing an essay.

[科目名] Writing as a Social Act II				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス	
[担当者] 成田 芙美 Narita Fumi		[オフィス・アワー] 時間: To be announced 場所: Room 609				[授業の方法] 講義	
[科目の概要] This course helps students to further improve in writing skills. Students are expected to write as many correct English sentences as they can on familiar topics. In each class, they will learn many practical words and phrases through reading the model sentences in the text. Then they will be required to write about their daily lives and express their opinions on some social issues. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will often be encouraged.							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] For better communication in an international society, it is a great advantage to develop clear English writing skills. With the successful use of these skills, students can make themselves understood in written English. Practice in writing skills also encourages the well-balanced development of students' English ability. In-class activities will prepare students for writing in various situations, helping to make them more confident of their writing skills.							
[科目の到達目標] Students are expected to be able: 1. to increase vocabulary. 2. to use correct English to make themselves understood more clearly. 3. to write about themselves more fluently.							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their writing ability. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.							
[教科書] Manabu Miyata and Joseph Stavoy, <i>Can't Stop Writing</i> [revised] (三修社、2014). ISBN: 978-4-384-33434-0							
[指定図書] None							
[参考書] None							

〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional tasks.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students who practice the following can expect higher grades. 1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class. 2. Attend every class. Assignments and tests will be completed during class sessions. 3. Revise after class the words and phrases one has learned. Students must bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries to class for use in assignments.	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): What is the aim of this course? What will you write? What is important or necessary in this class? 内 容: Orientation 教科書・指定図書 Warm-up Unit
第2回	テーマ(何を学ぶか): Self-Introduction 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 1
第3回	テーマ(何を学ぶか): Self-Introduction 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 1
第4回	テーマ(何を学ぶか): My College 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 2
第5回	テーマ(何を学ぶか): My College 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 2
第6回	テーマ(何を学ぶか): Family and Hometown 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 3
第7回	テーマ(何を学ぶか): Family and Hometown 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 3

第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Pastimes and Hobbies 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 4</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Pastimes and Hobbies 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 4</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Weekends 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 5</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Weekends 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 5</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Friends 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 6</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか): Friends 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 6</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか): High School Days 内 容: Learn from the models and write 教科書・指定図書 Unit 7</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか): High School Days 内 容: Improve what you have written 教科書・指定図書 Unit 7</p>
試 験	Final writing task

[科目名] Essay Writing II		[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン ベーシックス			
[担当者] 江連 敏和		[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: #615			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who try hard to learn more than writing a paragraph. The course is intended to help students build on the fundamentals of writing an essay with using knowledge they have acquired in “Essay Writing I.” The practices and feedback here encourage students to be more competent writers, who can organize their ideas clearly and coherently. During this course, a lot of practices for writing documents will be offered. Furthermore, discussing a broad range of interesting topics is required. These topics strongly stimulate students to improve their reading, listening and analytical skills as well as writing. By the end of the course, students will acquire their own solid methodology of writing successful essays in a coherent and articulate way.						
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is a very essential skill of learning English. Especially for academic writing, we have characteristic manners and process to complete a good essay. During this course, students will learn effective methods to focus on a reader who would like to read your articles and compile the information they need. Writing ability acquired in this course will be surely useful for inspiring students' creativity in situations such as laying out ideas coherently on academic papers, reports, presentations, and so on.						
[科目の到達目標] By the end of this course, students will be able to complete a structured essay in English. A: 80 -100. An outstanding essay, excellent test scores, and valuable contributions to class activities. B: 70 – 79. A good essay, excellent test scores, and valuable contributions to class activities. C: 60 - 69. A good essay, good test scores, and valuable contributions to class activities. D: 50- 59. A good essay, good test scores, and enough contributions to class activities. F: 49 and less. The quality of the essay, test results, and engagement in class activities require improvement.						
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The improvements to this course are below: 1. The teacher should proceed with classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes.						

2. The teacher should solve students' problems and advise them both in class and through office hours.	
3. The teacher should improve students' English ability.	
〔教科書〕 <i>3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language.</i> by Miyama Akiko, Yukishige Mitsuo, Onabe Tomoko, Junko Murao, and Moore Ashley. Kinseido. ISBN: 978-4-7647-4087-7	
〔指定図書〕 To be announced	
〔参考書〕 To be announced	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Daily class performance: 40% (This may include quizzes and other activities, such as writing a draft and peer review practices.) Final test and final draft of your essay: 60 % In addition, some points will be added when a copy of the certificate of Reallyenglish is submitted.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Four Important Rules: 1) Prepare for every class and the final test. 2) Join every class actively and don't be tardy. 3) Submit all assignments. 4) Bring and use dictionaries.	
〔実務経歴〕 None	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation 内 容: What is essay writing? / The logical patterns of writing essays 教科書・指定図書 Unit 1: Key features of academic essay
第2回	テーマ(何を学ぶか): Effective brain storming 内 容: Business communication tools / Using a mind map 教科書・指定図書 Unit 1: Key features of academic essay
第3回	テーマ(何を学ぶか): Making an attractive title 内 容: What is attractive for your readers? / Topic key words Setting subjects and purposes 教科書・指定図書 Unit 2 : Title of your essay
第4回	テーマ(何を学ぶか): Writing an introduction 内 容: What should be included in an introduction? / Background information 教科書・指定図書 Unit 3: Introduction of your essay
第5回	テーマ(何を学ぶか): Writing a body 内 容: Organize paragraphs in a body of your essay / Introduction-Body-Conclusion 教科書・指定図書 Unit 4: Body of your essay

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing a conclusion</p> <p>内 容: Restatement and summary / Paraphrasing</p> <p>教科書・指定図書 Unit 5 Conclusion of your essay</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Dealing with feedback</p> <p>内 容: Check list for feedback / Offering a helpful comment</p> <p>教科書・指定図書 Unit 6: Feedback from others</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Checking the final draft</p> <p>内 容: The list for self-checking / Showing sources (bibliography)</p> <p>教科書・指定図書 Unit 7: Submitting your final draft</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Academic and essay writing styles</p> <p>内 容: Structures of a research paper</p> <p>Using information from previous study</p> <p>教科書・指定図書 Unit 8: Structure of a research paper</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Writing an abstract</p> <p>内 容: The purpose of your essay / Summarizing your essay</p> <p>教科書・指定図書 Unit 9: Key concepts of an abstract</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Practice of writing an abstract</p> <p>内 容: Effective transitional phrases / Cohesion</p> <p>教科書・指定図書 Unit 10: First draft of your abstract</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Editing an abstract</p> <p>内 容: Checklist for reviewing your abstract / Parallelism</p> <p>教科書・指定図書 Unit 11: Rewriting your abstract</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Extract the information from your essay</p> <p>内 容: Which information is essential for your audience?</p> <p>A simple and well-organized presentation</p> <p>教科書・指定図書 Unit 12: Key concepts of presentations</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Using visual aids</p> <p>内 容: Graphs and charts</p> <p>教科書・指定図書 Unit 13: Preparing visual aids</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Finishing your essay</p> <p>内 容: Checking your final draft</p> <p>Using comments from reviewers and referees</p> <p>教科書・指定図書 The review of unit 1-13</p>
試験	<p>Final Written examination (Demonstrated understanding of fundamental principles and successfully submitted the final draft)</p>

[科目名] Essay Writing II (エッセイ・ライティングII)		[単位数] 2 単位	[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシック																					
[担当者] 小野寺 進 ONODERA Susumu	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] 講義・演習																					
[科目の概要] This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who would like to enhance an ability of English through writing. In this course, students are going to learn how to write an essay. By the end of the course, students will be able to write good short essays in a logical way.																								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is one of the most important skills for learning English. Improving students' writing skill will serve to develop their English abilities. Essay writing is necessary for students who would like to present their opinion and thoughts to others. Through this course, students are able to practice reading and analytical skills.																								
[科目の到達目標] The goal of this course is that students will be able to write a short essay in English. A (80 points or above): Students who have acquired the ability to write essays at an excellent level. B (70 to 79 points): Students who have acquired the ability to write essays at a superior level. C (60 to 69 points): Students who have acquired the ability to write essays at a satisfactory level. D (50 to 59 points): Students who have acquired the ability to write essays at a minimal level. F (Below 50 points): Students who are unable to write essays at a minimal level.																								
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">☑</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3			☑				
学部				学科																				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																		
		☑																						
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher should make an effort to meet the students' needs, based on their progress in class.																								
[教科書] <i>Real Writing</i> , by Mariko Kawasaki, Ayed Hasian, Samuel Haugh, Yoko Nakano and Seishirou Ibaraki, NAN'UN-DO																								

〔指定図書〕 To be announced.	
〔参考書〕 To be announced.	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Daily class performance (50%): This includes writing activities and assignments. Short essay writing (50%): Students will submit short essays in a complete form.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students don't use smart phone while writing English. The teacher has to do his best to offer students wonderful opportunities for developing their English skills and to give them confidence in writing English.	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and Writing English 内 容: Explanatory Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: In formation Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Opinion Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 3
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Descriptive Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 4
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Comparative Paragraphs

	教科書・指定図書 Chapter 5
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Contrast Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 6
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Cause and Effect Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 7
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Argumentative Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 8
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Problem and Solution Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 9
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Time-order Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 10
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Process Paragraphs 教科書・指定図書 Chapter 11
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Summaries 教科書・指定図書 Chapter 12
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Five Paragraph Essays 教科書・指定図書 Chapter 13
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Concluding Paragraphs for Essays 教科書・指定図書 Chapter 14
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Writing English 内 容: Effective Ways to Begin an Essay

	教科書・指定図書 Chapter 15
試 験	Submission of short essays.

〔科目名〕 Active Reading Business Genres II (2 限目)		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス				
〔担当者〕 堀江洋文		〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 This is a Business English class that primarily uses online news articles. It is designed for students who are interested in improving their English reading, writing, and listening skills. While the textbook covers a wide range of topics, this particular class will focus on those related to the world of economics, business, and finance. Students will also gain an understanding of global economic and financial systems, as well as the style and structure of English-language journalism that reports on these topics. An assigned textbook is used, along with supplementary handouts that address issues in economy and finance at the international, national, and local levels. The course is delivered online via Zoom in a synchronous and interactive format. However, the instructor plans to hold occasional in-person sessions at APU, the schedule for which will be determined in consultation with the students.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 Students can enhance their ability to communicate in various intercultural business settings by using news articles as a resource for discussion.							
〔科目の到達目標〕 The objectives of this course are to enhance students' general business communication skills as described above.							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The instructor is available to answer any questions students may have. Please feel free to ask about anything that was unclear during the class, whether related to English expressions or topics in global business and the economy.							
〔教科書〕 <i>English for Mass Communication 2025 Edition</i> , Asahi Press 邦題 『時事英語の総合演習 —2025 年度版—』 堀江洋文、小西和久他著、朝日出版社 ISBN: 9784255157306							
〔指定図書〕 None							

〔参考書〕 To be announced when necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on student's attendance and class participation (30%) as well as the results of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken verbally at the beginning of each class. The grading criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 You are expected to have daily access to current news to stay informed about developments in the world of business and finance.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内 容: 教科書・指定図書 handouts
第2回	テーマ(何を学ぶか): Economy 内 容: 'Japan's Stock Market is Booming. It isn't all about the Weak Yen' 教科書・指定図書 Chapter 3
第3回	テーマ(何を学ぶか): Effective Negotiating 内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations. 教科書・指定図書 handouts
第4回	テーマ(何を学ぶか): Economy 内 容: Fast Retailing Ups Profit Forecast Amid Overseas Growth and Yen Depreciation 教科書・指定図書 Chapter 3 Exercise 2
第5回	テーマ(何を学ぶか): Economy 内 容: Vocabulary Buildup The World of English Journalism 教科書・指定図書 Chapter 3
第6回	テーマ(何を学ぶか): Effective Negotiating 内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations. 教科書・指定図書 handouts

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Declining birthrate issue</p> <p>内 容: 'Japan's birth rate falls to a record low'</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Municipalities at risk of extinction</p> <p>内 容: The World of English Journalism</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12 Exercise 2</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Declining birthrate issue</p> <p>内 容: Vocabulary Buildup, The World of English Journalism</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective Negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書 handouts</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Sports</p> <p>内 容: 'The first walk-off pitch clock violation'</p> <p>The Use of Baseball Terminology in Business</p> <p>教科書・指定図書 handouts, Chapter 14</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Sports and Economy</p> <p>内 容: Package tickets with hospitality services</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 14 Exercise 2</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective Negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書 handouts</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Sports and Economy</p> <p>内 容: Vocabulary Buildup, The World of English Journalism</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective Negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書 handouts</p>
試験	<p>Written Exam (60 minutes)</p>

[科目名] Active Reading Business Genres II (3 限目)				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス	
[担当者] 堀江洋文		[オフィス・アワー] 時間: 場所:			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] This is a Business English class designed for students who wish to improve their reading, writing, and listening skills, while also gaining a better understanding of the current global business and financial landscape. ‘Business English’—formerly referred to as ‘English Correspondence’ in the curricula of many university faculties across Japan—was traditionally a writing-focused course that occasionally touched on international business and global economic concepts. Today, however, it encompasses a much broader range of topics, including Economic News English, English for effective business communication (such as telephoning, negotiating, and giving presentations), and conventional business correspondence (writing) skills. This class is designed to cover all of these areas. The course is primarily conducted online via Zoom in a synchronous and interactive (bidirectional) format. However, the instructor plans to hold occasional in-person sessions at APU, ideally once a month. The schedule for these sessions will be decided in consultation with the students.							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] First, this course may help you improve your ability to communicate in English with people from diverse cultural backgrounds, in a variety of real-life situations. Second, the materials covered in this class may prove useful in actual business settings.							
[科目の到達目標] The purpose of this course is to enhance students' general business communication skills, as outlined above.							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The instructor is prepared to answer any questions students may have, so please feel free to ask about anything that may have been unclear or left unanswered during the class.							
[教科書] Kazuhiisa Konishi, <i>The Flow of International Business Correspondence</i> , Asahi Press							

邦題『フローで学ぶ国際ビジネス英語』小西和久著、朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15228-8	
〔指定図書〕 None	
〔参考書〕 Announcement to follow if/when necessary.	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on student's attendance and class participation (30%) as well as the results of the final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be recorded verbally at the start of each class. The evaluation criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students are expected to have daily access to the latest economic news to stay updated on what's happening in the world economy.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内 容: Review: Basic English correspondence skills (style and format of business letter, etc.) 教科書・指定図書 Appendix at the end of the textbook
第2回	テーマ(何を学ぶか): Review of the spring semester 内 容: marketing, inquiry (マーケティングと引き合い) 教科書・指定図書 Chapters 1, 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Review of the spring semester 内 容: Offer and counter proposal 教科書・指定図書 Chapter 3
第4回	テーマ(何を学ぶか): Effective negotiating 内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations. 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): Review of the spring semester 内 容: Conclusion of a sales contract 教科書・指定図書 Chapter 4

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): Review of the spring semester</p> <p>内 容: Issuance of an irrevocable confirmed letter of credit</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Payment methods</p> <p>内 容: L/C, check (cheque), telegraphic transfer, etc.</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 5</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Shipping schedule</p> <p>内 容: Request to advance the shipping schedule</p> <p>教科書・指定図書 Chapters 6, 7</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): Loss or damage to the products. Wrong delivery</p> <p>内 容: Handling of mis-shipped items: selling through at a discount</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Research on market situations</p> <p>内 容: Report on Market Trends and Sales Performance</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 9</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Conclusion of an exclusive distributorship agreement</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective negotiating</p> <p>内 容: Watch a video on how to conduct effective business negotiations.</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Promotion and staff reassignment</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 12</p>
試験	Written exam (60 minutes)

[科目名] English Grammar and Usage II				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス		
[担当者] 成田 芙美 Narita Fumi			[オフィス・アワー] 時間: To be announced 場所: Room 609			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] This course is designed for students who need to further improve their understanding of English grammar. In each class, students will focus upon one main point of grammar through various exercises. Question formats similar to those used in the TOEIC® test are often adopted, in order to help students familiarize themselves with the test. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will be encouraged to make sure that students revise important grammatical structures and functions.								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] It is important for English learners to be able to understand grammar rules well and to be trained in their correct use. With improved grammatical knowledge, students can achieve a better understanding of both spoken and written English. Effective usage boosts confidence in second-language ability and enables one to make oneself more clearly understood. In these senses, the study of grammar is an essential building block. Through this course, dealing with TOEIC® format questions, students may become more interested in their success on the test, which is popular in the Japanese business world. Their better scores will increase their chances of working for a company of their own choice.								
[科目の到達目標] Students are expected to be able: 1. to comprehend the significance of grammar rules 2. to understand fundamental grammar points 3. to achieve a better understanding of written English. Students will be encouraged to take the TOEIC® test and to improve their scores.								
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
		○						
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The instructor will strive to offer students what is necessary for them to understand and use grammar more effectively. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may affect the class schedule shown on the following pages.								

<p>〔教科書〕 A. S. Calcote, Kouichi Iwasaki, Nobuo Sakikawa, Mari Daito, Kunihiko Yagasaki, <i>Essential English Grammar for TOEIC® Test</i> (南雲堂, 2015). ISBN: 978-4-523-17785-2</p>	
<p>〔指定図書〕 None</p>	
<p>〔参考書〕 To be announced when and if necessary</p>	
<p>〔前提科目〕 None</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. At the end of the course, students will sit for a final examination. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional homework.</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students who practice the following can expect higher grades. 1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class. 2. Attend every class. Assignments and important tests will be completed during class sessions. 3. Revise for the final examination. Students must bring an English-Japanese dictionary to class for use in assignments.</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): What is the aim of this course? What is important or necessary in this class? 内 容: Orientation 教科書・指定図書 Unit 1</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Parts of speech 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 2</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Comparisons 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 3</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Participles 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 4</p>

第5回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Participial constructions 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 5
第6回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Conjunctions 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 6
第7回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Prepositions 1 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 7
第8回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Pronouns 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 8
第9回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Relatives 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 9
第10回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Tenses 1 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 10
第11回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Tenses 2 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 11
第12回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Second and third conditionals 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 12
第13回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: The passive 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 13
第14回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Prepositions 2 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 14
第15回	テーマ(何を学ぶか): Grammar point: Infinitives 内 容: Exercises and explanations 教科書・指定図書 Unit 15
試 験	Final examination on paper

〔科目名〕 English Grammar and Usage II		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス			
〔担当者〕 堀江洋文		〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 This class is designed for students interested in improving their English reading, writing, and listening skills, as well as deepening their understanding of English grammar. Grammar should be learned in context, and in this course, the focus will be on grammar within the context of news English. The assigned textbook covers a wide range of subjects, including business and economics, military affairs, culture and society, rule of law and the courts, science and technology, and sports, with an emphasis on cross-cultural awareness. Students will learn strategies for reading news articles effectively, with special attention to grammatical issues. The instructor will occasionally use style guides, manuals used by journalists that provide rules on style and grammar for writing news articles. This is primarily an online course conducted via Zoom, which is synchronous and interactive (bidirectional). However, the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, ideally once a month. The schedule for these sessions will be decided in consultation with the students.						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 Students may enhance their knowledge of English grammar and improve their ability to read news articles. This, in turn, helps them stay up to date with the latest developments worldwide.						
〔科目の到達目標〕 The purpose of this course is to improve students' grammatical knowledge and overall communication skills, including reading and writing, as well as to enhance their understanding of current world affairs.						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The instructor is ready to answer any questions from students. Please feel free to ask about anything that you feel was left unanswered during the class regarding English grammar and expressions.						
〔教科書〕 <i>English for Mass Communication 2025 Edition</i> , Asahi Press 邦題 『時事英語の総合演習 —2025 年度版—』 堀江洋文、小西和久他著、朝日出版社 ISBN: 9784255157306						
〔指定図書〕 None						

〔参考書〕 Details will be announced as necessary. Handout materials will be provided, including excerpts from style guides of several newspapers and news agencies.	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on students' attendance and class participation (30%), as well as the results of the final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be recorded verbally at the start of each class. The evaluation criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students are expected to have daily access to the latest news, which will help them stay informed about what's happening in the world. Please take note of any grammatical issues you are not familiar with.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): Diplomacy and International Conferences 内 容: 'G7 leaders end summit with warning to China' The World of English Journalism (Review) 教科書・指定図書 Chapter 4
第2回	テーマ(何を学ぶか): Diplomacy and International Conferences 内 容: 'China's growing military and economic influence in Pacific island countries' The World of English Journalism (Review) 教科書・指定図書 Chapter 4 Exercise 2
第3回	テーマ(何を学ぶか): Diplomacy and International Conferences 内 容: Vocabulary Buildup, Effective negotiating (DVD) 教科書・指定図書 chapter 4
第4回	テーマ(何を学ぶか): State of International Politics 内 容: 'US President Joe Biden ends reelection bid' 教科書・指定図書 Chapter 6
第5回	テーマ(何を学ぶか): State of International Politics 内 容: 'Marine Le Pen's National Rally (RN)' The World of English Journalism (Review) 教科書・指定図書 Chapter 6 Exercise 2
第6回	テーマ(何を学ぶか): State of International Politics 内 容: Vocabulary Buildup, Effective negotiating (DVD) 教科書・指定図書 Chapter 6
第7回	テーマ(何を学ぶか): Crime and criminal cases 内 容: 'Chinese overseas police station in Tokyo raided over benefit fraud' 教科書・指定図書 Chapter 8

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): Crime and criminal cases</p> <p>内 容: 'Special fraud cases'</p> <p>The World of English Journalism (Radio news reporting)</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8 Exercise 2</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): Crime and criminal cases</p> <p>内 容: Vocabulary Buildup, Effective negotiating (DVD)</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 8</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): The World of English Journalism</p> <p>内 容: Passive verbs, Redundancy</p> <p>教科書・指定図書 The World of English Journalism</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): Global Environmental and Climate Concerns</p> <p>内 容: 'Paris is aiming for the most sustainable Olympics yet'</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): Global Environmental and Climate Concerns</p> <p>内 容: 'Global warming'</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10 Exercise 2</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): Global Environmental and Climate Concerns</p> <p>内 容: Vocabulary Buildup, Effective negotiating (DVD)</p> <p>教科書・指定図書 Chapter 10</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): The World of English Journalism</p> <p>内 容: Long wordy sentences, Jargon and Journales (a style of writing often used in journalism that includes clichés, jargon, sensationalism, and formulaic phrases).</p> <p>教科書・指定図書 The World of English Journalism</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): Effective negotiating (DVD)</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	Written exam (60 min.)

[科目名] プレゼンテーション		[単位数] 2単位	[科目区分] アカデミック・コモンベ ーシックス																					
[担当者] 植田栄子(てるこ)	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] 講義・発表																					
[科目の概要] プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力UPをめざす。 主として以下の内容: 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声的ポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己PR 5) プレゼンテーションの評価(「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。																								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータもAIも変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは; 1)どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2)ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。 3)就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4)良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、意見をわかりやすく、相手に伝えられ説得力が増すのです。																								
[科目の到達目標] A 授業運営に積極的に参加し、2回のクラス発表が特に優秀な水準で達成している。B 授業運営に積極的に参加し、2回のクラス発表が優秀な水準で達成している。C 授業運営に参加し、2回のクラス発表が必要な要件を満たして達成している。D 授業運営に参加し、2回のクラス発表のいずれかが必要要件を満たしている。 F 発表を行っていない。																								
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		○	○	○			
学部				学科																				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																		
	○	○	○																					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] よりきめ細やかな個人指導とグループでの振り返り、各発表へのフィードバックを引き続き行なっていく。																								
[教科書]																								

〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業中の2回の発表(レジュメ、パワーポイント) ・授業中での積極的な質問や討論への参加 ・期末レポート提出	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 実践的に学べるように、初回から徐々に必要なプレゼンテーションの知識を能力が身につくようになります。そのためには必ず課題をこなし、自分の発表はもちろん、他の人の発表を分析的に聞いていくことが重要です。また、フォーマルな場として敬語表現を意識して使用していきます。	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経歴)等を活かしプレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて実践的に学びます。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析。
第2回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考 DVD を視聴。
第3回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的
第4回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ
第5回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p> <p>*これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点。</p> <p>*参考となるDVD視聴</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習①</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p> <p>*ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(405)で実施予定。*スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習②</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤</p> <p>内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第15回	<p>全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。</p> <p>スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。</p>
試験	<p>授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料内容、提出するコメントシート、授業内での質疑応答、プレゼンテーションを視聴して分析レポートを提出、以上により総合評価を行う。</p>

〔科目名〕 情報と経済社会			〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン ベーシクス	
〔担当者〕 深田 秀実		〔オフィス・アワー〕 時間:第 1 回講義の際にお知らせします 場所:618 研究室			〔授業の方法〕 講義, 演習	
〔科目の概要〕 <p>経済社会を支える企業情報システムは、情報システムが必ずしもコンピュータ中心のシステムではないことを認識することが重要で、人間活動との関わりの中で運用されている。</p> <p>そこで、本講義では、企業活動の基礎的な仕組み等を理解し、そのうえで経済社会を支える企業情報システムに関する基礎的な内容を学ぶ。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>近年、人工知能(AI)の驚異的な発展に伴い、社会が変化している。それに伴い、企業の活動も大きな変化が求められている。</p> <p>そこで、本講義では、経済社会を支える企業情報システムに関する基礎的な内容を学び、専門科目での学習や実社会での活動に活かすための基礎力を身につけることを重視する。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>(1)企業の仕組み等に関する基礎的な内容を説明できる。</p> <p>(2)経済社会を支える企業情報システムに関する基礎的な内容を説明できる。</p>						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>本授業の担当教員は新任のため、本学の学生による授業評価はまだ無いが、前任の大学における履修学生からの評価を鑑み、授業での話すスピードや声の音量に関して、履修学生が聞き取りやすい説明を心がけます。</p>						
〔教科書〕 教科書は使用せず、資料を配布する。						
〔指定図書〕 津田 博(編著):『パナソニックに学ぶIT業務システム入門』, 中央経済グループパブリッシング (2024)						
〔参考書〕 必要なときに提示する						
〔前提科目〕 なし						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題に対する最終レポートにより評価する。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <ul style="list-style-type: none"> 本講義を受講する学生は第 1 回目の授業に出席して下さい。授業の目的や成績評価について説明します。 なお、本シラバスの内容と講義での説明に差異がある場合は、講義中の説明が優先されます。 						

〔実務経歴〕

実務経験がある。(本授業の担当教員は、情報システムや情報セキュリティに関する実務経験がある。具体的には建設省土木研究所(現 国立研究開発法人 土木研究所)勤務時にメインフレームを用いたプログラム開発の経験がある。

授 業 スケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容: シラバスを基にした本講義の概説 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):会社の設立 内 容:起業の動機と目的 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):業務のしくみ 内 容:業務プロセスの基本概念 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):組織の仕組み 内 容:組織図と階層構造 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):経営理念 内 容:企業理念の意義と役割 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):会社の変革 内 容:組織変革の必要性 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):経営と情報システム 内 容:企業情報システムの基本概念 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):情報システムとは 内 容:情報システムの定義 教科書・指定図書:資料を配布予定
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):企業情報システムの事例 内 容:小売店におけるシステムの事例 教科書・指定図書:資料を配布予定

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業経営と情報システム</p> <p>内 容:経営戦略と情報システム戦略の連携</p> <p>教科書・指定図書:資料を配布予定</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):業務プロセスとモデル化手法</p> <p>内 容:業務プロセスの可視化</p> <p>教科書・指定図書:資料を配布予定</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報システムの開発計画</p> <p>内 容:要件定義から運用まで</p> <p>教科書・指定図書:資料を配布予定</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報システムの調達</p> <p>内 容:システム導入の策定</p> <p>教科書・指定図書:資料を配布予定</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業情報システムの変遷</p> <p>内 容:単純な計算処理から企業の競争力を支えるシステムまで</p> <p>教科書・指定図書:資料を配布予定</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:これまでの講義内容を振り返り、企業情報システムの本質を考える</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>期末試験は行わず最終レポートを課す</p>

〔科目名〕 哲学Ⅱ		〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第1群)		
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihito		〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始時に指示する 場所:613 研究室		〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 現代哲学の主要なトピックをとりあげ、そこでとり沙汰される諸事象について、それらがどのような意味で哲学の問題として問われているのかを吟味し、考察をすすめる。こうした「事象」と「問い」の吟味と考察をとおして、われわれの世界経験についての理解を掘り下げてゆきたい。国内外の哲学者の著作のなかからテキストを抜粋して読解をおこない、「思考」、「世界」、「自己」、「身体」、「他者」、「贈与」、「生死」といった諸概念を、日常の具体的な経験に即して捉えなおすことへと向かう。哲学とは「問い」の提起であり、「問い」を提起することは、哲学の歴史を担う運動である。ただ概念を受容することにとどまらず、その意味を再考し、表現にもたらし、また、あらたな「問い」を提起するという本来の哲学の営為に参加することへと向かいたい。						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 春学期の「哲学Ⅰ」は西洋哲学の歴史を軸としたベーシックな講義である。それに対し、この秋学期の「哲学Ⅱ」は現代哲学のトピックともなる諸問題の考察を軸として展開する。哲学は「知を愛する」ということ、つまり事象についてのあくなき探求を意味する。探究という、そのこと自体は、もちろんどのような分野にも共通する学究の根本的な態度にほかならない。それぞれの学問の根本には問いがある。その意味では、哲学の営みは、いかにも素朴な知の探求のようにもみえる。大切なことは、自分自身の問いをもち、事象の核心に向かい、根本に遡って探求をすすめることであろう。そうした機会は、じつは日常生活のなかには、とても少ない。だが、それこそが学問の本来であるだろう。 哲学に固有の「問い」とは何だろうか。そう思われるかもしれない。ここで、先ずもって気づかなければならないことは、学問領域の区分や棲み分けなどが問題ではないということだ。むしろ、これまで十分に考えずにきてしまったこと、これまで問わぬままに過ごしてきた事柄に探求の目を向けること、それこそが肝要な点であろう。この授業が企図するところは、そのように自らのうちに生起する「問い」を掘り起こすことである。受講者もまた、既存の学説や概念を習い覚えるだけでなく、自ら考えることを楽しみ、自分の「問い」を見出すことを試みて欲しい。						
〔科目の到達目標〕 取りあげられている哲学の「概念」、核心にある「問い」の意味を理解し、関連する文献を読み解き、解釈することができる。学び覚えた思想や概念をふまえ、「問い」を吟味し、仕上げ、提起することができる。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
			○			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 日頃の学びの過程で、あるいは授業の予習復習として各々がじっくり考える時間を確保して下さい。素朴にみえる哲学の問いも、掘り下げて考察をすすめれば、難解さや複雑さは当然ともなうこととなります。そうした考察を、哲学を学ぶ面白さに変えていくことができるよう努力を重ねていきます。要望に応じて、履修者数の制限を撤廃しました。大教室で対話形式の授業をおこなうことは難しいとしても、ワーキングシートの内容は、できるだけ共有できるように工夫していきます。持込無しの試験をおこないます。遅刻や出欠について厳しく確認します。						
〔教科書〕 使用しない。プリントを配布する。						
〔指定図書〕 なし						
〔参考書〕 『わからなさを生きる哲学』、岡山啓二、亜紀書房、2022 年 『贈与の系譜学』、湯浅博雄著、講談社、2020 年						

『発見術としての学問』、塩川徹也、岩波書店、2010年

その他、授業のなかで紹介する。

〔前提科目〕

前提科目はない。春学期に開講の「哲学Ⅰ」と秋学期に開講の「哲学Ⅱ」は、各々が独立に完結する授業であり、どちらを先に履修してもよいし、どちらか一方だけを履修してもよい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

全体の五分の四以上の出席を評価および単位取得の前提とする。

ワーキングシートの論述内容、授業内の活動や発言(50%)、期末の筆記試験(50%)

期末試験やワーキングシートの内容の評価に関しては、とりあげる思想や概念の正確な理解、問題設定の受けとめ、考察の掘り下げ、という三つの観点を基本として測る。

期末試験の実施方法は、筆記試験(記述式、持込不可)とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

哲学には独特の難しさがあると思われるかもしれない。しかし、言葉や事柄そのものの難しさを、ひとつひとつ解きほぐしながら考える作業こそが哲学の営みであり、この考える作業を味わうことこそが、哲学への最良のアプローチの仕方だろう。自ら考え、自ら問いをもつことを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。

授業各回のスケジュールや扱う内容は、参加者の関心や進行状況に応じて変更することがある。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 哲学はどのような学問か 内 容: オリエンテーション、授業の趣旨と進め方、学習の課題と評価についての説明 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 「考えること」を考える 内 容: 「問うこと」と「考えること」、ワーキングシートの使い方 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学① 内 容: 贈与がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学② 内 容: 贈与と交換 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学③ 内 容: お菓子と悪戯 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学④ 内 容: 生命と循環の思考、ワーキングシート仕上げ

	教科書・指定図書
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学① 内 容:私がなぜ哲学の問題になるのか</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):自己知についての哲学② 内 容:沈黙と表現、独我論と世界概念</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学① 内 容:身体がなぜ哲学の問題になるのか</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):身体についての哲学② 内 容:身体と衣服とファッション、ワーキングシート仕上げ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):生と時間についての哲学① 内 容:生きられる時間</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):生と時間についての哲学② 内 容:生きることと気晴らし</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):生と時間についての哲学③ 内 容:老いについて</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):生と時間についての哲学④ 内 容:メモトモリ、ワーキングシート仕上げ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括 内 容:補足とまとめ、哲学とは何か</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末試験の実施方法は、筆記試験(記述式、持込不可)とする。</p>

[科目名] 宗教哲学				[単位数] 2単位	[科目区分] 教養科目(第1群)		
[担当者] 木鎌耕一郎		[オフィス・アワー] 時間:授業時間前後 場所:教室			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] 本講義は、宗教学が扱う基礎的な諸概念を理解した上で、日本の宗教・宗教観や宗教と文芸についても触れつつ、最後に西洋の宗教思想、なかでもユダヤ教とキリスト教の宗教思想における主要な諸問題を扱います。ユダヤ教・キリスト教に関する知識は、皆さんが専門的に学修する社会科学の分野においても有用な場合が多いと思います。キリスト教はユダヤ教の宗教的伝統の中から成立し、ギリシャ哲学、ヘレニズム思想の影響を受けてヨーロッパを舞台に展開し、哲学思想のみならず文化、芸術、社会制度に至るまで様々な影響を遺しています。本講義では、宗教思想の諸問題を、それらが生じた具体的な時代状況や社会的文脈を解説しながら考えていきます。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 国際社会や地域社会で、多様な立場や価値観に基づく対立や分断が見られる中で、異なる価値観を持つ者が存在することを知り、自らがその直中に共に生きていることを知り、互いに尊重し、自然界における人間の分際を弁えることは、極めて重要な現代的要請です。そのような姿勢は、大学での学びを経て、社会の様々な場面で活躍する「教養人」として期待される資質のひとつでもあります。							
[科目の到達目標] ・宗教学が扱う基礎的な諸概念を理解し、説明できる。 ・日本の宗教、日本人の宗教観の概要を理解し、説明できる。 ・ユダヤ教とキリスト教の宗教思想の基礎知識を身につけ、基本的な概念について説明できる。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 昨年度の授業評価はどの項目も概ね良い評価となりほっとしている。スライドの変換が早いという意見があったため気をつけたい。							
[教科書]なし							
[指定図書]なし							
[参考書] ・石井研士『プレステップ宗教学』弘文堂 ・加藤隆『一神教の誕生：ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書 ・北森嘉蔵『聖書と西洋精神史』教文館 ・市川裕『ユダヤ教の歴史』山川出版社 ・竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社							
[前提科目]なし							

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義期間中に複数回課すテストの点数を総計して評価します。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習として、シラバスを参考に、用語の意味等を調べておくとう理解度が深まるでしょう。 ・受講環境を保持するために、退室を願うことがあります。 ・質問は授業中であっても歓迎します。 	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 宗教の起源 内 容: 考古学的成果に見る宗教の萌芽、19 世紀の宗教研究、アニミズム 教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 神話 内 容: 神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、神話批判 教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):: 儀礼 内 容: 宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、通過儀礼(イニシエーション) 教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本人の宗教観 内 容: 宗教統計調査、宗教意識の国際比較 教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の宗教概観 内 容: 神道の二面性、仏教の伝来、神仏習合 教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国教制度と政教分離 内 容: 西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離 教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 諸宗教の礼拝形式 内 容: 祈りの表現、神道、仏教、イスラム教(六信五行)、ユダヤ・キリスト教の時間感覚、祝祭日 教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋文学とキリスト教 内 容: ダンテ、神曲、煉獄、キリスト教の死生観 教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本文学にみるキリスト教の受容 内 容: 開国後の日本宣教、キリスト教と出会った文学者、芥川龍之介、遠藤周作、他 教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 聖書の成立史・翻訳史 内 容: 聖書の言語・構造、近代語への翻訳、日本語聖書 教科書・指定図書</p>

第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教の正典(ヘブライ語聖書)の構造と思想</p> <p>内容:ユダヤ教成立史、契約、天地創造、アダムとエバ、ノアの方舟</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか):キリスト教の正典(旧約聖書・新約聖書)の構造と思想</p> <p>内 容:キリスト教成立史、善きサマリア人のたとえ話、原罪</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユダヤ・キリスト教思想と東洋的人間観・自然観の比較</p> <p>内 容:キケロの人間観、聖書の人間観と自然観、日本人の自然観、罪の文化と恥の文化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の関係史</p> <p>内 容:ディアスポラ、置換主義神学、反ユダヤ主義、反セム主義、ハスカラ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の宗教間対話</p> <p>内 容:宗教間対話、第二バチカン公会議、教皇庁文書の検討</p> <p>教科書・指定図書</p>

[科目名] 文学と人間				[単位数] 2単位		[科目区分] 教養科目(第1群)			
[担当者] 横手一彦				[オフィス・アワー] 時間:講義開始後に指示 場所:616 研究室			[授業の方法] 講義		
<p>[科目の概要] この講義は、次の二つを軸として展開する。一つは、日本近代文学を概観し、その特徴を大まかに分析する。作品を読み、時代との関わりや情知の形成過程を考え、その動態を考察する。その過程から、個人に関わる基本的項目や要件を見出し、個別的に再考する。このことを目的とする。</p> <p>個人の構想力(想像力)は、近代化(欧米化)の過程に随伴し、そこに範を置きながらも、多様な人間、様々な思考、錯綜した行動を描いた。それらは、必ずしも道徳的な尺度や倫理的な基準に拠らず、そこからこぼれ落ちる要因に関心を向けた。明治という時代の特異性や、明治という時代に生きた夏目漱石の作品を具体的に考察する。</p> <p>もう一つは、北東北の地域性を視野に入れ、個別の文学作品や映像作品を考察する。このことを目的とする。新田次郎の文学作品『八甲田山死の彷徨』と映画作品「八甲田山」と八甲田連峰、水上勉の文学作品『飢餓海峡』と映画作品「飢餓海峡」と下北半島、松本清張の文学作品『砂の器』と映画作品「砂の器」(——必見に値する映画作品・脚本家橋本忍)と津軽半島などの地域性をテーマとして設定する。</p> <p>また、太宰治の文学作品『津軽』を部分的に取り上げたい(あるいは津軽三味線の始祖・仁太坊)。地に根差し、北東北の現実に生きた人間の記録を、異なった表現形式を組み合わせ、対比的に、また連続的に考察する。ことばによる理解と表現。また、映像による理解と表現。それらが重複する領域を焦点化し、いまの私たちが立つ地点の再考に及びたい。</p>									
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか]</p> <p>私たちは、学び、考える。行動し、時には個人的な、社会的な批判を受ける。あるいは、評価される。現代では、その主体性という考えを否定する見方もある。しかし〈自分〉が基点であり、〈自分〉を起点とする在り方への考察であることに変わりない。要は、本講義の関心からすれば、ことばによる「理解」と「表現」である。それらの意味を考え、記述するという実践をおこなう(記述的科学と方法定位的科学の区分)。私たちが立っている、いまという時空間を考え直すため、近代化という過程を再検討する。そして、新たな全体像を、個の側から再構想する。その未達と到達、形式の交差と離反などを、文字表現の分析を通じ、その一部であるが、読み解く。文字は、その生成時から、全く人間的なものであり、そこに特定の関係性が自ずと生み出された。〈自分〉の在り方は、生きている〈自分〉の現実に関わる。そこに派生する疑問を、個別作品を分析しながら、教場で考えたい。そのような課題設定は、他科目を学ぶ〈自分〉の在り方や〈学び〉との関わり方へと自ずと広がる。</p> <p>※時間割表に、同一科目名「文学と人間」が二つ配置されている。より適切な受講者数で、教室での個々の応答を大切にしたいという主意による。同一科目名の二つを受講することはできない。</p>									
<p>[科目の到達目標] これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶ〉パターンに触れ、幾つかの要点を習得することで、〈自分〉が〈自分〉を考え、〈自分〉が〈自分〉のことばで、「理解」し「表現」する大切さに及ぶ。</p> <p>「文学」は、人文科学に属する学問領域である。特定の課題を言語化する能力、言語化による「理解」と「表現」、記述的科学の実践、それらの習得を到達目標とする。</p>									
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]									
学部				学科					
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3			
	○								

<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の積極的な提案に向き合いたい。しかし要望の総てに応えることは出来ないし、要望の総てが〈学び〉に根拠を持つとも限らない。〈学び〉に根拠を持たないと思われる要望や意見には応じられない。時には受講生との意見交換が必要になる。受講態度や講義内容や進め方等に関しては留意する。</p> <p>昨年と同様に、対話型の講義を基本に進行する。受講生の関心を勘案し、昨年度より視覚教材を多く取り入れた授業計画とした。適宜、プリントを配布し、概要や要点などを明示する。</p>	
<p>〔教科書〕 特に指定しない。</p>	
<p>〔指定図書〕 特定の書籍を指定しない。配布した資料や文書の通読を求める。また文献等を紹介する。</p>	
<p>〔参考書〕 講義の進展に伴い、適書を指示する。また、参考文献を紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 なし。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 近代文学の作品が、日本近代化の諸相を、どのように描いたか。この概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 日本の近代化の諸相を、近代文学の作品が、どのような行為として描いたか。この変化の概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、現在の様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義への導入 「文学」を学ぶということ 内 容 :始めに——自己紹介・受講要件の確認・受講態度等・講義の概略・学生の要望 : 講義の導入 1(例. ことばの基本形) 講義の導入 2(例. 八甲田山) 教科書・指定図書 都度、適書を紹介し、講義の進行に合わせて参考資料などを配布する。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の近代文学 内 容:坪内逍遙「小説神髓」の位置 近世からの転倒(あるいは進展) 初期理論の確立 :二葉亭四迷「小説総論」との比較 教科書・指定図書 同上</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 1 内 容:西洋の受容——英文学者夏目金之助と作家夏目漱石 公私に生きる 〈私〉に生きる 教科書・指定図書 同上</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 2 内 容:西洋の受容——例. 夏目漱石「坊ちゃん」 学校教育制度 立志 制度と個 教科書・指定図書 同上</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 3・明治期の折り返し 内 容:講義の前半に立ち返る／講義の到達点と未達点／講義中に小レポート作成 展開の諸相——例. 森鷗外「舞姫」 新婦朝者 外側と内側の相克 〈公〉に生きる 教科書・指定図書 同上</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 4 内 容:展開の諸相——例. 樋口一葉. 与謝野晶子. 山川登美子. 女性の表現者たち 女性として. ≦ 人として. 生き方と生活と表現活動</p>

	教科書・指定図書 同上
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域性から考える——太宰治 / 仁太坊(津軽三味線)</p> <p>内 容: 地域との関わり</p> <p>例. 太宰治『津軽』 太宰治と津軽 津島修治 / 仁太坊(津軽三味線)</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 1</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>例えば——水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島 その1</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 2</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 例. 水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島 その2</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 3</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島 その1</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 4</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島 その2</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 5</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 例. 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の成立 映画「八甲田山」製作 その1</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 6</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の分析 その2 脚本家橋本忍</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 7</p> <p>内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く</p> <p>: 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』まとめ その3</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ</p> <p>内 容: 通史と通論という思考 話す. 聞く. 読む. 書く. 人間的な行為 (人である・人になる・人となる) 文字化という行為(言語化) ことばによる「理解」と「表現」</p> <p>教科書・指定図書 同上</p>
試験	<p>期末試験実施(受講者数や関心の在り方などから期末レポート提出とすることもある・教場で指示)。</p>

[科目名] 法律と人間				[単位数] 2単位		[科目区分] 教養科目(第2群)	
[担当者] 小林直樹			[オフィス・アワー] 時間: 適宜(※要事前連絡) 場所: 612			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] <p>私たちは、法と無関係に生活することはできません。つまり、日常生活のあらゆる場面が法と結びついているということです。そのため、法に則って行動することでトラブルを回避し、安心して生活することができるのです。しかし、法から逸脱するならばトラブルに巻き込まれ、人の権利を侵害する加害者となり、反対に、権利を侵害される被害者になることがあります。それゆえ、社会経験の浅い若い人ほど、法を学ぶ意義は大いにあります。もっとも、法を学ぶ意義はトラブルの回避に限りません。私たちは、社会の公共的利益(例えば、環境保全や景観の保持、少数派の人たちの人権の保障)を実現するために法の制定に関わらなければならないときもあります。そのためにも法を学ぶ意義があります。</p> <p>本講義では、教養としての法の知識を修得し、その「考え方」を修得することを目的とします。とりわけ、中学・高校の公民や現代社会・政治経済で学んだ知識を基盤としつつ、日本国憲法およびそれに関連する法(法律や条例、または国際法規)について、報道番組や新聞記事等の具体的事例を通じて理解を深め、実生活において、教養としての法や法律の「考え方」を実践できるようになることも目的とします。</p>							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>本講義の目標は、教養としての法や法律の「考え方」を修得することです。</p> <p>法や法律は、社会の骨格の一部であることから、時代や国・地域の文化などの影響を受け、また、社会現象(自然環境の維持や動物の福祉、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方、生命倫理、情報化社会における個人情報保護、AIの進化、企業と人権問題、難民問題等)に影響を受けて変化します。とりわけ、多様化する社会においては、興味関心のある分野(自然科学・人文科学)を学びつつ、併せて法や法律の「考え方」、更には権利や人権の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、教養としての法や法律の「考え方」を一層深化させ、多様な「考え方」(複眼的見方)を修得できると考えます。</p>							
[科目の到達目標] <p>4点(①“法や法律の「考え方」(学説や裁判例)を理解する”、②“法や法律の「考え方」を理解したうえで、説明できるようになる”、③“法や法律の「考え方」を理解し、説明できるようになる”、④“①～③をもとに、社会における法的な問題について、自分の考えを自分の言葉で説明できるようになる”)を重視し、評価をします。</p>							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>昨年度に引き続き、レジュメを配布し、映像や新聞記事を通じて法や法律の「考え方」を修得できるよう講義を組み立てていくことにしますが、講義はあくまでも前述の目標を達成し、さらなる修学に踏み出せるよう基本的な知識の修得がメインとなります。新聞記事などの資料は必要と考えて付しています。読むようにしてください。</p> <p>授業評価アンケートでは期末試験対策に関するコメントが見受けられました。しかし、講義は法や法律の考え方を理解し、それを身につけて将来に活用できるようになることを主眼に組み立てています。テストの結果を重視する学びは高校までであって、大学生が結果に執着するのは稚拙です(大学は小中高の塾や予備校ではありません)。試験の結果ばかりに拘らず、将来に活かせるよう更なる修学を望みます。</p>							
[教科書] <p>とくに指定しません。必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。</p>							
[指定図書] <p>小川富之ほか『ロードマップ法学』(一学舎、2016)</p>							
[参考書] <p>遠藤研一郎『はじめまして、法学 第2版 身近なのに知らなすぎる「これって法的にどうなの?」』(ウェッジ、</p>							

2023)、田中成明『法学入門〔第3版〕』(有斐閣、2023)、吉田利宏『元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学ぶ技術〔改訂第4版〕』(ダイヤモンド社、2022) 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕-- How to study the Law』(有斐閣、2016)など。

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

講義に出席しただけでは、学んだことが知識として定着することは困難と考えます。**1回の講義につき予習・復習を行い(4時間程度)**、全15回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。また、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます(何らかのペーパーの提出もあり得るかもしれません)。**原則、定期試験100%により評価を行います**が、**欠席が3分の1を超えたとき受験を認めません**。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義で学ぶ内容は、社会の出来事、つまり社会現象と無関係ではない法や法律に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、実社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、教養としての法や法律を学ぶことにつながるからです。

また、前記「評価の方法」と「評価の基準」において触れたように、講義中、受講生に質問することが少なくありません(正解・不正解は問いません)。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言や応答を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいと思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して受け身になるのではなく、教員とのコミュニケーションや他の受講生とのコミュニケーションを積極的におこない、講義が自己の成長発達となることを意識して受講してほしいと考えます。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション——社会における法・法律の役割——</p> <p>内容: 法・法律が私たちの生活とどのようにかわるのかについて、私たちがよく知る物語を素材にして理解します。</p> <p>教科書・指定図書 初回にレジュメを配布する。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 法学の基礎①——法とは何か——</p> <p>内容: 第1回のテーマを踏まえ、「法とは何か」ということをさらに掘り下げて学びます。すなわち、私たちを取り巻くルール・社会規範について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 法学の基礎②——法の発展と法の領域——</p> <p>内容: 第2回のテーマを踏まえ、社会における法の発展について概観し、体系化した近代法の下での法領域(公法と私法)について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 法学の基礎③——法の解釈とその技法——</p> <p>内容: 第3回のテーマを踏まえ、法の適用と法解釈の技法すなわち、多種多様な法解釈について学び、法の考え方を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 憲法を学ぶ①——憲法総論——</p> <p>内容: 国家統治の基本法である憲法の基本原理について学び、憲法の存在意義、その特徴について学びます。また、基本的人権の保障および統治の原理の変遷、立憲主義を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>

第6回	<p>テーマ（何を学ぶか）：憲法を学ぶ②——基本的人権——</p> <p>内 容：日本国憲法において保障される基本的人権の概要について触れ、憲法によって人権が保障される意義について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第7回	<p>テーマ（何を学ぶか）：憲法を学ぶ③——統治機構——</p> <p>内 容：日本国憲法に定める統治機構、すなわち国家のしくみについて学びます。とりわけ、権力分立原則の歴史的変遷、日本の憲法史について触れ、それらを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第8回	<p>テーマ（何を学ぶか）：民法を学ぶ</p> <p>内 容：私たちにとって身近な法律が民法であり、社会で生活していくうえですべてに関係する法です。具体例では、財産や契約にかかわるルールと家族にかかわるルール等がありますが、ここでは、民法を中心として民法の基礎を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第9回	<p>テーマ（何を学ぶか）：刑法を学ぶ</p> <p>内 容：刑法とは、いかなる行為が犯罪となるのか、それに対していかなる刑罰が科されるかということを決めた法であり、刑罰によって犯罪を抑止し、私たちの生命や財産を保護する機能をもつものです。ここでは刑法を中心として刑法の基礎を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第10回	<p>テーマ（何を学ぶか）：ある学生の退学事例</p> <p>内 容：校則違反を理由として退学になった学生の事例を、憲法および民法のそれぞれの視点から学び、いかなる結論を導き出すことができるのかを考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第11回	<p>テーマ（何を学ぶか）：幸福追求に限界はあるのか</p> <p>内 容：憲法で保障する自由と刑事法による処罰について、それぞれの視点から学び、いかなる結論が導き出すことができるのかを考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第12回	<p>テーマ（何を学ぶか）：民間軍事会社に入社することは可能か</p> <p>内 容：日本国憲法 22 条が保障する職業選択の自由と渡航の自由の限界と日本の刑事法による規制の緊張関係について学び、いかなる結論が導き出すことができるのかを考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第13回	<p>テーマ（何を学ぶか）：国会議員の過激な表現と免責特権</p> <p>内 容：国民を代表する国会議員に保障される免責特権と民事および国家賠償法上の責任について、憲法および民法の視点から学び、いかなる結論が導き出すことができるのかを考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：裁判所①——司法権の観念とその限界——</p> <p>内 容：日本国憲法 32 条の裁判を受ける権利および「司法」の観念、および司法権の限界について学び、裁判所の役割とは何かを考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：裁判所②——裁判官の身分保障と裁判官像——</p> <p>内 容：日本国憲法 76 条 3 項において定められている裁判官の独立が、市民社会における「正義の実現」に應えるものか、ということについて事例をもとに学び、考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて講義時に触れる。</p>
試験	<p>講義中に扱った範囲から出題し、もっぱらレジュメおよび教科書において触れている内容から出題する。詳細は、前記「学修の課題、評価の方法」および「評価の基準及びスケール」を参照。</p>

〔科目名〕 科学技術と社会Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 教養科目(第3群)	
〔担当者〕 本田 明弘 Akihiro Honda		〔オフィス・アワー〕 時間:講義中に指定 場所:講義中に指定		〔授業の方法〕 講義およびグループ討議			
〔科目の概要〕 本講義では、感染症と気候変動を例にとり、科学技術と社会との関連を考えます。いずれも科学と技術が社会に対して大きな役割を担っている一方で、それらの受け止め方にはいくつかの課題も存在し、これらについて理解を進めます。科学は真理の探究、技術は社会への橋渡しとして認識されていますが、受け入れる社会側でもこれらの特性を理解したうえで科学、技術、社会の各々の役割について議論してゆきます。講義においては受講生が事前に調査したことをもとに、グループでの対話形式を基本に進めてゆきます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義では、青森の特長を理解して、地域の発展をけん引できるリーダーとしてのスキルを培ってほしいと考えます。そのためには現時点での科学・技術の課題に関する基礎的な知識を身に付け、具体的な行動につなげてゆく必要があります。これにより青森の抱える種々の課題を克服できる可能性があります。							
〔科目の到達目標〕 中期目標 科学技術と社会との関係に関する基礎的な知識を習得する。 最終目標 感染症および気候変動の特長を理解して、今後の地域でのリーダーシップを身に着ける。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○	○	○		○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 受講生個々の知見を高めることと、グループでの討議を通じたリーダーシップを発揮してほしいと考えます。							
〔教科書〕なし							
〔指定図書〕なし							
〔参考書〕 コロナ禍と気候変動問題から考える 科学×技術×社会 佐藤直樹著、(2023)、ISBN978-4-623-09613-8、ミネルヴァ書房							
〔前提科目〕なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポート(40点) 試験(60点)							

欠席は5回に達した時点で、他の成績に関わらず E 評価とする。
 大幅な遅刻については出席と認めない。
 なおやむを得ない事情により出席ができない場合には、都度教員と連絡をとり別途のレポートなど考慮する場合があります。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
 学生の活発な姿勢・発言を評価します。

〔実務経歴〕
 製造業 研究職

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：講義の進め方に対するイントロダクション 内 容：本講義の目標及び個人の学習・グループ討議を交えた進め方に関して、その意義を理解する。教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：社会と感染症 内 容：社会における感染症の影響と経済活動の関係の基礎知識を得る。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：社会と気候変動 内 容：社会における気候変動の影響と経済活動の関係の基礎知識を得る。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：科学技術の歴史 内 容：感染症及び気候変動に関連する科学技術の歴史を学ぶ。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：感染症の種類と概要 内 容：感染症の種類と概要に関して講義を行う。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：感染症が及ぼす社会への影響 内 容：感染症が社会に及ぼす影響をグループで調査、討議 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：感染症に関する科学技術 内 容：感染症に関する科学技術の動向をグループで調査、討議 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)：感染症に関する未来予想 内 容：2050年における感染症の未来予想をグループで討議する。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)：気候変動の種類と概要 内 容：気候変動の種類と概要に関して講義を行う。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)：気候変動が及ぼす社会への影響 内 容：気候変動が社会に及ぼす影響をグループで調査、討議 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)：気候変動に関する科学技術の動向予想 内 容：気候変動における科学技術の動向をグループで調査、討議する。 教科書・指定図書

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 気候変動に関する未来予測</p> <p>内 容: 2050年における気候変動の未来予想をグループで討議する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 2050年の社会に関する未来予想</p> <p>内 容: 2050年における社会の未来予想をグループで討議する。(エネルギー、気候変動、感染症など)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): グループ討議のすすめ方とレポート作成</p> <p>内 容: 「社会の課題と役割」に関するグループでのディスカッションとグループでのレポート作成</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義で得られた知識の確認(各人)</p> <p>内 容: 試験を実施するとともに、各自でレポートを作成する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容: 講義全体の理解度を、第15回の講義にて確認する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

〔科目名〕 健康と医療				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第3群)	
〔担当者〕 長岡朋人			〔オフィス・アワー〕 時間:12:20~12:50(要予約) 場所:1202 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕							
1. 講義の内容 本講義は、人体の構造と機能の学習を通して、健康と医療に関するリテラシーを涵養することを目的とします。人体と構造と機能は医学・医療の基礎となります。近年の医学・医療は急激に発展しており、社会との関わりが密になっています。本講義は、細胞や遺伝子の講義から始まり、人体そのもののマクロ的な視点を涵養し、ときには症例をまじえながら、基礎医学と臨床医学の橋渡しとなる講義を目指します。講義は、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、神経系、内分泌系、運動器系、生殖器系の講義を行います。							
2. 講義の特色 医学・医療系の講義は膨大な用語を正しく理解する必要があります。語学と同様に手間と時間をかけなければ医学の「言葉」は理解できません。講義資料には欧文(英語、ラテン語)を含む場合があります。本講義は暗記を目的としていませんが、理解するためには反復学習が必要です。全講義に出席しなければ試験には対応できませんので全講義に出席できる学生の受講を希望します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
1. 批判的思考 私たちは医療に密接にかかわる場面で生活しています。医療の知識は常に進歩していき、当たり前だと思つた知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持ち(病院における診断も必ずしも正しいとは限りません)、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。							
2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば感染症と経営経済学は密接に関わります)により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕							
1. 最終目標 学生が、(1)書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2)自分の言葉で情報を整理し意見を述べるができること、(3)医学・医療に対する批判的思考を身につけることです。							
2. 中間目標 学生が、膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、健康や医療のリテラシーを身につけることです。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
不真面目な学生が周りの学生に迷惑をかけているという点について、この点は教員から学生に注意すべきことかと受け止めています。大学生にもなってこのような注意をするのは考えてしまいますが、きちんと指導を受けなければ理解できない学生がいるので、教育的な配慮として学生には諭します。							
次に、講義資料で講義内容がすべて網羅し、見やすくしてほしいという要望に関してです。講義は教員の話が主であり、講義資料は補助的なものにすぎませんので、この指摘は講義の方針と反します。講義資料をもらえば講義を聞							

<p>かなくてもよいという姿勢の学生が多く、試験やレポートで自分の言葉で書けない学生がいますので、講義をきちんと聞くように教育を徹底し、講義を聞く学生とそうでない学生の評価の差別化を図ります。</p>	
<p>〔教科書〕 配布資料</p>	
<p>〔指定図書〕 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018 年)、「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995 年)</p>	
<p>〔参考書〕 なし</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価は課題シート、レポート、試験によりますが、変更時は初回講義時に説明を行います。A は 80 点以上、B は 70～79 点、C は 60～69 点、D は 50～59 点、E は 49 点以下と評価します。全講義回数の3 分の1(講義回数が 15 回では 5 回)の欠席者(欠席届提出分は除く)は F 評価とします。3 回の欠席者は成績評価を 1 段階下げます。救済措置は一切行いません。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者は原則として F 評価とします。欠席届は事務局で認めた場合のみ受け取りますが、それ以外の欠席は例外なく欠席としてカウントします。教員に欠席のメール連絡は正式な手続きではありませんし、教員が特例を認めることはありません。講義開始後20 分経過後の入室は欠席扱いです。課題シートは成績評価に用いる小テストという位置づけにするため他人の課題シートの書き写しは厳禁です(発覚した場合はF評価とします)。課題シートは教員の指示に従って提出してください。成績評価は、課題シート、レポー、試験で行います。試験、講義時の課題への取り組み(課題シート)、レポート。課題シートは講義を踏まえて書くものであるため後日提出は認めません。回収した課題シート、レポート試験は返却しません。提出物は指示通りに出してください(ホチキス止めをしていない提出物や提出の期日や場所を守らない提出物は受け取りません)。試験は講義を踏まえた選択問題及び記述問題を出しますが理解度を試す試験であるため事前に問題の開示は行いません。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>1. 受講の姿勢</p> <p>(1) 講義の目的は暗記ではありません。健康と医療に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2) 医学・医療に関わる膨大な情報量を理解するために、講義では常にノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。</p> <p>2. 学生への要望</p> <p>(1) 遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2) 講義で分からないことは質問してください。(3) 受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4) マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
<p>第 1 回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。 教科書・指定図書 なし</p>

第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 医の倫理</p> <p>内 容: 生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。</p> <p>教科書・指定図書 「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人類と感染症の歴史</p> <p>内 容: 人類と感染症の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 医史学</p> <p>内 容: 病気と治療の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 医史学</p> <p>内 容: 病気と治療の歴史について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 なし</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域医療</p> <p>内 容: 青森の医療の現状と課題について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 解剖生理学を学ぶための基礎知識</p> <p>内 容: 人体の構造と区分、人体の部位と器官、方向を示す用語について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 呼吸器系</p> <p>内 容: 呼吸器の構成、肺の構造と機能、呼吸器系の病態生理について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消化器系</p> <p>内 容: 口、咽頭、食道、腹部消化管の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内分泌系・生殖器系</p> <p>内 容: 口、咽頭、食道、腹部消化管の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 循環器系</p> <p>内 容: 心臓の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 循環器系</p> <p>内 容: 末梢循環器系の構造と機能、リンパ管系について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 神経系</p> <p>内 容: 中枢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 神経系</p> <p>内 容: 末梢神経の構造と機能について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>

第 15 回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容: これまでの講義で重要なポイントを整理する。 教科書・指定図書:なし
試 験	

〔科目名〕 教養特殊講義 II				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第4群)	
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihito			〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始時に指示する 場所:613 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 <p>哲学の原義は「知を愛する」ということ、つまり事象についてのあくなき探求を意味する。そうであるならば、哲学とは、概念を形成する活動である以前に、ましてや、すでに出来上がった概念の操作や陳列である以前に、問いの生成に寄り添うことであり、その探究を表現にもたらそうとする努力であるはずだ。</p> <p>この講義が焦点にするのは、哲学や諸々の探究なかで提起されてきた概念や問いではあるが、同時にそうした思考のプロセスの表現である。例えば、定型詩や小説といった文学作品の文体はもとより、諸々の芸術作品のスタイル、あるいは学術研究において用いられる論述の作法さえも、各々の思考を牽引し、促しもすれば規制することにもなる媒介なのである。多様な表現のあり方が、思考を触発し、媒介するという、この点に目を向けたい。</p> <p>現代思想の論客たちが、さかんにロゴス中心主義を批判してきたことは記憶にあたらしい。しかし、それはどういふことだろうか。もっとも素朴には、伝統的な哲学の方法はロゴス(つまり言葉や理性)を用いることであり、哲学の営為とロゴスは切り離すことができない。人間の知の営みとロゴスを分かちことができると考えるのは、あまりに安直である。だが、ロゴスそのものの出自は、ロゴス以前の経験に求めなければならないはずである。</p> <p>本講義の目的は、こうした思考と表現の問題を軸として、哲学を学ぶための、あらたなアプローチの仕方を探ることである。より具体的に言えば、①伝統的なロゴスの技法である「対話」という方法を実践的に行うこと、②哲学、文芸、芸術、等々の多様な表現のスタイルに触れ、慣れ親しむこと、③哲学の問いを生み出し、思考を媒介する対象(自然のものであれ、芸術作品であれ)を捉え、その経験を言葉によって表現にもたらすこと、といった実践的な活動をおこなう。履修者は、各授業回の小レポートの記述、プレゼンテーション原稿の準備、提題者との対話や質疑応答、課題レポートの提出と総括、といった活動への参加と報告を必須とする。進め方については、授業開始時に説明する。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>春学期に開講の「哲学 I」は、西洋哲学の歴史を軸としたベーシックな講義であり、また、この講義と同じく秋学期に開講される「哲学 II」は、現代哲学のトピックともなる諸問題を軸として考察を深めようとする講義である。そこで本講義は、それらの授業と密接に関連しながらも、また別様の仕方哲学への接近を試みることにより、哲学のあらたな魅力へと受講者を誘うこと、対話をとおして探究の思考をとにもすることを企図している。</p> <p>かつて現象学派の哲学者たちは、哲学を「事象そのものへ」の遡及であり、哲学するとは「世界を見ることを学びなおす」ことであると語っていた。いまいちど自らの思考において、世界を見る、世界について知るといふ探究の経験を捉えなおし、再考をすすめることにより、この世界を生きることのエートス(世界に住まうという人間性)と存在のロゴス(いまここに存在することの意味)について理解を深めたい。</p>							
〔科目の到達目標〕 <p>問われている哲学の「概念」、核心にある「問い」の意味を理解し、関連する文献を読み解き、解釈することができる。学び覚えた思想や概念をふまえ、「問い」を吟味し、仕上げ、提起することができる。探究的対話に積極的に参加し、人間とその生きる世界について理解を深めることができる。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
			○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>アニメーション、映画、絵画、漫画、音楽、等々を素材として、それらの作品の核心となる思考を取り上げ、哲学のトピックとしたことは概ね好評であった。これまでの授業の組み立てを引き継ぎつつ、発表の方法、対話や議論の方法については、適正な人数で活発な相互交流が可能になるよう改善し、積極的な参加を促す。</p>							

〔教科書〕 使用しない。プリントを配布する。	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 『科学で大切なことは本と映画で学んだ』、渡辺政隆著、みすず書房、2021年 『対話の技法』、納富信留著、笠間書院、2020年 『メルロ=ポンティ『眼と精神』を読む』、メルロ=ポンティ著、富松保文訳、武蔵野美術大学出版局、2015年 『マンガは哲学する』、永井均著、岩波現代文庫、2013年 その他、授業のなかで紹介する。	
〔前提科目〕 関連する哲学の講義「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」を履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各回の授業での小レポートの記述(18%)、プレゼンテーション原稿の準備(36%)、発表、対話、質疑応答、議論への参加(24%)、課題レポートの提出と総括(22%)、詳細は、授業のなかで説明する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 自ら問いをもつこと、自ら考えることを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。 授業スケジュールや各回の進捗、扱う内容は、参加者の関心や理解に応じて変更することがある。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 授業の趣旨と進め方、学習の課題と評価についての説明、ログスについて 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 「哲学する」ということ① 内 容: 探究の技法、対話、言葉、メディア、表現として対話編(プラトン) 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 「哲学する」ということ② 内 容: 探究の媒介としての言葉と映像表現 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 探求の主題と方法① 内 容: プレゼンテーション原稿の準備と発表について、絵画における思考(セザンヌ) 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 探求の主題と方法② 内 容: 探究の主題と方法、なぜ漫画なのか 教科書・指定図書

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):探求の主題と方法③</p> <p>内 容:フィクションが与えるリアリティ、夢と現実を分かつ指標(デカルト)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):探求の主題と方法④</p> <p>内 容:探究の主題と問いかけ、哲学へのあらたなアプローチ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションと対話①</p> <p>内 容:参加者による提題、および探究的対話</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションと対話②</p> <p>内 容:参加者による提題、および探究的対話</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションと対話③</p> <p>内 容:参加者による提題、および探究的対話</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):プレゼンテーションと対話④</p> <p>内 容:参加者による提題、および探究的対話</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現①</p> <p>内 容:問いと表現、人間の存在の身体性について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現②</p> <p>内 容:問いと表現、時間について、死について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):哲学と映像表現③</p> <p>内 容:語りえぬものと問いかけ、表現の放棄と語る声</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括</p> <p>内 容:質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末レポート</p>

〔科目名〕 インターンシップ I				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 大森 史博 OHMORI Fumihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:別途提示する 場所:613 研究室			〔授業の方法〕 実習・演習	
〔科目の概要〕 この科目は、2年次以上の学生を対象として、企業や団体等が実施するインターンシップ(15～30 時間の実習)に参加した者に単位を認定するものです。「インターンシップを機会とした企業研究や自己分析を実践的に就職活動に生かしていくこと」、「授業で学んできた知見を就職活動や今後のキャリア形成に生かしていくこと」、について深く考えることを目的としています。受講生の皆さんは、「インターン先で経験したいことは何か?」、「インターンの経験のなかで何を学んだか?」、「自分自身の仕事や業界の適性は?」、「今後の大学生活で修得すべきものは何か?」等について、事前レポート、事後レポートを作成し、プレゼンテーションと質疑応答をおこなうことから、自らの経験を振り返り、キャリア形成の展望を広げてもらうことを企図しています。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 この科目は、これまで学んできた授業科目の知識を基礎としながらも、仕事や社会という広く開かれた自己と他者の関係について、再考する機会となるものです。専門分野で学んできた経営、経済の事柄をはじめ、学生生活をとおして培ってきた諸々の知識をもとに、インターンシップに臨む計画を入念に設計し、就業先での経験を振り返ります。これまで学び、身につけてきた知識について再確認することをおこなう一方、我々を取り巻く環境の動向、自身のキャリア形成について今後どうすべきか、を熟考してもらいます。							
〔科目の到達目標〕 ・インターンシップ先で何を学んだのか、その内容は何かを説明できる。 ・自分自身の特徴を理解し、適性のある業界や職種を明示することができる。 ・これからの学生生活の中で修得すべきもの、これからの課題について言表することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 とくになし。							
〔教科書〕 使用しない。							
〔指定図書〕 とくに指定しない。							
〔参考書〕 『働くことの哲学』ラース・スヴェンセン著、小須田健訳、紀伊国屋書店、2020 年 『誰のための仕事 労働 VS 余暇を超えて』鷺田清一著、講談社学術文庫、2021 年							
〔前提科目〕 該当なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、提出の事前レポート、事後レポート、および勤務評価書の内容をもとに、総合的に判断します。 この科目で修得する単位は、卒業要件に算入されますが、GPA には算入されない形での認定となります。							

<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>演習では、プレゼンテーションと質疑応答を活発におこないたいと思います。</p> <p>インターンシップの貴重な経験を振り返り、熟考することで、その経験の意味を再確認し、実践的に就職活動に生かしていくことを期待しています。</p>	
<p>【実務経歴】</p> <p>該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事前レポート提出</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 実習</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 事後レポート提出</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習、インターンシップで何を学んだのか?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習、自分自身に適する業種(職場)とは?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習、仕事の基礎を考える。仕事とは、キャリア形成とはなにか?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 演習、これからの大学生活で何をなすべきか?</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

[科目名] 環境経営論	[単位数] 2 単位	[科目区分] 専門科目 基幹科目
[担当者] 藤沼 司	[オフィス・アワー] 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 603研究室	[授業の方法] 講 義

[科目の概要]

一般的に「環境経営論」と言えば、「自然環境への配慮や対応と関連して持続可能性を志向する経営論」という意味合いで用いられることが多いようです。しかし本学経営学科で設置された〈環境経営論〉は、企業や行政機関をはじめとするさまざまな協働システムを取り巻く環境として、そうした自然環境を含みつつも、さらには社会環境や人間環境への配慮や対応をも含んでいます。

マネジメントの眼目は、各々の協働システムの共通目的の実現とともに、それを取り巻く自然環境、社会環境、人間環境との調和ある発展を図ることにあります。協働システムはこれら多様な環境によって“**生かされつつ生きている**”のであり、協働システムの存続と発展は、“生かされている”環境からの要請(呼びかけ)に応えることで達成される諸環境との調和の内にあります。それゆえ協働システムは、潜在的には、多様な環境要因に対して責任(responsibility)を負い、マネジメントには多様な環境要因からの呼びかけに応答する能力(response ability)が求められています。

しかしこれまでの経営学は、“**環境によって生かされている**”側面を見落としあるいは軽視し、共通目的の達成を過度に強調するあまり、“**生きている**”側面に偏重しすぎる傾向にあります。その結果、自然環境からの呼びかけを軽視するところに自然環境破壊が、社会環境からの呼びかけを軽視するところに多種多様な社会的責任問題が、そして人間環境からの呼びかけを軽視するところに過労死や職場における精神疾患の蔓延などの人間性の危機の問題が、顕在化してきていることを無視できません。

本講義では、なぜそうした事態に至ったのかを経営学や経営実践の史的展開過程の概観を通じて確認し、その上で〈環境経営論〉として、マネジメントの応答可能性(response-ability)の観点から、諸環境と協働システムの相互関連の過程を、可能な限り全体として理解することを目指します。

可能な限り授業スケジュール通りに進めるよう努力しますが、受講生の状況によっては変更が生じうることを、あらかじめ理解しておいてください。

[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]

経営学は 140 年あまりの歴史をもちますが、それはちょうど「企業文明」とも称せられる現代文明の展開の歴史と重なります。21 世紀を迎えた今日、その現代文明が示す生活様式の転換を迫られ、それと歩調を合わせあるいは主導してきた経営学にも、21 世紀の文明社会の構築に向け、新たな展開が求められている時代です。これからの時代を切り拓くための基礎となる考え方を学んで、諸環境と協働システムとの相互関連過程という問題視角から、われわれが生きていくために必要となる考え方を養うことが、この講義の狙いです。

[科目の到達目標]

本講義の到達目標は、文明の転換期における経営学の役割について、①〈これまで〉の経営学が果たしてきた役割の特徴や問題性を理解し、②〈これから〉の経営学が果たしうる役割について、受講生各自が考えられる土台をつくり上げることである。特に、①についての理解を養成することが基盤となる。

[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○	○	○	○	○	○	

[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]

既存の「環境経営論」とは異なり、拡張された環境との相互関連を総合的に考慮しようとする〈環境経営論〉という分野の構想・体系化の試みは緒に就いたばかりであり、担当者自身が努力していますが試行錯誤の連続でもあります。受講生のみなさんには、こうした体系化に向けて、積極的に参加することを期待します。

適宜DVD等の映像資料を活用することで、受講生の理解を促すことも考えています。受講生の理解度に応じ

<p>て、必ずしもシラバス通りに進まないことがありうることを、あらかじめ理解しておいてください。</p> <p>マイクの音量に関しては、気をつけます。</p>	
<p>【教科書】 藤沼 司『経営学と文明の転換—知識経営論の系譜とその批判的研究—』文眞堂、2015年。</p>	
<p>【指定図書】 特になし</p>	
<p>【参考書】 必要なときに提示。</p> <p>石弘之・安田喜憲・湯浅赳男『環境と文明の世界史—人類史20万年の興亡を環境史から学ぶ—（新版）』洋泉社。</p> <p>入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。</p> <p>大村敬一・湖中真哉『「人新世」時代の文化人類学』NHK出版。</p> <p>小笠原英司・藤沼 司編著『原子力発電企業と事業経営—東日本大震災と福島原発事故から学ぶ—』文眞堂。</p> <p>経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂。</p> <p>経営学史学会監修『経営学史叢書シリーズ』（全14巻）文眞堂。</p> <p>経営学史学会監修『経営学史叢書（第Ⅱ期）シリーズ』（全7巻）文眞堂。</p> <p>斎藤幸平『人新世の「資本論」』集英社新書。</p> <p>C.I.バーナード『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社。</p> <p>J.D.ヒューズ『環境史入門』岩波書店。</p> <p>藤沼 司「有機体の論理とartとしてのmanagement—経営哲学研究への美学的接近に向けて—」『青森公立大学論叢』（論纂第9巻第1・2号）。</p> <p>K.ポメラント『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成—』名古屋大学出版会。</p> <p>K.ボラニー『新訳 大転換—市場社会の形成と崩壊—』東洋経済新報社。</p> <p>見田宗介『現代社会はどこに向かうか—高原の見晴らしを切り開くこと—』岩波新書。</p> <p>村田晴夫『文明と経営』文眞堂。</p>	
<p>【前提科目】 特になし</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</p> <p>評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断します。グレードポイントは学生便覧通り。</p> <p>※ 以下の評価項目の詳細については、講義初回で説明の上、みなさんに相談します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験 ・ 講義内レポート ・ 自由レポート 	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>〈環境経営論〉という新たな分野を構築するために、みなさんの瑞々しい感性に基づいた積極的な意見を歓迎します。共に問いを発し、共に学ぶという姿勢を大切にします。</p>	
<p>【実務経歴】 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス</p> <p>内 容: 「環境」とは何か?—経営学の文明論的諸課題への応答に向けて—</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 序章および補論Ⅰ・Ⅱ、レジュメ</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 岐路に立つ現代社会の源流—近代への精神的および物質的転換— ①</p> <p>内 容: 「資本主義の精神」の概観</p> <p>教科書・指定図書: 教科書 序章および補論Ⅰ・Ⅱ、レジュメ</p>

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):岐路に立つ現代社会の源流—近代への精神のおよび物質的転換— ②</p> <p>内 容:産業革命の概観—「エネルギー革命」を中心に—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 序章および補論 I・II、レジュメ</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:科学的管理の現代的意義 ①—成行管理との対比で—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第1章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:科学的管理の現代的意義 ②—科学的管理の諸相とその射程—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第1章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:現代の生活様式・行動様式を規定する「企業文明」:大量生産—大量消費—大量廃棄</p> <p>教科書・指定図書:教科書 序章およびレジュメ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:フォレット経営思想の現代的意義 ①—「組織社会」における個と全体の統合問題—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第2章およびレジュメ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:フォレット経営思想の現代的意義 ②—「組織社会」におけるプロフェッションの意味—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第2章およびレジュメ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:メイヨー文明論の現代的意義 ①—思考の補助線としてのプラグマティズム—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第3章およびレジュメ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:メイヨー文明論の現代的意義 ②—工業化社会の病理と経営学の主流—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第3章およびレジュメ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代文明の形成にあたって経営学が果たした役割</p> <p>内 容:サイモン理論の現代的意義 —近代経営学の主流とひとつの帰結—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第4章およびレジュメ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):文明化と人間協働—社会進歩における不変のジレンマ—</p> <p>内 容:<artとしてのマネジメント>の文明論的意味と<これまで>の経営学が孕む問題 ①</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第2部およびレジュメ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):文明化と人間協働—社会進歩における不変のジレンマ—</p> <p>内 容:<artとしてのマネジメント>の文明論的意味と<これまで>の経営学が孕む問題 ②</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第2部およびレジュメ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ—諸環境とマネジメントの責任—</p> <p>内 容:文明の転換期における経営学の役割—<これまで>と<これから>—</p> <p>教科書・指定図書:教科書 第2部およびレジュメ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):これまでに学んだことを具体的に適用する</p> <p>内 容:事例紹介</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末試験(筆記試験)</p>

〔科目名〕 マーケティング論Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目(経営) 展開科目(経済・地域)		
〔担当者〕 行本 雅 Yukimoto Tadashi		〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の授業時にお知らせします 場所: 515 研究室				〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 <p>マーケティングの中心的な課題は、社会に価値をもたらすような取引がうまく実現することです。しかし、現実の世界ではさまざまな理由から取引が行われなかったり、社会的に望ましくない結果をもたらされたりすることがあります。たとえば、消費者が財やサービスの品質を観察できない場合には、すぐれた品質であっても取引が行われなくなります。また、適切に利用すれば持続的に利用可能な資源であっても、個々の生産者が自らの短期的な利益を追求すれば枯渇してしまいます。このために、企業や政府は円滑な取引を実現するためのビジネスモデルの構築や制度設計に取り組んでいます。先ほどの例であれば、消費者に品質が正確に伝わるように表示のルールを定める、個々の生産者がどれだけ資源を利用してよいかあらかじめ割り当てる、といった方法がとられます。このように取引が円滑に行われるためには、どのようなビジネスモデルや制度をデザインするのが望ましいか学びます。</p>								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>マーケティング論Ⅰでは、マーケティング全般の基礎的な知識について学びました。本講義では、これをふまえた上でビジネス・エコノミクスとよばれるマイクロ経済学のマーケティング分野への応用を学ぶことで、マーケティングの主要なトピックの背後にある理論的なメカニズムについて理解を深めていきます。経営学の他分野の他に、マイクロ経済学、ゲーム理論、産業組織論、行動経済学などが関連の深い分野となります。この他、心理学や消費者行動論、経済法、消費者法なども関連します。</p>								
〔科目の到達目標〕 <p>前半では、企業はどのようにして消費者に製品の価値を伝えようとしているか、なぜ複雑な価格体系が用いられるのか、同じような製品でも様々なバリエーションがあるのはなぜか、メーカーは流通業者にどのようにインセンティブを付与しているのか、長期的な取引ではどのような問題が生じるのか、消費者はどのように意思決定を行っているのか、といったマーケティングの基礎的な事象について、その背後にあるメカニズムを理解することが目標となります。後半では、ナッジ、消費者政策、エシカル消費、プラットフォーム規制、EBPM といった最近のトピックについて理解することが目標となります。</p>								
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
○				○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 レジュメや追加の資料などが好評のようなので、今後も充実させていきたいと思ひます。								
〔教科書〕 レジュメを配布します。								

<p>〔指定図書〕</p> <p>D. Kreps (2004) <i>Microeconomics for Managers</i>, Norton (中泉真樹・尾近裕幸・熊本尚雄・林行成・細谷圭・増原宏明 訳『MBAのためのミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2008年, 2009年).</p> <p>J. McMillan (1992) <i>Games, Strategies, and Managers</i>, Oxford University Press (伊藤秀史・林田修 訳『経営戦略のゲーム理論』, 有斐閣, 2009年).</p> <p>J. Tirole (2016) <i>Économie de Bien Commun</i>, Presses Universitaires de France(村井章子 訳『良き社会のための経済学』, 日本経済新聞出版社, 2018年).</p> <p>岡田章(2014)『ゲーム理論・入門 新版』, 有斐閣.</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>伊藤元重(2021)『ビジネス・エコノミクス 第2版』, 日本経済新聞出版</p> <p>伊藤秀史(2012)『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣.</p> <p>依田高典(2016)『「ココロ」の経済学』ちくま新書.</p> <p>R. Thaler and C. Sunstein(2021) <i>Nudge</i>, Yale University Press(遠藤真美 訳『実践 行動経済学 完全版』, 日経BP, 2022年).</p> <p>G. Akerlof and R. Shiller(2015) <i>Phishing for Phools</i>, Princeton University Press(山形浩生 訳『不道徳な見えざる手』 東洋経済新報社, 2017年).</p> <p>J. E. Stiglitz(2019) <i>People, Power, and Profits</i>, Norton & Company(山田美明 訳『スティグリッツ プログレッシブキャピタリズム』, 東洋経済新報社, 2020年).</p> <p>伊藤公一朗(2017)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』, 光文社新書.</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>マーケティング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>成績評価は、授業時のレポート課題によって行います。評価の基準は、講義で取り上げるモデルの構造を理解できているかどうかです。単に現実の事例についての知識を身につけるだけでは、単位を取得するには不十分です。この講義では、企業や消費者などの各プレイヤーが、どのようなタイミングで、なにを知った上で、なにについて意思決定を行うのか、といった現実の背後にあるゲームの構造をイメージした上で、現実の問題を理解することが重要になります。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>マーケティングは、経営学、経済学、心理学など様々な観点から研究されている分野です。本講義では主に経済学的なアプローチを紹介しますが、学問領域や分野にとらわれず幅広く関心を持って勉強して下さい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イン트로ダクション</p> <p>内 容: 本講義であつかうアプローチの位置づけを紹介します</p> <p>教科書・指定図書: 使用しません</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場分析</p> <p>内 容: Porterの競争戦略と戦略的状況について学びます</p> <p>教科書・指定図書: Kreps(2004)『Ⅱ』第6章, 岡田(2014)第4章, 第6章, 第8章</p>

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):逆選抜</p> <p>内 容:風評被害がなぜ起こるのかについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):シグナリング</p> <p>内 容:ブランドや広告の役割について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):直観的基準</p> <p>内 容:人々の信念と慣習や規範の役割について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第4章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):グループによる価格差別と第3種の価格差別</p> <p>内 容:価格差別の基本的な考え方について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第7章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):第2種の価格差別とスクリーニング</p> <p>内 容:なぜ携帯電話の料金プランは複雑なのかについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第7章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):インセンティブ問題</p> <p>内 容:インセンティブ問題について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第1章、McMillan(1992)第4章、第8章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):リスクとインセンティブ</p> <p>内 容:リスクとインセンティブのトレードオフについて学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第5章、McMillan(1992)第9章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):不完備契約</p> <p>内 容:長期的な取引と評判の役割について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅱ』第10章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):限定合理性とナッジ</p> <p>内 容:人々の限定合理的な意思決定や政策への応用について学びます</p> <p>教科書・指定図書:依田(2016)第7章、Thaler and C. Sunstein(2008)第1章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):消費者政策</p> <p>内 容:不当な表示の規制について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Akerlof and Shiller(2015)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):エシカル消費</p> <p>内 容:外部性の問題とエシカル消費について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Kreps(2004)『Ⅰ』第14章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):プラットフォーム規制</p> <p>内 容:プラットフォームの規制について学びます</p> <p>教科書・指定図書:Tirole(2016)第14章、第15章、Stiglitz(2019)第6章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):証拠に基づく決定</p> <p>内 容:データに基づく意思決定について学びます</p> <p>教科書・指定図書:伊藤(2017)</p>
試験	<p>レポート課題で評価します。</p>

[科目名] 人事管理論Ⅱ				[単位数] 2単位		[科目区分] 専門科目 基幹科目		
[担当者] 中川宗人		[オフィス・アワー] 時間:授業内で提示する 場所:505 研究室				[授業の方法] 講義法・反転授業		
[科目の概要] この授業では、「人事管理論Ⅰ」の内容を踏まえて、人事管理を中核として形成されている「雇用システム」について学びます。雇用システムは企業の人事管理を中核としながら、企業の外部環境と関係しつつ、現代社会の働き方を広く規定している制度です。本講義では、企業社会のなかで人事管理が果たしている役割をより深く理解するために、日本的雇用システムの構造と機能について学びます。授業では以上の内容について、教科書を用いて学修していきます。原則として1回につき1章ずつ読み進めていきますので、必ず購入してください。授業方法は、事前の読書と授業内での作業を組み合わせで行います。具体的には、授業前に指定の章を予習し、わかった部分をまとめ、わからなかった部分はチェックしておきます。授業内では、教科書の内容を理解しているか、質疑応答・テスト等を通じて確認していきます。個人だけでなくグループでの作業を行う場合があります。								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 人事管理は経営管理の一分野ですが、労働時間や賃金、昇進といった事項を扱うことから、何らかの組織で働く人すべてにとって身近な科目です。また現在の人事に関する戦略は、経営戦略とも密接に関わり、企業の将来をますます左右するようになっていきます。人事管理論は、労働条件といった身近な事柄だけでなく、企業の行動や経営学についてより深く理解する手がかりとなります。								
[科目の到達目標] ・大学レベルの教科書を正確に読み解くことができる。 ・日本企業の雇用システムの構造と機能について説明することができる。								
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
○					○			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] ・しゃべるスピードや音量についての希望が多かったので、聞き取りやすい説明を心がけます。 ・LMSでの資料の配布など、事前・事後の学修がしやすい工夫を行っています。								
[教科書] 佐口和郎, 2018, 『雇用システム論』有斐閣								
[指定図書]								
[参考書]								
[前提科目] 人事管理論Ⅰを履修していることが望ましい								

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>事務局が認める「公欠」を除いて、4回以上欠席したものは不合格とします。</p> <p>成績評価は期末試験で行います。</p> <p>詳細な評価方法は初回の授業で説明します。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>教科書の指定範囲を事前に必ず講読したうえで、授業内では積極的に思考・発言することが求められます。</p> <p>これらが難しい場合は単位取得が困難となりますので、計画的な履修を行ってください。</p> <p>授業内での作業に配慮が必要な場合は、教務を通じて相談してください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス</p> <p>内 容: 授業の進め方、成績評価について説明します。履修予定者は必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できなかったものは、出席した者に連絡を取り、自身で内容を確認すること。</p> <p>教科書・指定図書 教科書 はじめに</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 序章 制度としての雇用</p> <p>内 容: 1 問題意識と課題 2 制度としての雇用 3 雇用関連政策と労使関係</p> <p>教科書・指定図書 教科書 序章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 雇用制度の理論</p> <p>内 容: 1 労働市場論へのスタンス 2 雇用制度の理論的枠組み 3 雇用制度の実現</p> <p>4 雇用諸制度の分析枠組み</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第1章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2章 賃金制度</p> <p>内 容: 1 何をどう扱うのか? 2 賃金制度の具体化 3 年功賃金制度 4 相互補完性と脆弱性</p> <p>5 歴史的経路</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第2章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第3章 雇用調整制度</p> <p>内 容: 1 何をどう扱うのか? 2 日本の雇用調整制度 3 相互補完関係と脆弱性</p> <p>4 歴史的経路 5 変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第3章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第4章 採用制度</p> <p>内 容: 1 何をどう扱うのか? 2 新卒一括採用制度</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第5章 退職制度</p> <p>内 容: 1 何をどう扱うのか? 2 定年制度 3 相互補完関係と脆弱性 4 歴史的経路</p> <p>5 変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第5章</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):第6章 非正規雇用</p> <p>内 容:1 何をどう扱うのか? 2 非正規雇用に関わる諸制度 3 相互補完関係と脆弱性 4 歴史的経路 5 変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):第7章 女性雇用</p> <p>内 容:1 何をどう扱うのか? 2 日本的雇用システムと女性雇用① 3 日本的雇用システムと女性雇用② 4 相互補完関係と脆弱性 5 歴史的経路 6 変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):第8章 日本的雇用システムとその変容</p> <p>内 容:1 雇用制度と雇用システム 2 日本的雇用システム 3 雇用諸制度 4 変容局面としての現在</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第8章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):第9章 雇用関連政策1</p> <p>内 容:1 何をどう扱うのか? 2 第2部で説明した雇用政策 3 雇用問題と貧困問題</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第9章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):第9章 雇用関連政策2</p> <p>内 容:4 生活維持機能の補填 5 雇用—非雇用状態の不連続性への対応 6 新しい雇用政策 の展開 7 日本の雇用政策の特質と変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第10章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):第10章 労使関係</p> <p>内 容:1 何をどう扱うのか? 2 日本の労使関係の枠組み1 3 日本の労使関係の枠組み2 4 日本的雇用システムとの相互補完関係 5 変容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第10章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):終章 雇用の近未来</p> <p>内 容: 1 雇用制度の内側の変容 2 雇用制度の外側への変容 3 新しい働き方と直面する 課題 4 おわりに</p> <p>教科書・指定図書 教科書 終章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:授業内容のまとめ、質疑応答、期末試験の解説</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>筆記・選択肢式:実施方法は授業内で説明します。</p>

〔科目名〕 管理会計論Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目(経営) 展開科目(経済)		
〔担当者〕 王 聖書			〔オフィス・アワー〕 時間:授業内で案内する 場所:506 研究室			〔授業の方法〕 講義、演習		
〔科目の概要〕 <p>管理会計は、企業の経営戦略の立案および業務計画と統制に必要な意思決定を支援するための重要な情報を提供する「情報システム」としての役割を果たしています。同時に、管理会計は情報の作成と伝達のプロセスを通じて、組織の目標達成に向けて経営管理者や一般従業員を動機づける「影響システム」としても機能します。管理会計は、単なる数字の追跡を超え、組織全体のパフォーマンス向上と目標達成のための戦略的なツールとして重要な役割を担っています。</p> <p>秋学期には、コストマネジメントと業績管理を学ぶうえ管理会計の最新のトピックの基本的事項を理解します。本講義を通じて、管理会計情報が企業のコストマネジメントと業績管理にかかる様々な管理会計技法を習得することを目的とします。具体的には、標準原価計算、ABC、原価企画、品質コスト、アメーバ経営、バランススコアカードなどコストマネジメントと業績管理の概要、理論、手法について、講義、練習問題やケースディスカッションを交えながら、管理会計に対する理解を深めるようにします。これにより、管理会計の概要と具体的な技法を学習し、組織内でのコストマネジメントや業績管理において管理会計情報を効果的に活用する能力を身につけることができるようになります。</p>								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「工業簿記」「管理会計論Ⅰ」の事前履修が望ましい。 (すでに会計学の基礎を学習済みであれば問題ありません)								
〔科目の到達目標〕 該授業を通じて、管理会計の理論と具体的手法を理解し、組織内でのコストマネジメントと業績管理において管理会計情報を効果的に活用する能力を身につけていただくことを本授業のゴールとして設定しています。また、ESG 経営時代に企業価値を高めるため、管理会計が果たすべき役割を理解することを目指します。								
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
○	○		○	○		○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 該当なし								
〔教科書〕 清水孝・庵谷治男(2019)『基礎管理会計』中央経済社								
〔指定図書〕 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一(2017)『スタンダード管理会計-第2版-』東洋経済新報社。								
〔参考書〕 櫻井通晴(2019)『管理会計〔第七版〕』同文館 梶原武久(2022)『戦略的コストマネジメント』中央経済社								
〔前提科目〕 「工業簿記」「管理会計論Ⅰ」の事前履修が望ましい。 (すでに会計学の基礎を学習済みであれば問題ありません)								

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>① 中間テスト 30%</p> <p>② 期末テスト 70%</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>管理会計で学ぶ内容は多岐にわたるため、予習・復習を欠かさずに行う必要があります。講義内で示す資料や参考文献について、積極的に学習することが望ましい。</p> <p>数字を正しく計算するだけでなく、講義で紹介する資料やケースをもとに、計算の背後にあるビジネスプロセスの理解を目指していただきたい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス・コストマネジメント①(標準原価管理)</p> <p>内 容: 標準原価管理とは、予め設定した原価標準と実際のコストを比較・分析する手法です。原価標準の設定方法, 実際コストの測定, 標準原価との差異分析に焦点を当て, 標準原価管理を解説します。</p> <p>教科書第9, 10章・指定図書第11章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): コストマネジメント②(活動基準原価計算と活動基準管理)</p> <p>内 容: 製造間接費の配賦に関する技法である活動基準原価計算と活動間の価値連鎖の管理に注目する活動基準管理について説明します。</p> <p>教科書第8章・指定図書第9章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): コストマネジメント③(原価改善)</p> <p>内 容: 原価を継続的に低減しようとする仕組みである原価改善について説明します。主に JIT 生産方式とTQMについて解説します。</p> <p>教科書9章・指定図書第10章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): コストマネジメント④(原価企画)</p> <p>内 容: 製品の設計段階からコスト作り込み, 目標原価の実現に向けた組織的活動としての性格を持つ原価企画について説明します。</p> <p>教科書9章・指定図書第11章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): コストマネジメント⑤(原価企画の限界と逆機能)</p> <p>内 容: サプライヤーの疲弊, 設計担当者エンジニアの疲弊, 行き過ぎた顧客志向の弊害など原価企画の限界と逆機能について解説します。</p> <p>教科書9章・指定図書第11章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): コストマネジメント⑥(品質コストマネジメント)</p> <p>内 容: 製品やサービスの品質を向上させるためのコストとその効果を分析する手法である品質コストマネジメントについて説明します。予防コスト, 評価コスト, 内部失敗コスト, 外部失敗コストと, それらの活用方法について解説します。</p> <p>指定図書12章・配布プリント</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半の復習と中間テスト</p> <p>内 容: 1回から6回までの重要論点を復習し, 授業時間内に中間テストを行います。</p> <p>教科書・指定図書: 配布プリント</p>

第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計①(事業部制会計と業績評価)</p> <p>内 容:事業部制組織とカンパニー制組織の特徴を説明し、直接原価計算の重要性について解説します。</p> <p>教科書第 10 章・指定図書第 13 章</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計②(振替価格と事業部資本)</p> <p>内 容:代表的な振替価格の設定基準である市価基準と原価基準を説明する。また、事業部の業績を適切に評価するための手法である社内金利制度と社内基本金制度について解説します。</p> <p>教科書 11 章・指定図書 13 章</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計③(戦略マップ, バランススコアカード)</p> <p>内 容:戦略マップとバランススコアカードの関係性について解説し、バランススコアカードの4つの視点間の因果連鎖のマネジメント方法について検討します。</p> <p>指定図書第 2 章・配布プリント</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計④(バランススコアカード, 非財務尺度)</p> <p>内 容:バランススコアカードは、財務指標だけでなく、非財務尺度も統合しながら組織の全体的なパフォーマンスをマネジメントします。本講義では、顧客満足度や従業員のスキル向上などの非財務指標の設定と評価について解説します。</p> <p>指定図書第 2 章・配布プリント</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか):業績管理会計⑤(ミニ・プロフィット・センターとアメーバ経営)</p> <p>内 容:ミニ・プロフィット・センター制の意義と、その具体的手法であるアメーバ経営について解説します。本講義では、時間あたり採算、社内売買、およびフィロソフィーの重要性について検討します。</p> <p>教科書第 12 章・指定図書第 13 章</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか):サステナビリティ管理会計</p> <p>内 容:本講義では、マテリアルフローコスト会計と脱炭素に焦点を当てた管理会計を中心に解説します。サステナビリティマネジメントに対する管理会計の貢献について検討します。</p> <p>指定図書第 12 章・配布プリント</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):AI の管理会計への適用</p> <p>内 容:管理会計に AI が適用できる領域、いまだ適用には至っていないが適用可能性が高い領域、および近い将来に適用が見込まれる領域における課題を検討します。</p> <p>配布プリント</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):期末まとめ</p> <p>内 容:1 回から 14 回までの重要論点を復習し、練習問題の解説を行います。</p> <p>教科書・指定図書:配布プリント</p>
試験	<p>筆記試験を行います。試験は筆記具・電卓以外持込不可。</p>

〔科目名〕 経営特殊講義Ⅰ (現代の企業経営とコーポレート・ガバナンス)				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 風間信隆			〔オフィス・アワー〕 時間:授業時間の前後 場所:教員控室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 コーポレート・ガバナンス(「企業統治」ないし「会社統治」とも呼ばれることがある)についてその内容の深い理解とその国際比較を通して我が国企業の持続可能な発展に向けて改善・改革の方向性について検討を行う。コーポレート・ガバナンスは企業不祥事の防止と企業の競争力強化を目指して行われる経営者に対する監視・監督が問題となる。コーポレート・ガバナンスについては「会社は株主のもの」とする「一元的企業観(財産的企業観)」か「会社は社会のもの」とする「多元的企業観(制度的企業観)」のいずれかの観点から議論されてきた。本講義は、この二つの見方の統合(両立)可能性を論じる。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 コーポレート・ガバナンスは、現代の企業社会を理解するうえで不可欠な論点である。経営学ないし現代企業論を学んだ学生の皆さんはこのコーポレート・ガバナンスについてすでに多くのことを学び、理解しているはずである。ただし、これの科目での議論は経営学ないし企業論の部分領域に止まり、このテーマを全面的に取り上げるものではない。本特殊講義は、現代企業社会を理解するうえで不可欠なテーマであるコーポレート・ガバナンスに焦点を当てて多角的視点から検討することで現代企業についての深い理解が可能となる。							
〔科目の到達目標〕 現代のVUCA(「Volatility:変動性」、「Uncertainty:不確実性」、「Complexity:複雑性」、「Ambiguity:曖昧性」)の時代において、経営者の「両利き経営」(探索行動=イノベーションと深化行動=効率的な管理)が求められている。こうした経営者の行動を監視し、適切な監督・助言を行うことを目指すコーポレート・ガバナンスの確立は企業の持続可能な発展のためには不可欠となる。本講義において、コーポレート・ガバナンスについての理解を深めることで現代企業の持続可能な発展に貢献できる知的能力を獲得することを目指す。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○				○			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業では、受講学生の皆さんの反応・意見に耳を傾けながら、常に授業の改善を心がけたい。授業へのコメント・改善点があればどしどし申し出て頂きたい。受講者の感想・意見を取り込みながら授業の運営を心掛けたい。							
〔教科書〕 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房。							
〔指定図書〕 勝部信夫著『日本企業論』文真堂刊。							
〔参考書〕 授業時に適宜指示する。							
〔前提科目〕 なし							

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>学期末に定期試験を行う。 毎回、出席をとる。</p> <p>原則として、中間レポートを課す。</p> <p>以上の要素を最終評価にどのように反映させるかについては、「中間レポート」の提出要領の発表時と最終授業時に通知する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>大学での学修は、授業内容を単なる知識として「覚えていく」のではなく、授業内容自体を、「自ら考えていく」ための材料として、考える力を身につけ、伸ばしていくことが目指されている。その目的の達成につながるように、すなわち考える材料としての「コーポレート・ガバナンス論」になるような授業を行っていきたい。講義形式の授業になると思うが、できる限り受講生の皆さんからの質疑応答も交えて、双方向のコミュニケーションができるように心がけるので、受け身の受講態度ではなく、積極的に授業に出席・参加してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授 業 ス ケ ジ ュ ー ル</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): コーポレート・ガバナンスの基本課題</p> <p>内 容: コーポレート・ガバナンスとは何か、株式会社とは何か</p> <p>教科書・指定図書 プロローグ・1(株式会社とは何か)</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式会社の会社機関構造</p> <p>内 容: 巨大株式会社と会社機関構造</p> <p>教科書・指定図書 II(巨大株式会社と会社機関構造)</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営者支配と「株主の復権」</p> <p>内 容: 株式会社と経営者支配、経済の金融化と新制度は経済学、マルチ・ステークホルダー・アプローチ</p> <p>教科書・指定図書 IIIとIV</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(1)</p> <p>内 容: 日本的コーポレート・ガバナンスと企業不祥事</p> <p>教科書・指定図書 VIとVII</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(2)</p> <p>内 容: 外部監視と利害多元的コーポレート・ガバナンス</p> <p>教科書・指定図書 VIII</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(3)</p> <p>内 容: 経営者報酬と同族企業のコーポレート・ガバナンス</p> <p>教科書・指定図書 IXとX</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(1)</p> <p>内 容:米国とドイツのコーポレート・ガバナンス</p> <p>教科書・指定図書 XIとXII</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(2)</p> <p>内 容:英国と北欧のコーポレート・ガバナンス</p> <p>教科書・指定図書 XIIIとXIV</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(3)</p> <p>内 容:韓国と中国のコーポレート・ガバナンス</p> <p>教科書・指定図書 XVとXVI</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(1)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと資本コストと事業投資</p> <p>教科書・指定図書 XVIIとXVIII</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(2)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと資本政策</p> <p>教科書・指定図書 XIX</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(3)</p> <p>内 容:M&A 機関投資家</p> <p>教科書・指定図書 XXとXXI</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):「株主受託者責任」と「社会受託者責任」の統合に向けて(1)</p> <p>内 容:企業の社会的責任(CSR)、ESG 投資</p> <p>教科書・指定図書 XXIIとXXIII</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):「株主受託者責任」と「社会受託者責任」の統合に向けて(2)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと社会的企業・企業倫理</p> <p>教科書・指定図書 XXIVとXXV</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスと企業価値の向上</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと事業の繁栄および本講義全体の取りまとめ</p> <p>教科書・指定図書 エピローグ</p>
試験	<p>期末試験期間中に試験を行います。</p>

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">現代仕事論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">専門科目 展開科目</p>				
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">赤坂道俊</p>	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義終了後、昼休み時間。 場所: 講師控え室。	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義</p>				
〔科目の概要〕 <p>仕事(労働)をすることは人間の基本的な営みである。だが、そのあり方は、経済や社会の変化を背景とした、企業環境や労働環境の変化と共に変容してきた。日本の労働環境は第二次対戦後に大きく変わったが、戦後においても、高度経済成長の終焉以降、労使関係や国の政策の変化(福祉国家の修正と市場主義の導入、規制緩和の拡大等)によって、労働環境は変容し、1990 年のバブルの崩壊と経済の低成長の時代の開始とともに、労働環境はさらに大きく変化した。</p> <p>近年の ITC の技術革新や交通革新は企業活動のグローバル化を加速させたが、それを一因とする、新興国の経済発展や企業間の国際競争の激化、国による労働分野の規制改革等に後押しされて、雇用は多様化した。すなわち、終戦直後に行われた労働改革と高度経済成長期に形成された日本の安定的な雇用慣行は、石油ショックとバブル経済の崩壊後に大きく変容し、非正規雇用の拡大とそれに伴う新たな雇用格差が生まれた。</p> <p>こうして今、戦後に一度は解消した雇用身分制が再度、復活し、格差社会が拡がりつつある。人々の働き方、企業の「働かせ方」には大きな変化が生じている。</p> <p>本講義では戦後日本の雇用慣行の形成とその変容、1970 年代以降の労働分野の規制緩和と雇用の多様化、非正規雇用の増加とその問題点、労働者派遣業の解禁とその問題点等について講義し、他方で、正規社員の絞り込みとホワイトカラーの労働環境の変化について講義して、現代日本における仕事(労働)のあり方について考えていく。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 雇用、労働のあり方は現代社会の中心問題であり、経営学や経済学においても重要なテーマである。 2. 現代社会は「企業中心社会」でもある。労働・雇用問題を学ぶことは現代社会の核心問題を認識することにつながる。 3. 多くの学生は卒業後、企業で働く。企業で働き、社会人になる学生諸君が自らの立場と「働くことの意味」を認識することは重要である。						
〔科目の到達目標〕 1. 企業社会における労働のあり方と働くことの意味を知る。(最終目標) 2. 日本の雇用慣行の変容と労働者の状況の変化を知る。 3. 現代日本の雇用の多様化＝非正規労働の増加とその課題について学び、女性労働に対する社会的課題について学ぶ。この学びを通じて、少子化問題の根本原因を理解し、少子化対策を考える。 4. ホワイトカラー労働者の状況と「過労死」問題について学び、働き方のあるべき姿を考える。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 専門的な事項、用語について丁寧な説明を心がけるとともに、聞き取りやすい授業になるよう努力する。 2. 講義の重要ポイントについて理解されたかどうかその都度、確認する。 3. レポート課題、小テストを実施し、学生諸君の自主学習を促す。						

<p>〔教科書〕 講義プリントを配布する。</p>	
<p>〔指定図書〕 講義の際に紹介する。</p>	
<p>〔参考書〕①野村村正美『終身雇用』岩波書店、1994。②森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』ちくま新書、2009年。③森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015年。④熊沢誠『能力主義と企業社会』、1997年。⑤森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書、2005年。⑥ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』2006年、岩波新書。⑦戸塚他編『現代日本の労働問題』ミネルヴァ書房、1993年。⑧濱口桂一郎『ジョブ型雇用とは何か』2021年、岩波新書。</p>	
<p>〔前提科目〕 経営学、経済学。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末テストの成績(80%)と課題レポート、小テストの成績(20%)で評価する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 期末テストの成績と課題レポート、小テストの成績で評価する。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 講義ガイダンス。社会の発展と労働観の変化。日本的雇用慣行。 内 容: 講義のガイダンス(講義の目的、概要、評価などの説明)。社会の発展と労働観の変化。日本的雇用慣行とその変容。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本的経営と三種の神器。 内 容: 終身雇用、年功賃金、企業別組合と終身雇用の再定義。 教科書・指定図書: 上記、①、⑥の他、佐藤光『入門日本の経済改革』PHP新書、1997年も参照。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 戦前日本の労働者の状態と戦後「労働改革」。 内 容: 戦前の労働者の状態。「戦後改革」と労働三法の制定。高度経済成長と終身雇用。 教科書・指定図書: 指定図書: 上記、参考文献の他、戦前については中村正則『労働者と農民』小学館、1990年も参照。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 戦後日本の労働者の状態: 大企業の雇用慣行と中小企業の雇用慣行。 内 容: 大企業と中小企業の雇用慣行。下請制度と企業規模別賃金格差。 教科書・指定図書: 指定図書: 上記、参考文献、特に③、⑦を参照。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 1973年石油危機と低成長-雇用の流動化: 非正規労働の増加とパート労働の状況。 内 容: 低成長と雇用流動化=非正規労働の増加。経団連の雇用政策。雇用形態の多様化と雇用の不安定化。パートはどのように増えてきたか=パート労働の状況。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に①、③を参照。また、中野麻美『労働ダンピング』岩波新書、2006年も参照。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 低成長と非正規労働の増加とパート労働、女性労働の状況と課題。 内 容: 正規・非正規(パートタイム)の賃金格差。日本的性別分業とM字型カーブ。性別賃金格差と課題一少子化の根本原因と「少子化対策」の問題点。 教科書・指定図書: 上記、参考文献を参照。特に②、③を参照。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働(その1)</p> <p>内容:戦前の「派遣業」=手配師と女工。今日の派遣会社と派遣労働者。戦後労働改革と労働者供給事業の禁止。労働分野の規制緩和-労働者供給事業の解禁。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。また、戦前については、前掲、中村『労働者と農民』と犬丸義一校訂『職事情』(上)岩波文庫、1998年が有益。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働(その2)</p> <p>内容:1980年代半ば以降の雇用の規制緩和と派遣労働-派遣労働解禁の背景。平成不況とリーマン・ショック下の派遣切り、派遣労働の問題点の表面化について。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③、⑦を参照。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):雇用の規制緩和と派遣労働(その3)。</p> <p>内容:雇用関係からみた派遣という働き方。労働者派遣制度の本質的特徴。派遣労働:「登録型」と「常用品」、その問題点。非正規労働者・派遣労働者の「2018年問題」。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に③を参照。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働(1)</p> <p>内容:低成長と労働の規制緩和(雇用流動化)=非正規労働の増加と正社員の長時間労働。労働時間の制限と短縮の歴史。日本の労働時間規制の歴史。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤を参照。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):低成長と日本的雇用慣行の変容-正社員の絞り込みと長時間労働(2)</p> <p>内容:市場原理主義と規制緩和論。財界の雇用政策。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働時間規制と規制緩和。</p> <p>内容:現行の労働時間規制と現状。労働時間の規制緩和の歴史。変形労働時間制、裁量労働時間制について。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に⑤、⑦を参照。また、八代尚宏『雇用改革の時代』中公新書、1999年も参照。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代日本のホワイトカラーの状態。</p> <p>内容:ホワイトカラーは増えているか?成果主義の導入。過労死と労災認定について。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②、⑦を参照。また、熊沢誠『能力主義と企業社会』1997年、同『働き者たち泣き笑顔-現代日本の労働・教育経済社会システム』有斐閣、1993年</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ホワイトカラーと過労死問題。</p> <p>内容:過労死と過労自殺。過労自殺とホワイトカラー。教師、医療従事者の労働環境の悪化とうつ病。教育、医療現場の長時間労働。</p> <p>教科書・指定図書:上記、参考文献を参照。特に②を参照。また、川人博『過労自殺』岩波新書、1998年、森岡他『いのちが危ない残業代ゼロ制度』岩波書店、2014年も参照。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代日本の労働、雇用の課題-講義のまとめ。</p> <p>内容:規労働者の課題。非正規労働の増大と最低賃金制度の役割。</p> <p>コロナパンデミックとその遺産-テレワーク、「JOB型労働」の検討と評価。</p> <p>教科書・指定図書:参考文献、特に、⑧を参照。佐藤彰男『テレワーク「未来型労働の現実」』岩波新書、2008年、また、今野他『外国人労働相談最前線』岩波書店、2022年も参照。</p>
試験	<p>試験期間(最終講義日)に筆記試験を実施する。持ち込み不可。試験時間:60分。</p>

〔科目名〕 財務管理				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 長谷川美千留			〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:503 研究室			〔授業の方法〕 講義	
<p>〔科目の概要〕 財務管理の定義は、さまざまである。最も狭義の定義は、財務管理とは企業における資金調達および運用であるとするものである。近年、企業の重要な目的として、企業価値の向上が掲げられている。企業価値とは、非常に単純にとらえるなら、株式時価総額である。企業価値向上という目的を達成するために、資金調達、資金運用、株主還元といった課題に対し、企業は各々の利害関係者（ステークホルダー）を納得させるよう、慎重に判断をしなければならない。</p> <p>財務管理は、資本収益性と財務流動性という二つの具体的視点から、これを企業の目標と関連させて考える。前者の視点は、収益性管理、すなわち投下資本に対していかに利益を獲得できたかという視点である。後者は、流動性の管理、すなわち債務の返済能力や支払能力を適正に維持するという視点である。この二つの視点を軸に、財務分析、経営分析、財務諸表分析の手法や、多様化する昨今の企業報告システム、新たな資金調達方法などに関する理解と組み合わせながら、検討を進めていく。</p> <p>近年、財務指標なかでも ROE（株主資本利益率）がとりわけ、重視される傾向にある。企業価値の向上、株主価値経営および ROE（株主資本利益率）の三つが、いわば三位一体となり、我が国の企業が積極的に取り入れるべきものとされ、高く評価されている。その一方で、ROE（株主資本利益率）を過度に重視することに批判的な見解もみられるため、この点についても検討したい。</p>							
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</p> <p>財務管理論の学修に際し、経営学に関する知識、会計学に関する知識、金融に関する知識が役立つ。したがって、カリキュラムのうち経営学の基礎を学ぶ科目、簿記や会計学の基礎を学ぶ科目、金融の基礎を学ぶ科目については、すでに修得していることが望ましい。</p> <p>第一に、ROE が示す課題から、株主価値経営について考えるため、企業と利害関係者（ステークホルダー）の関係はどうあるべきか、という経営の観点が必要である。第二に、財務流動性および資本収益性に関する具体的な検討をするためには財務諸表の数値を用いるため、簿記や会計（財務諸表）に関する理解が必要である。とくに財務分析（、財務諸表分析、経営分析）の手法を用いるため、財務諸表に慣れていることで、財務管理をより技術的かつ具体的に容易に理解することができる。また、第三に、企業の資金調達に関する検討をするため、資本市場や金融の仕組みといった構造を理解していることにより、財務管理を学ぶ上での企業の外部の構造、システムを理解することができる。上述のように、主に三つ関連分野から財務管理論にアプローチすることで、その課題を複合的かつ立体的に理解することが出来る。</p>							
<p>〔科目の到達目標〕</p> <p>現代企業経営における財務管理の意義を理解する。 企業の資金調達をめぐる問題について考え、そこから企業の社会的意義について見解を述べる事が出来る。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>授業の時間をオーバーしないように気を付けたいと思います。</p>							

<p>【教科書】榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄・太田浩司・山崎尚志・山田和郎・月岡靖智(2023)『新・現代の財務管理(有斐閣アルマ)』有斐閣。</p>	
<p>【指定図書】</p> <p>A)鳥居陽介編 現代財務管理研究会(2022)『テキスト財務管理論第6版』中央経済社</p> <p>B)きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著『FP技能検定教本1級 ②金融資産運用 22～23年版』(きんざい、2022年)</p>	
<p>【参考書】藤井則彦・藤井博義・威知謙豪著『スタートアップ財務管理と会計—コーポレート・ガバナンス、日本企業の経営組織との関連で—』(中央経済社、2020年)</p>	
<p>【前提科目】</p> <p>経営学基礎論・会計学基礎論、財務分析Ⅰが取得済みであることは必須条件。</p> <p>財務会計論Ⅰ・Ⅱも取得済みであることが望ましい。</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</p> <p>定期試験(筆記)による評価</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>講義はゆっくり進めます。</p>	
<p>【実務経歴】なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ:財務管理とは何か</p> <p>内容:財務管理の意義について。</p> <p>教科書 第1章「財務管理とは」・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ:財務的意思決定の基礎</p> <p>内容:企業価値創造と割引キャッシュフロー法。</p> <p>教科書 第2章「財務的意思決定の基礎」・指定図書 A)第1講</p>
第3回	<p>テーマ:財務諸表と財務分析</p> <p>内容:財務諸表と財務分析の概要</p> <p>教科書「第3章財務諸表と財務分析」・指定図書 B)第4章、第5章</p>
第4回	<p>テーマ:レバレッジと資本コスト</p> <p>内容:レバレッジ効果と資本コスト</p> <p>教科書「第4章レバレッジと資本コスト」・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ:コーポレート・ガバナンスとESG</p> <p>内容:企業価値最大化をめざす経営の理想と現実</p> <p>教科書「第7章 コーポレート・ガバナンスとESG」・指定図書 A)第6講</p>
第6回	<p>テーマ:投資価値の創造</p> <p>内容:資本市場における企業価値の評価</p> <p>教科書「第9章 投資価値の創造」・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ:長期資金調達 of 制度</p> <p>内容:企業の長期資金調達と証券市場の仕組み。</p> <p>教科書「第10章 長期資金調達の制度」・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ:エクイティ・ファイナンス</p> <p>内容:エクイティ・ファイナンスの方法と種類</p> <p>教科書「第11章 エクイティ・ファイナンス」・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ:負債ファイナンス</p> <p>内 容:企業の負債政策、負債ファイナンスについて</p> <p>教科書「第12章 負債ファイナンスと証券化」・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ:配当政策</p> <p>内 容:配当をめぐる制度や政策</p> <p>教科書「第13章 配当政策と自社株買い」・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ:合併・買収と企業再編</p> <p>内 容:選択と集中の時代におけるM&Aについて</p> <p>教科書「第14章 合併・買収と企業再編」・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ:行動ファイナンス</p> <p>内 容:ファイナンスと心理学の融合</p> <p>教科書「第15章 行動ファイナンス」・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ:リスク管理</p> <p>内 容:リスク管理とリスクファイナンス</p> <p>教科書「第16章 リスク管理」・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ:金融資産運用</p> <p>内 容:さまざまな資産運用の形</p> <p>教科書・指定図書B)第3章、4章、5章、6章、7章</p>
第15回	<p>テーマ:これからの財務管理・学修事項の確認</p> <p>内 容:第1回から14回までの学修を確認し、これからの財務管理を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>定期(筆記)試験の実施。</p>

〔科目名〕 税 務 会 計	〔単位数〕 2 単 位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目																					
〔担当者〕 金 子 輝 雄	〔オフィス・アワー〕 時間: 研究室入口に表示 場所: 513	〔授業の方法〕 講 義																					
〔科目の概要〕 <p style="text-align: center;">これは経費で落ちますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費とは税金の計算上、控除できる費用を意味します。 ・節税もマネジメントです。利益の3～4割は税金で消えます。 ・税の観点から会計を学びます。 <p>簿記検定の重要ポイントである、減価償却費の計算、先入先出法・移動平均法等の払出単価の計算、貸倒と貸倒引当金の計算、圧縮記帳の会計処理などを簿記の授業以上に詳しく解説していきます。特に税効果会計は税務会計がある程度が理解できて初めて修得できるものです(2級では丸暗記で対応できますが…)。</p> <p>法人税は企業会計で算定される利益を基礎として所得および税額を計算していますので、会計と税法は相互依存の関係にあります。しかしながら、会計と税務とでは目的が異なる(つまり、企業会計は企業の損益と財政状態の概要を明らかにすることを使命としているのに対して、税法は歳入の早期確保、公平性、担税力、政策等への観点から詳細で画一的かつ政策的な規制を行っているという違いがある)ため、利益と所得は一致しません。だからといって利益の計算と所得の計算を全く別々に行うのは煩雑なので、現実には両者の異なる部分を会計利益に調整を加えるというやり方で所得の算出が行われています。</p>																							
〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <ul style="list-style-type: none"> ・現実の企業経営においては節税を視野に入れた意思決定を行うことが多々あります。 ・損益計算書の末尾に記載される「法人税等」の計算ができなければ財務会計(簿記等)は完結しません。 ・日商簿記検定試験2級以上では「税効果会計」が出題範囲となっていますが、それが理解できます。 ・法人税法能力検定試験2級およびファイナンシャル・プランナ(FP)のタックス・プランニング(法人税)をカバーします。 ・税理試験「法人税法」の受験準備(本試験はより高度ですが、概要把握には十分役立ちます)。 ・マクロ的な関心のある人は経済学科の「財政学」と関連付けて学ばれるとよいです。 																							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標 ・ 「法人税法能力検定試験」3級レベル 最終目標 ・ 「 同 」2 級レベル																							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕																							
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○						○
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○						○																	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 改善要求 ・ ・ 授業の内容が難しい。また授業内容が最終目標の税務能力検定試験の2級レベルに達していないのではとの指摘。 コメント ・ ・ 税の感覚がピンとこないということも一因だと思います。難しい事例や理論の紹介を減らし、教科書に沿って淡々と講義し、最終目標に到達させます。また、馴染みのある簿記や財務会計論に関連付け説明します。																							

〔教科書〕 全国経理教育協会編『演習法人税法<最新版>』清文社	
〔指定図書〕 特にありません。	
〔参考書〕 谷口勢津夫他『基礎から学べる租税法<最新版>弘文堂』他、適宜紹介します。	
〔前提科目〕 会計学基礎論、出来れば財務会計論も履修済みが望ましいです。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験（問題のレベルは3級と2級の中間程度を予定）(80%) ・レポート課題(10%) ・小テスト(10%) 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <ul style="list-style-type: none"> ・簿記・会計の理解を深めることを意識して法人税法を解説していきます。 ・少しづつ税法に馴染んでもらいます。税務会計では計算が中心ですが、3年次の租税法では租税理論を扱います。 ・指定した教科書には各章末に練習問題が用意されていますので自主的に解答しましょう。 	
〔実務経歴〕 銀行業及び税理士事務所での実務経歴	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 簿記・会計と税法の関係について 内 容: 法人税のあらましと総則 教科書・指定図書 第1・2章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 利益と所得の違い。ええ～お布施に税金がかかる？ 内 容: 法人税法上の所得と会計利益との関係、調整計算 教科書・指定図書 第3章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 収益・費用、大切なのはタイミング！ 内 容: 収益・費用の計上時期とその特例 教科書・指定図書 第4章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 在庫品はいくらになるか？ 内 容: 棚卸資産の範囲、取得原価の決定と期末評価の方法 教科書・指定図書 第5章
第5回	テーマ(何を学ぶか): リングの木も減価償却？ 内 容: 資本的支出と修繕費、減価償却の対象 教科書・指定図書 第6章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 減価償却費のいろんな計算 内 容: 減価償却限度超過額または不足額の調整 教科書・指定図書 第6章

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用なのに資産?繰延資産というもの。 内 容:繰延資産の範囲と償却期間</p> <p>教科書・指定図書 第7章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):役員は自身の給料を自由に決められるか?</p> <p>内 容:税法上の役員の範囲および過大役員報酬・賞与・退職給与の損金不算入</p> <p>教科書・指定図書 第8章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):租税公課と寄付金 会社もふるさと納税!</p> <p>内 容: 損金となる税金と損金にならない税金、罰課金の取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 第10・11章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):寄付金・交際費 社員旅行に税金?</p> <p>内 容: 寄付金・交際費の損金算入限度額と類似費目</p> <p>教科書・指定図書 第11章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):貸倒引当金 相手が破綻したらどうなる?</p> <p>内 容:貸倒損失の認定と貸倒引当金繰入限度額</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):圧縮記帳 補助金にも課税?</p> <p>内 容:国庫補助金、保険差益、交換の圧縮記帳</p> <p>教科書・指定図書 第13章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):受取配当等の益金不算入と有価証券課税 二重課税って?</p> <p>内 容:所有株式等の区分と益金不算入割合および有価証券評価損益・譲渡損益の取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 第14・15章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):欠損金の繰越控除と税効果会計 赤字も悪くないよね!</p> <p>内 容:欠損金の繰越控除、申告調整と別表四および税効果会計の関連について</p> <p>教科書・指定図書 第16・17章および追加プリント</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):税額計算と演習問題</p> <p>内 容:期末試験や検定試験を意識した総合問題演習</p> <p>教科書・指定図書 第18・23章</p>
定期試験	

[科目名] 財務分析Ⅱ				[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目 展開科目		
[担当者] 長谷川美千留		[オフィス・アワー] 時間: 場所:503 研究室			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] 財務分析Ⅱは、すでに習得している財務分析に関する基本事項を再確認し、財務諸表を中心とする企業の情報を解釈することをその内容としている。 財務分析は、経営分析または財務諸表分析とも呼ばれる。伝統的な財務分析は、企業が制度のもと開示する財務諸表に対し、おもに四つの観点(安全性・収益性・生産性・成長性)から検討をする。このような伝統的なアプローチは、その基礎を会計学においている。会計関連の学習プロセスは、第一段階として、簿記により財務諸表の作成技術を学び、第二段階として会計制度を学修し、財務諸表の背景に存在する理論を習得する。この科目で扱うのは、続く第三段階の応用であり、財務諸表を安全性・収益性、セグメント情報の分析・株式投資の視点、財務諸表以外の企業の任意開示情報などの様々な観点から、対象となる企業の実態を検討する。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 財務分析の対象となる財務諸表は、財務報告制度、会計理論、簿記という記帳技術の結晶である。したがって、簿記、会計関連の基礎科目とは密接な関連を持っている。財務分析の対象となる財務諸表は、そもそも会計監査制度により、その信頼性が担保・保証されているという前提であるから、この点で監査論とも密接に関連している。							
[科目の到達目標] 連結財務諸表ならびに財務諸表について、基本的な財務指標を用いた分析をすることが出来る。 その結果について、自らの企業経営に対する考えに基づき、見解を論じることが出来る。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 今年から担当のためなし							
[教科書]大阪商工会議所編(2024)『ビジネス会計検定試験公式テキスト2級第6版』中央経済社							
[指定図書]大阪商工会議所編(2024)『ビジネス会計検定試験公式過去問題集2級第6版』中央経済社							
[参考書] 桜井久勝(2024)『財務諸表分析 第9版』中央経済社							
[前提科目] 会計学基礎論、財務分析Ⅰの単位が取得済みであることは必須条件。 財務分析Ⅱのみ、またはⅡからの受講は認めない。							
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 定期試験(筆記)							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 財務分析をきっかけに、様々な企業に関心をもってもらいたいと思います。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ: 企業会計の意義と制度 内 容: 企業会計の制度 教科書 第1章・指定図書 第1章
第2回	テーマ: 財務諸表 内 容: 連結財務諸表 教科書 第2章・指定図書 第2章
第3回	テーマ: 貸借対照表① 内 容: 資産・負債・純資産 教科書 第3章・指定図書 第3章
第4回	テーマ: 貸借対照表② 内 容: 資産・負債・純資産 教科書 第3章・指定図書 第3章
第5回	テーマ: 損益計算書 内 容: 連結損益計算書・損益計算書のルール 教科書 第4章・指定図書 第4章・
第6回	テーマ: 連結包括利益計算書と株主資本等変動計算書 内 容: 包括利益概念・包括利益計算書の様式、連結環として働く株主資本等変動計算書 教科書 第5章6章・指定図書 第5章6章
第7回	テーマ: 連結キャッシュフロー計算書 内 容: 連結キャッシュフロー計算書のしくみ 教科書 第7章・指定図書 第7章
第8回	テーマ: 第1回から第7回までのまとめ 内 容: 教科書 第1章から7章・指定図書 第1章から7章
第9回	テーマ: 財務諸表分析① 内 容: 安全性の分析 教科書 第9章・指定図書 第9章
第10回	テーマ: 財務諸表分析② 内 容: 収益性の分析 教科書 第9章・指定図書 第9章
第11回	テーマ: 財務諸表分析③ 内 容: キャッシュフロー分析 教科書 第9章・指定図書 第9章
第12回	テーマ: 1株当たり分析 内 容: 株式投資の視点 教科書 第9章・指定図書 第9章

第 13 回	<p>テーマ:財務分析実践①</p> <p>内 容:実際の企業データを用いて分析 他社比較</p> <p>教科書 第 9 章・指定図書 第 9 章</p>
第 14 回	<p>テーマ:財務分析実践②</p> <p>内 容:実際の企業データを用いて分析 趨勢</p> <p>教科書 第 9 章・指定図書 第 9 章</p>
第 15 回	<p>テーマ:財務分析実践③</p> <p>内 容:実際の企業データを用いて分析 他社比較と趨勢分析の組み合わせ</p> <p>教科書 第 9 章・指定図書 第 9 章</p>
試 験	<p>定期試験(筆記)</p>

〔科目名〕				〔単位数〕		〔科目区分〕	
経営史				2 単位		専門科目 展開科目	
〔担当者〕			〔オフィス・アワー〕			〔授業の方法〕	
平野 恭平			時間： 休憩時間および講義終了後 場所： 講義室			講義	
〔科目の概要〕							
<p>経済活動の重要な担い手である企業の歴史を振り返ると、いつの時代にも経営者・管理者・技術者たちによる様々な挑戦と工夫が行われてきたことがわかります。経営史の講義では、そのような先人たちの取り組みを学ぶことによって、経済・経営発展の歴史を理解し、その現代的な意義を考えます。経営・管理・技術にまつわる日本経営史の代表的なトピックスを学びます。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
<p>現在の経営現象や未来の経営のあり方を考える時でも、その成立過程や発展段階など、歴史的視点から捉えることは大事です。経路依存性という言葉があるように、過去が現在や未来を規定することもあります。歴史を学ぶことは、過去からの連続性をもって現在の経営現象や未来の経営を考える力に結びつきます。</p>							
〔科目の到達目標〕							
<p>日本経営史の基本的な知識を身につけて、歴史的視点から経営現象を理解・考察できるようになることを目標にします。日本経営史の代表的なトピックスを学びながら、いつ何が起きたのかという「結果の暗記」ではなく、何故どのようにして起きたのかという「過程の思考」を身につけることを目指します。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○			○		○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
特にない。							
〔教科書〕							
宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編『1からの経営史』碩学舎, 2014年。							
〔指定図書〕							
特にない。							
〔参考書〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木聡編『グラフィック経営史』新世社, 2022年。 ・宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史』第3版, 有斐閣, 2023年。 							
〔前提科目〕							
特にない。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)							
<p>期末試験(100%)に基づいて評価します。日本経営史の代表的なトピックスを正しく理解しているか、経営学の知識を踏まえて理解しているか、現在と過去を結びつけて理解しているかを成績評価の基準とします。</p>							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕							
<p>歴史というと暗記科目のイメージが強いかもしれませんが、覚えることよりも、考えることを大事にして講義に臨んでもらえると、経営史の理解は深くなると思います。高校時代に日本史を取らなかった場合でも、理解できるように説明するつもりです。</p>							

〔実務経歴〕	
なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：なぜ歴史を学ぶのか？</p> <p>内容：過去を学ぶことが現在を理解する上で重要な意味をもつことを説明します。それを踏まえて、経営史という学問分野の特徴を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：該当なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：江戸時代の商家経営</p> <p>内容：江戸時代の商家の経営・管理について説明します。また、それらが近代以降にどのように受け継がれたのかも解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第1章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：明治の企業家たち</p> <p>内容：明治期の企業者活動について、5つのタイプに基づいて説明します。旺盛な企業者活動がみられた背景についても解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第2章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：近代産業の技術形成</p> <p>内容：綿紡績業を中心として海外からの技術導入について説明します。技術導入に頼りながらも、自主的に技術を形成していくことの重要性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第3章, 第6章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：近代産業の経営管理</p> <p>内容：綿紡績業を中心として、近代工場での経営管理について説明します。科学的管理法や労働者を重視した労務管理の有効性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第3章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：財閥の戦略と組織</p> <p>内容：日本のビッグビジネスであった財閥の戦略と組織について、三菱や三井を取り上げて説明します。繁栄した財閥と没落した財閥の違いを経営面から解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本の雇用システムの形成</p> <p>内容：新卒採用と長期雇用が補完し合う雇用システムの形成について、企業と学校の関係性から説明します。それを踏まえて、現在との連続性を解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第7章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：消費を生み出すマーケティング</p> <p>内容：西洋から流入してきた商品が日本で受け入れられていく過程をマーケティング面から説明します。消費者に影響を及ぼした宣伝広告について解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第8章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：重化学工業化と新興財閥</p> <p>内容：両大戦間期の重化学工業化を担った新興コンツェルンについて、代表的な企業家を中心に説明します。戦時経済下の企業活動についても、可能な限り解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本の生産システムの形成</p> <p>内容：フォードシステムとは異なる形で形成された日本の生産システムについて、戦前から戦時期を経て戦後に至る流れで説明します。日本的という言葉のもつ意味も解説します。</p>

	教科書・指定図書：教科書第12章
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)：企業集団とメインバンク・システム</p> <p>内容：戦前の財閥から戦後の企業集団への移り変わりを説明します。それとともに、メインバンクが果たしてきた役割についても解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第9章, 第11章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)：大衆消費社会と家電産業</p> <p>内容：高度経済成長を支えた家電産業について、家電メーカーの経営戦略を中心に説明します。成功した企業だけではなく、挫折した企業にも目を向けて解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第10章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)：グローバル化と海外進出</p> <p>内容：戦前の海外進出と戦後の海外進出について説明します。戦前でも戦後でも、日本の経営管理が進出先国で通用したのかを解説します。</p> <p>教科書・指定図書：該当なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)：流通革命の進展</p> <p>内容：百貨店・スーパー・コンビニという戦後の小売業の主役の交代を説明します。消費者や取引制度の変化を交えながら解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第13章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)：日本的経営の到達点</p> <p>内容：高度経済成長を経て、海外から賞賛された日本的経営の到達点と限界について説明します。輝きを失った現代の日本企業の経営を歴史的視点から理解できるように解説します。</p> <p>教科書・指定図書：教科書第15章</p>
試験	期末試験を60分で実施し、終了後の残った時間で試験の解説を行います。

〔科目名〕 計量経済学				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目		
〔担当者〕 楠山 大暁 Kusuyama Hiroaki			〔オフィス・アワー〕 時間: 授業実施日の授業時間後 場所: 非常勤講師控え室			〔授業の方法〕 講義および実習		
〔科目の概要〕 計量経済学は、2 年次春学期に開講された統計学で学んだことを土台として、初級レベルの計量経済学的手法を学ぶ科目です。 計量経済学では、様々な現象を比例的に捉える線形回帰モデルを発展させることによって、社会経済に潜む因果効果に迫ろうとします。したがって本講義では、「X が増えれば Y が増える」といったような比例的な関係が、単なる相関関係を示しているだけなのか、それとも因果関係を示しているものなのかを見極めるための計量経済学的手法を学ぶことに主眼をおきます。 本講義では、統計学で学んだことを復習しながら、記述統計としての最小 2 乗法を学び、線形回帰モデルによって推定された計算結果が因果関係といえる条件について議論します。また、gretl のような初心者向けフリーソフトを用いて実際にデータ分析を行います。								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 本講義は 2 年次春学期開講科目の「統計学」を基礎とします。また、計量経済学はこれまでに学んだマイクロ経済学やマクロ経済学の理論が現実社会においても妥当性を持つかどうかを実際のデータを用いて検証することを目的とします。 近年、様々なデータの入手が容易になるに当たって、「エビデンスに基づく政策形成 (EBPM)」の重要性が叫ばれるようになってきました。これは、多くの政策領域において、データに基づく因果関係の立証を求められていることを意味します。このようなデータに基づく因果関係の立証に必要な不可欠な技術のひとつが計量経済学による実証分析です。 本講義によって、計量経済学的手法をマスターできれば、専門書や学術論文の分析結果を読めるようになるだけでなく、将来的には自ら分析を行って、論文を書いたり、政策やマーケティングといった実務の現場に役立てられるようになるでしょう。								
〔科目の到達目標〕 初級レベルの計量経済学的手法を習得することを目指します。その上で、自らの関心のあるテーマのデータを用いて実証分析を行い、分析結果を適確に解釈できるようになることを最終的な到達目標とします。								
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
○		○	○		○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 実際に統計ソフトを用いてデータ分析を行います。								
〔教科書〕 毎回、プリントを配布します。								

〔指定図書〕 鹿野繁樹(2015)『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』日本評論社	
〔参考書〕 岩澤政宗(2022)『計量経済学』日本評論社	
〔前提科目〕 統計学、経済統計、ミクロ経済学、マクロ経済学、情報リテラシー I	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・レポート課題 2 割 ・復習テスト(2 回実施)3 割 ・期末試験 5 割 レポートはデータ分析の結果を報告してもらいます。第 1 回目の授業で詳細を説明します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 計量経済学の理論の習得とデータ分析の実践をバランスよく行ってほしいと思います。ぜひ、積極的に授業に臨んで下さい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 計量経済学の役割 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習① 内 容: データの扱い方 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習② 内 容: 確率論 1 確率の概念 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習③ 内 容: 確率論 2 確率分布 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習④ 内 容: 確率論 3 2 つ以上の事柄の確率変数 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習⑤ 内 容: 統計的推論とは 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習⑥ 内 容: 標本平均の性質 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習⑦ 内 容: 標本分散と効率性 教科書・指定図書 授業プリントの配布
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 統計学の復習⑧と第 1 回～第 8 回までの復習テスト 内 容: 仮説検定 教科書・指定図書 授業プリントの配布

第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか):因果効果とは①</p> <p>内 容:線形回帰モデルにおける因果効果の定義</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか):因果効果とは②</p> <p>内 容:線形回帰モデルにおけるパラメータを因果効果と解釈するための条件</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか):単回帰分析①</p> <p>内 容:単回帰モデルと最小 2 乗法</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか):単回帰分析②</p> <p>内 容:パラメータの解釈</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):単回帰分析③</p> <p>内 容:最小 2 乗推定量の性質について</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の基本①</p> <p>内 容:外的条件を制御する重回帰モデル</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 16 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の基本②</p> <p>内 容:欠落変数によるバイアス</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 17 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の基本③</p> <p>内 容: 検定</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 18 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の基本④</p> <p>内 容:大標本理論</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の応用①</p> <p>内 容:関数形の選択</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の応用②</p> <p>内 容:ダミー変数を使った分析</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の応用③</p> <p>内 容:不均一分散に頑健な標準誤差について</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):重回帰分析の応用④</p> <p>内 容:分散不均一性の検定</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):実証分析のレポート作成方法① 第 9 回～第 22 回までの復習テスト</p> <p>内 容:データの入手の仕方</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>

第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):実証分析のレポート作成方法②</p> <p>内 容:実証分析の結果のレポート作成方法</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):実証分析のレポート作成方法③</p> <p>内 容:推定結果の解釈</p> <p>教科書・指定図書 授業プリントの配布</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):gretl を使った実習①</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):gretl を使った実習②</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか):gretl を使った実習③</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか):gretl を使った実習④</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか):総復習</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>期末試験を実施します。</p>

〔科目名〕 国際経済学	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目				
〔担当者〕 河野秀孝	〔オフィス・アワー〕 時間: 月曜から金曜 (5 限に授業のない日の午後 5 時から 6 時、その他はメールでアポを取る)。 場所: 508 研究室	〔授業の方法〕 講義				
〔科目の概要〕 <p>ボーダレス化が進む今日の社会では、国という枠組みを越え、様々なビジネスの分野においても、国際経済に対する認識は必須のものと考えます。マスコミに取り上げられる国際経済問題として、例えば、各国は世界規模の自由貿易のために努力すべきか、それとも、地域的な貿易協定を推進すべきかどうかの問題や、各国政府は資本や労働の自由な国際移動に干渉すべきかどうか等の問題が新聞やニュースで取り上げられています。本講義では、まず、古典的リカードやヘクシャオリーン等の伝統的モデルを履修し、近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展にも言及しながら、様々な国際経済問題を例として、実証的かつ規範的分析を進めていきます。政策面では関税や補助金等による貿易政策に焦点をあてます。最後に、金融的側面にも触れ、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>国際経済学は、皆さんがこれまで履修した経済理論、特にミクロ経済学とマクロ経済学の応用で、国際的経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練であると考えるべきです。また、本講義では、代表的モデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、少し進んだ分析的物語（モデル構築）を学生各自が自力で作成できるようになることを念頭に、授業を進めるつもりです。簡単な算数といえども、目的に応じた分析的物語作成の際、強力な力を発揮することを味わって頂きたい。さらに、一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいて頂きたい。説明責任の重要性がますます認識される中、論理的思考力を高めることは、官民間問わず、重要になって来ると考えます。講義を通して、まずは、論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>私たちが住んでいる今日の世界は相互依存関係にある国々によって構成され、国際経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっている。この事は、私たちの日常生活までも、海外から多大なる影響を受けていることを示している。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として考えながら、皆さんが日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。</p>						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的例を出来るだけ多くする。 2. 重要なところは反復をする。 3. 各授業のはじめに、前回の講義の要点に関して注意を喚起する。各自の理解度を認識してもらう。 4. 時間があれば、各モデルの講義の後、練習問題を通じて、モデルへの理解を深めてもらう。 						

〔教科書〕 なし（資料の配布予定）。	
〔指定図書〕 なし。	
〔参考書〕 <ul style="list-style-type: none"> ● J.R.マークセン・J.R.メルビン・W.H.ケンプファー・K.E.マスカス（1999）松村敦子訳 『国際貿易 理論と実証（上・下巻）』多賀出版。 ● 資料の配布。 	
〔前提科目〕 経済学基礎論、経営経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <ul style="list-style-type: none"> ● 1回の定期試験（期末試験）により、成績の総合評価をする。 <u>期末試験：100%</u> ● 評価の基準として、概ね、80%以上がA（毎年1割程度）、70%以上がB、60%以上がC、50%以上がD、50%未満をFとする。 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 まずは、皆さんに論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。出来るだけ身近な事例を挙げ、分かりやすく、また、興味を引くように授業の進め方を工夫するつもりです。 皆さんへの要望として、経済の諸問題に関心を持ち、少なくとも日本経済新聞の「経済教室」と「やさしい経済学」欄は、毎日読むようにし、授業には積極的に参加してください。	
〔実務経歴〕 「製造業」	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： 国際貿易の展望と重要性 内 容： 国際貿易の意義、今日のグローバル経済化での経済関係。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 供給と生産可能性 内 容： ミクロ経済学の供給サイドの復習。特に、生産可能性曲線の導出。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)： 選考、需要、経済厚生 内 容： ミクロ経済学の供給サイドの需要サイドの復習。社会的無差別曲線とその妥当性。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 閉鎖経済における一般均衡 内 容： 基本的な一般均衡モデルの復習。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 開放経済における一般均衡 内 容： 貿易が行われている一般均衡モデル構造とその特徴。 教科書・指定図書

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易利益 I</p> <p>内 容:純粹交換と供給サイドを加えた交換の利益。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易利益 II</p> <p>内 容:貿易利益とその定理</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):交換による利益</p> <p>内 容:交換だけのメリット</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):特化による利益</p> <p>内 容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):交換と特化の利益</p> <p>内 容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):嗜好の違いによる貿易の分配</p> <p>内 容:貿易は嗜好・選好の違いでも貿易は行われる。その違いがあればあるほど、貿易のメリットは大きい。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):生産要素賦存の違いによる貿易の分配</p> <p>内 容:一般均衡の枠組みで、各国の生産要素賦存の違いでも、貿易が行われる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):復習 I</p> <p>内 容:学生への質問と簡単な理解度チェック。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):復習 II</p> <p>内 容:これまでの授業前半の復習。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際貿易の原因</p> <p>内 容:なぜ国際貿易は行われているのか。そのメリットは何か。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):リカードモデル</p> <p>内 容:供給サイドの各国の技術の相違によって、貿易のパターンを説明する。リカードの古典中の古典を講義。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):リカードモデル</p> <p>内 容:一般に言われている比較優位の原則とはどういうことか。なぜ、多くの人が比較優位と絶対優位の区別がついていないのか。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデル I</p> <p>内 容:供給サイドの各国の相対的要素賦存比率の違いによって、貿易のパターンを説明する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーモデル II</p> <p>内 容:このモデルの貿易論の古典であり、その後の理論の発展の基礎となっている。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーモデル III</p> <p>内 容:このモデルの応用。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーモデル IV</p> <p>内 容:このモデルの今日的・実証的有用性と、その後の発展。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデル I</p> <p>内 容:これまでの長期モデルに対しての短期モデル。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデル II</p> <p>内 容:短期モデルの応用。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易政策 I</p> <p>内 容:税と補助金</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易政策 II</p> <p>内 容:関税、輸入補助金、非関税障壁</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易と不完全競争</p> <p>内 容:国内での不完全競争下での貿易のメリットは何か。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):規模に関する収穫逓減</p> <p>内 容:これまでの様に、規模に関して収穫一定ではなく、収穫逓減または収穫逓増下での貿易の効果はどの様なものであるか。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか):嗜好・技術進歩と貿易</p> <p>内 容:一国の経済厚生だけでなく、所得分配に対して、嗜好・技術進歩と貿易はどの様な影響を与えるか。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか):比較優位の実証研究</p> <p>内 容:最近の実証研究からの貿易のメリットはどれくらいの金額として、試算されているか。例えば、日本の自由化のメリットやデメリットは金額的にはどれくらいになるだろうか。農業部門への損害・利益は、金額的試算によればどれくらいになるのか。日本の試算だけでなく、海外の試算も紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか):期末試験前の復習</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>期末試験</p>

〔科目名〕 公共経済学	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目				
〔担当者〕 青山 直人	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 研究室 (530号室)	〔授業の方法〕 講義				
〔科目の概要〕 <p>公共経済学は政府活動を分析対象とします。現代の政府活動は、産業政策(産業組織論)、金融政策(金融経済学)、労働政策(労働経済学)、貿易政策(国際経済学)、社会保障政策(社会保障論)、都市政策(地域経済学、都市経済学)、環境政策(環境経済学)など様々な分野にわたっています。それらの政策は、それぞれの応用経済学の分野が取り組んでいます。その中で、公共経済学は、政府の様々な経済活動に共通する要素を抽出し、一般的に分析します。</p> <p>皆さんがこれまでに学習したように、経済学では希少資源について選択(意思決定)の問題を考えます。公共経済学では、希少な資源の利用に関して「何が(公共財か私的財か)、どのような方法で(公共部門か民間部門か)、誰のために(分配の問題)生産されるべきか。どのように意思決定されるか」を問題とします。公共部門におけるこの問題を考えるためには、公共部門の役割と活動評価、公共部門の意思決定の基礎となっている政治過程を考察する必要があります。このことが公共経済学の分析領域となります。本講義では、「公共部門の役割」、「公共部門の活動評価」、「公共部門の意思決定」をテーマに、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割、公共部門によって供給される財・サービスの性質と効率性、環境問題における政府活動、公共計画における経済効率性と公平性、生産における政府の役割、公共支出における意思決定プロセスについて、基礎理論を学習します。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>公共経済学は、経済学のコア科目であるミクロ経済学とマクロ経済学と関連しますが、本講義では、市場機構による資源配分をベースとして公共部門の役割を取り上げます。そのため、ミクロ経済学により近い内容となっています。また、政府活動を分析の対象とするため他の応用経済学の分野と何らかの関連を持ちますが、同様の理由から、産業組織論や環境経済学などと関連があります。</p> <p>日常生活で公共部門と関わりを持たずに生活している人はいません。必ず何かしらの関係を持っています。例えば、私たちが普段利用している司法や警察、消防、国道、都道府県道、市町村道、上下水道、ごみ・し尿処理、公立の医療機関、公立の教育機関などのサービスは公共部門によって供給されています。それでは、公共部門は限られた希少な資源を使い、何を、誰のために、どのように意思決定を行い、供給しているのでしょうか。公共経済学の基礎理論を学習し、皆さんが利用している公共部門のサービスを考えるための力を身につけてほしいと思います。</p>						
〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・市場の効率性、市場の失敗と政府の役割、公共部門によって供給される財・サービスの性質と効率性、環境問題における政府活動を考えるための基礎理論を修得すること ・公共計画における経済効率性と公平性、生産における政府の役割、公共支出における意思決定プロセス、を考えるための基礎理論を修得すること 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・板書時間を十分に確保するようにします。						
〔教科書〕 ジョセフ・E・スティグリッツ／ジェイ・K・ローゼンガード著、藪下史郎訳『スティグリッツ 公共経済学 (第3版) 上 公共部門・公共支出』東洋経済新報社、2022年。						

〔指定図書〕 常木淳著『新経済学ライブラリ 8 公共経済学 第2版』新世社、2002年。 林正義・小川光・別所俊一郎著『公共経済学』有斐閣、2010年。	
〔参考書〕 坂谷淳一・佐野博之著『コア・テキスト 公共経済学』新世社、2013年。 土居丈朗著『入門 公共経済学 第2版』日本評論社、2018年。 Joseph E. Stiglitz, Jay K. Rosengard, 2015, “Economics of the Public Sector Fourth International Student Edition”, W.W. Norton Company	
〔前提科目〕 経済学基礎論、経済数学、ミクロ経済学	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験期間中に試験を実施します。 ・ 小テスト(もしくは課題)を実施します。 ・ 期末試験と小テスト(もしくは課題)の結果を総合的に評価します。 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ミクロ経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むようにしてください。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりです。ただし、授業内容の理解度(小テストの結果等)によっては、スケジュールを変更することもあります。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 混合経済における公共部門 内 容: 「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(1章)など
第2回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 混合経済における公共部門 内 容: 第1回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(1章)など
第3回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 混合経済における公共部門 内 容: 第2回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(1章)など
第4回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 混合経済における公共部門 内 容: 第3回講義の続き。「政府の経済的役割」「政府とは何か、誰なのか」「公共経済学的な考え方」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(1章)など
第5回	テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性 内 容: 「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(2章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など
第6回	テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性 内 容: 第5回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。 教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(2章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性</p> <p>内 容: 第6回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(2章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(1) 市場の効率性</p> <p>内 容: 第7回講義の続き。「厚生経済学とパレート効率性」「経済効率性の分析」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(2章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗</p> <p>内 容: 「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメ리트財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(3章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗</p> <p>内 容: 第9回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメ리트財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(3章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗</p> <p>内 容: 第10回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメ리트財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(3章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(2) 市場の失敗</p> <p>内 容: 第11回講義の続き。「市場の失敗と政府の役割」「所得再分配とメ리트財」「政府の役割についての二つの分析方法」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(3章)、常木(1章)、林・小川・別所(2章)など</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(3) 公共財と公的に供給される私的財</p> <p>内 容: 「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(4章)、常木(2章)、林・小川・別所(5章)など</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(3) 公共財と公的に供給される私的財</p> <p>内 容: 第13回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(4章)、常木(2章)、林・小川・別所(5章)など</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(3) 公共財と公的に供給される私的財</p> <p>内 容: 第14回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(4章)、常木(2章)、林・小川・別所(5章)など</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(3) 公共財と公的に供給される私的財</p> <p>内 容: 第15回講義の続き。「公共財」「公的に供給される私的財」「公共財のための効率性の条件」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(4章)、常木(2章)、林・小川・別所(5章)など</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(4) 外部性と環境問題</p> <p>内 容: 「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(5章)、常木(3章)、林・小川・別所(4章)など</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(4) 外部性と環境問題</p> <p>内 容: 第17回講義の続き。「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(5章)、常木(3章)、林・小川・別所(4章)など</p>

第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(4) 外部性と環境問題</p> <p>内 容: 第 18 回講義の続き。「外部性の問題」「外部性の私的解決策」「外部性の公的解決策」を学習します。</p> <p>配布資料: スティグリッツ/ローゼンガード(5 章)、常木(3 章)、林・小川・別所(4 章)など</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(5) 効率と公平</p> <p>内 容: 「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(6 章)、常木(7 章)、林・小川・別所(9 章)など</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(5) 効率と公平</p> <p>内 容: 第 20 回講義の続き。「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(6 章)、常木(7 章)、林・小川・別所(9 章)など</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 厚生経済学の基礎(5) 効率と公平</p> <p>内 容: 第 21 回講義の続き。「効率と分配のトレードオフ」「社会選択の分析」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(6 章)、常木(7 章)、林・小川・別所(9 章)など</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(1) 財・サービスの公的生産</p> <p>内 容: 「自然独占」「価格規制」などを学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(7 章)、常木(4 章)、林・小川・別所(3 章)など</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(1) 財・サービスの公的生産</p> <p>内 容: 第 23 回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(7 章)、常木(4 章)、林・小川・別所(3 章)など</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(1) 財・サービスの公的生産</p> <p>内 容: 第 24 回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(7 章)、常木(4 章)、林・小川・別所(3 章)など</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(1) 財・サービスの公的生産</p> <p>内 容: 第 25 回講義の続き。「自然独占」「価格規制」などを学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(7 章)、常木(4 章)、林・小川・別所(3 章)など</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(2) 公共選択</p> <p>内 容: 「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(8 章)、常木(2 章)、林・小川・別所(6 章)など</p>
第 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(2) 公共選択</p> <p>内 容: 第 27 回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(8 章)、常木(2 章)、林・小川・別所(6 章)など</p>
第 29 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(2) 公共選択</p> <p>内 容: 第 28 回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(8 章)、常木(2 章)、林・小川・別所(6 章)など</p>
第 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 公共支出の理論(2) 公共選択</p> <p>内 容: 第 29 回講義の続き。「資源配分の公的メカニズム」「公共財水準を決定する代替的機構」を学習します。</p> <p>教科書・指定図書: スティグリッツ/ローゼンガード(8 章)、常木(2 章)、林・小川・別所(6 章)など</p>
試 験	マーク式/記述式試験(予定)の実施。

[科目名] 労働経済学		[単位数] 4単位	[科目区分] 専門科目 基幹科目			
[担当者] 大矢 奈美		[オフィス・アワー] 時間: 学期開始時に連絡します。 場所: 研究室(523)		[授業の方法] 講義		
[科目の概要]						
<p>指定テキストにもあるように、労働経済学とは「経済学で労働の問題を説明する学問」ということができるでしょう。ミクロ経済学で学んだ理論を労働市場に適用して考えてみるということが、労働経済学の第一歩です。まず均衡概念を用いて労働供給・労働需要を考えますが、「労働」に関しては政府等によって実際に観測・収集されたデータが存在します。よって統計的な手法によって理論と現実の整合性を確認したり、政策の効果を考察することも可能です。</p> <p>前半では労働経済学の概念を学びます。後半では、それを基にして高齢者雇用や人的資本投資などの具体的な問題をとりあげ、数量データの分析による研究成果なども紹介することを予定しています。</p>						
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]						
<p>一年次秋学期に履修した日本経済概論の後半では、雇用についても学びました。この科目では、主にミクロ経済学から労働市場の仕組みを考えるとともに、具体的な社会問題についても考えます。</p> <p>労働経済学で取り上げる問題には働き方の見直しや処遇の平等化への取組などがありますが、これらは長時間労働をなくす、正規雇用と非正規雇用の格差を是正するということにとどまらず、社会保障や財政の問題にも密接に関連しています。たとえば、長時間労働が美德とされる社会故に労働市場に参加していなかった（するのを諦めていた）女性が活躍する場を得る、それによって年金財政にも影響が及ぶでしょうし、それを後押しするための社会福祉（子育て支援）も充実させる必要があります。問題は単一で存在するのではなく複雑に関連しあっているのです。ミクロ経済学で学ぶ理論を応用する分野としての入り口でもありますが、社会問題をどのようにとらえて政策を立てているのかといったことを考えるきっかけにもなればと思います。</p>						
[科目の到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> ・中間目標：労働経済学の基本的な性格を理解し、基礎を理解する ・最終目標：現実の労働問題を経済理論や統計データから考察する姿勢と視点を身につける 						
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]						
<p>文字が見づらいというコメントがありました。見やすくなるように、また書き込んだ文字については、複数回、読み上げるようにします。</p>						

<p>〔教科書〕</p> <p>・清家篤/風神佐知子『労働経済』 東洋経済新報社, 2020 年 このほか、適宜、レジュメなどで補足します</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>・大森義明『労働経済学』日本評論社, 2008 年</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>・川口大司『労働経済学－理論と実証をつなぐ』有斐閣, 2017 年 ほか、授業の中で紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>日本経済概論、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学 など。 前提科目ではありませんが、計量経済学や実証経済分析も履修を検討してください。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>①確認のための小テスト（前半：基礎理論） ②期末試験（全範囲） で評価する。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>経済理論の基礎を学んできた皆さんには、それを応用する入り口となる科目です。労働市場を分析するための理論はもちろんですが、現実の問題を紹介しながら、経済学的な視点で社会問題を考えるとはどういうことかを伝えられるような授業にしたいと考えています。教科書の情報はやや古くなっているものもあるので、適宜、資料を配布して補足します。</p> <p>この授業は出席をとりません。授業に参加する意欲のない受講生に対して意欲を喚起するような特別な取り組みもしません。この授業からどれだけのものを得るかは、皆さん次第です。労働市場と社会に対する興味関心をもって授業に参加してください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ（何を学ぶか）：ガイダンス，労働経済学とは何か 内 容： ガイダンス（授業の進め方について） / 労働経済学とは何か 教科書・指定図書 第1章</p>
第2回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労働供給 1 内 容： 所得余暇平面 教科書・指定図書 第2章</p>
第3回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労働供給 2 内 容： 就業選択と最適労働供給時間の決定 教科書・指定図書 第2章</p>
第4回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労働需要 1 内 容： 労働需要の決定要因 教科書・指定図書 第3章</p>
第5回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労働需要 2 内 容： 最適労働需要の決定と労働需要曲線の導出 教科書・指定図書 第3章</p>
第6回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 失業 1 内 容： 失業とは何か，失業にかんする経験法則 教科書・指定図書 第4章</p>

第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 失業 2</p> <p>内 容 : 失業対策</p> <p>教科書・指定図書 第4章</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 1</p> <p>内 容 : 年功賃金の理論的説明</p> <p>教科書・指定図書 第5章</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 2</p> <p>内 容 : 能力・成果主義賃金, 賃金格差の実態</p> <p>教科書・指定図書 第5章</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 賃金 3</p> <p>内 容 : 最低賃金の意義と動き</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働時間 1</p> <p>内 容 : 労働時間の趨勢</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働時間 2</p> <p>内 容 : ワーク・ライフ・バランス, 働き方改革</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 労働市場における情報の役割</p> <p>内 容 : 労働市場=情報不完全市場, 内部労働市場</p> <p>教科書・指定図書 第7章</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 第I部 (基礎編) のまとめ</p> <p>内 容 : これまでの復習, <u>確認のための小テスト</u></p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 経済の構造変化と労働市場</p> <p>内 容 : 経済の構造変化が労働市場にもたらした影響</p> <p>教科書・指定図書 第8章</p>
第16回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 1</p> <p>内 容 : 高齢者労働力率のトレンドと高齢者の就業決定</p> <p>教科書・指定図書 第9章</p>
第17回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 2</p> <p>内 容 : 高齢者労働力に対する需要</p> <p>教科書・指定図書 第9章</p>
第18回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高齢者雇用 3</p> <p>内 容 : なぜ高齢者雇用に注目があつまるのか - 社会保障制度とのかかわり</p> <p>教科書・指定図書</p>
第19回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 1</p> <p>内 容 : 女性雇用の変遷</p> <p>教科書・指定図書</p>
第20回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 女性雇用 2</p> <p>内 容 : 家計内生産モデル</p> <p>教科書・指定図書 第10章</p>

第21回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 3</p> <p>内 容： サーチモデルとスイッチングモデル， 既婚女性の就労</p> <p>教科書・指定図書 第10章</p>
第22回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 女性雇用 4</p> <p>内 容： 社会制度と既婚女性の労働供給</p> <p>教科書・指定図書 第11章</p>
第23回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 人的資本理論 1</p> <p>内 容： 企業特殊的人的資本と一般的人的資本</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第24回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 人的資本理論 2</p> <p>内 容： 雇用流動化と人的資本投資のゆくえ</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第25回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労働力のフロー表</p> <p>内 容： フローという概念、統計にみる労働力の推移</p> <p>教科書・指定図書 第13章</p>
第26回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 雇用調整 1</p> <p>内 容： 雇用調整とは何か</p> <p>教科書・指定図書 第14章</p>
第27回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 雇用調整 2</p> <p>内 容： 雇用調整係数（産業による違い、国による違い）</p> <p>教科書・指定図書 第14章</p>
第28回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労使関係 1</p> <p>内 容： 労働組合の役割と組織率の低下</p> <p>教科書・指定図書 第15章</p>
第29回	<p>テーマ（何を学ぶか）： 労使関係 2</p> <p>内 容： 労使紛争の変遷と新たな課題</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ（何を学ぶか）： これまでのまとめ</p> <p>内 容：</p>
試験	第1回～第30回の内容から出題します

[科目名] 金融経済学 I				[単位数] 2 単位		[科目区分] 専門科目 基幹科目	
[担当者] 山本 俊 Yamamoto Shun			[オフィス・アワー] 時間: 第 1 回の授業で連絡します。 場所: 528 研究室			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] 金融経済学 I では、金融にかかわる取引コストに焦点を充て、その発生メカニズムや抑制のための仕組みを、ミクロ経済学に基づいて学修します。特に、資金返済のリスクなど、金融取引には不確実性がともなうため、金融取引を、統計学で学んだ「期待値」や「標準偏差(リスク)」などによって捉え、「期待値」を変化させるための工夫や、「標準偏差(リスク)」を変化させるための工夫を学修します。さらに、金融取引が行われる金融市場の特徴や裁定の理論を学ぶことで、リスクをとともなう様々な証券の評価方法の基礎を学修します。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 1. 他の科目との関連付け 金融経済学 I では、ミクロ経済学の考え方を基本としますので、ミクロ経済学の十分な理解が必要です。特に、消費者理論、不確実性、情報の経済学に関する部分、統計学の期待値や標準偏差についてはもう一度目を通しておくと理解が進むでしょう。なお、金融経済学 I は金融関連の基幹科目に位置付けることができます。 2. 学んだことが何に結びつくのか？ 人生の大部分は仕事の時間であり、その目的の達成に向け、資本や労働力の確保が必要になるでしょう。ここでの資本とは、設備や工場を指し、この確保に向け、銀行や投資家からおカネを調達する必要があります。また、個人としても、人生の3大資金の調達が必要です。これらは資金調達と呼ばれますし、将来の資金調達に向けて、おカネを債券や株式に変えて保有し、キャピタルゲイン(値上がり益)やインカムゲイン(利子や配当による収入)を得ようとするのもあります。これは資産運用と呼ばれ、資金調達とともに、その意思決定に必要な知識や判断力を身につける必要があります。そのために、金融経済学 I を通じた学修が役立ちます。							
[科目の到達目標] ・金融取引にともなう取引コストと、その抑制方法を説明できる。 ・ポートフォリオによる資産選択理論の仕組みと意義を説明できる。 ・裁定取引の帰結や債券の利回り、株式の価格決定の理論を説明できる。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] ・昨年は配布資料に誤植が散見されたため確認を重ねつつ、聞き取りやすい説明を意識します。							
[教科書] ・金融経済学 I では教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 ・なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。							
[指定図書] ・内田浩史『金融(新版)』有斐閣、2024 年							
[参考書] ・晝間文彦『基礎コース 金融論 第4版』新世社、2018							

<p>〔前提科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学、マクロ経済学 ・上記の科目のいずれかの単位を修得していない方も本科目を履修できます。 	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(理解を深められるよう授業内で解説をします) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) <p>※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、考える過程をしっかりと辿るよう意識します。 ②ミクロ経済学などの基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業において、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。 	
<p>〔実務経歴〕なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、金融リテラシーと金融の特徴</p> <p>内 容: まずは、シラバスに基づいたガイダンスです。その上で、金融を学び、金融に関する知識や判断力といった金融リテラシーを高めることができれば、金融に関する行動や判断力にどんな変化が期待されるのかを、金融リテラシー調査をもとに考察します。</p> <p>指定図書 第1章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貨幣の機能と時間価値</p> <p>内 容: 貨幣の機能を経済学の視点から定義し、それと関連付けながら、決済システム、貨幣の時間価値、フィッシャー仮説について考えます。さらには、貨幣の暮らしの中での多様な機能を理解する意味でも、貨幣の民俗学的な機能についても考えてみましょう。</p> <p>指定図書 第1章、第2章の前半</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私たちがおカネを貸借する理由(1)</p> <p>内 容: ここでは、私たちがなぜ、おカネを貸借するかということについて、ミクロ経済学の消費の理論をもとに分析し、異時点間消費の最適化について考えます。指定図書 第2章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私たちがおカネを貸借する理由(2)</p> <p>内 容: 前回の学修内容をもとに、貨幣の使用に関する性急さや利子率の変化が異時点間消費の最適化に与える影響について理解を深めます。</p> <p>指定図書 第2章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融取引における様々なリスク(1)</p> <p>内 容: 金融取引を阻害する要因を学びます。また、効用関数を用いてリスクを計測する指標や、返済から得られる収入の期待効用を高める方法についても考えます。</p> <p>指定図書 第3章、第4章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融取引における様々なリスク(2)</p> <p>内 容: 前回の学修内容をもとに、効用関数を用いてリスクを計測する指標や、返済から得られる収入の期待効用を高める方法についても考えます。</p> <p>指定図書 第3章、第4章</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融取引におけるリスクの軽減手段(1)</p> <p>内 容:金融取引におけるリスクの軽減手段を期待効用の考え方をもとに学びます。特に、流動化、証券設計、情報生産がどのような仕組みでリスクを軽減するのかを考えます。</p> <p>指定図書 第5章、第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融取引におけるリスクの軽減手段(2)</p> <p>内 容:金融取引におけるリスクの軽減手段を期待効用の考え方をもとに学びます。特に、担保・保証がどのような仕組みでリスクを軽減するのかを考えます。</p> <p>指定図書 第5章、第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):分散化によるリスクの軽減</p> <p>内 容:ここでは、リスクの軽減方法として、いくつかの金融資産が組み入れられたポートフォリオによる分散化を考えるために、統計学で学んだ期待値や標準偏差、相関係数を導入します。</p> <p>指定図書 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):複数の金融資産からなるポートフォリオの評価</p> <p>内 容:第8回の学修をもとに、複数の危険資産からなるポートフォリオに安全資産を組み入れることで得られる効率的フロンティアについて学びます。<u>第9回までの学修内容を範囲としたクイズを実施する予定です。</u></p> <p>指定図書 第7章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):最適ポートフォリオの選択</p> <p>内 容:第9回にて描き出した効率的フロンティアに、危険回避者を想定した無差別曲線を重ねることで、期待効用を極大化する最適ポートフォリオを選択します。さらに、効率的フロンティアを決定する(危険資産からなる)ポートフォリオは、どのような選好を持つ投資家であっても同一になるという強い結論についても考察します。また、<u>前回のクイズについて解説し、講評を申し上げます。</u></p> <p>指定図書 第7章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):テーマ(何を学ぶか):金融市場のタイプと機能</p> <p>内 容:貸し手と借り手が出会う金融市場の種類と機能について考えます。例えば、短期金融市場や資本市場にはどのようなタイプがあり、どのような役割を果たしているのでしょうか。</p> <p>指定図書 第9章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融市場における裁定と債券の利回り</p> <p>内 容:金融市場における裁定取引による理論的帰結、割引債と利付債の利回りを学修します。</p> <p>指定図書 第7章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):株式の理論価格の決定モデル</p> <p>内 容:前回の学修内容を踏まえ、株価決定モデルについて学修します。</p> <p>指定図書 第9章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):これまでの学修をもとにした住宅ローンの検討</p> <p>内 容:皆さんが青森県において住宅を購入するために、住宅ローンを組み込むと想定し、これまで学んだ知識や考え方をもとに、金融仲介機関の選択、借入審査の内容と意義、ローン契約のタイプ別特徴、諸費用、ローン返済額の目安などについて考えてみましょう。</p> <p>指定図書・参考書 該当なし</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。</p>

〔科目名〕 地方財政論				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 武者加苗			〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:Emailで対応する			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 わたしたちの生活とは切り離せない公共サービスはどのように供給されているのか、そのための財源はどのように調達されているのか。公共サービスを担う地方政府（地方）の財政と中央政府（国）の財政を、理論および制度を紹介しつつ並行して学ぶ。 地方財政の標準的な内容に加え、財政学・マクロ経済学・ミクロ経済学の一部も交えた講義を行う。最後の3回は時事問題も取り入れつつ講義する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 マクロ経済学で学ぶ国民所得の概念と政府部門の関係の結びつきを理解する。 ミクロ経済学で学ぶ「個人・企業・政府」のうち、政府に重点を置いて取り上げる。政府活動が個人や企業の行動にどのような影響を与えているのかを理解する。							
〔科目の到達目標〕 基本的な地方および国の財政の「制度」を学び、その背景に立つ「理論」を理解する。 公務員試験の専門試験に対応できる基礎力、および公的部門で働く場合に必要とされる政府の役割を理解する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 毎回、授業レジュメを配布する							
〔教科書〕 特に指定しない							
〔指定図書〕							
〔参考書〕 中井英雄他（2020）「新しい地方財政論 新版」 有斐閣 足立泰美(2024)「地方財政論」 有斐閣							
〔前提科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)							

期末試験 100%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1年次に履修したミクロ経済学、マクロ経済学の基礎を復習しておくこと 財政学の履修をしておくこと、理解が深まるであろう	
〔実務経歴〕 シンクタンクに勤務し、地域経済や地方財政の分析に従事した経験を講義に反映する。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨN 内 容: 財政学と財政の3機能～財政とはなにか 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 国と地方 内 容: 国と地方の財政の姿～経済に占める政府歳出の規模 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 公共財 内 容: 公共サービスと財政のかかわり～公共財の最適供給と公平な負担 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 租税とは 内 容: 租税の基礎理論～公立と公正のトレード・オフ 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 所得にかかる税 内 容: 所得課税～さまざまな所得への課税 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 消費にかかる税 内 容: 消費課税～価格弾力性と最適課税 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 資産にかかる税 内 容: 資産課税～さまざまな資産への課税 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 公債 内 容: 国債と地方債～公債の負担 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 財政と経済効果 内 容: 裁量的な財政政策とマクロ経済～財政政策の有効性 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 特定補助金 内 容: 国庫支出金と地方公共サービス～国と地方の役割分担 教科書・指定図書

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):一般補助金</p> <p>内 容:地方交付税と地域間所得再分配～地方交付税の機能と意義</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):政府か私企業か</p> <p>内 容:地方公営企業、第三セクター～政策コスト分析</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会保障の概要</p> <p>内 容:社会保障の財政～社会保障の必要性</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):年金・医療・介護</p> <p>内 容:社会保障の財政～公的年金の財政方式</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):最近のトピックス</p> <p>内 容:これまでのまとめ</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	筆記試験を行う

〔科目名〕 経済特殊講義Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 秋葉まり子・丸山千賀子			〔オフィス・アワー〕 時間： 集中講義期間の休憩時間及び授業後 場所： 非常勤講師控室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 <p>情報化や環境問題、多様なライフスタイルなど、現代社会は複雑な課題に直面している。企業には、単なる利益追求だけでなく、消費者の視点を取り入れた「消費者志向経営」が求められている。これは SDGs 時代における「サステナブル経営」であり、持続可能な社会を実現するための新しい企業のあり方である。この授業では、未来を創る消費者の視点から、持続可能な社会について考える。</p> <p>本授業の前半では、日々の暮らしと経済のつながりを深く掘り下げる。家計の活動から金融の仕組みまで、生活経済の動きとそれが生み出す課題を理解する(秋葉担当)。</p> <p>後半では、企業が消費者と向き合い、持続可能な社会を築く具体的な方法を学ぶ。企業不祥事の事例から、SDGs、エシカル消費、シェアリングエコノミーといった最先端のテーマまで、資料や映像を使いながら「消費者志向経営」の最前線を探る(丸山担当)。</p> <p>この授業を通して、消費者の“社会を動かす「当事者」”としての視点を養う。未来の経済社会を「自分ごと」として捉え、新たな気づきと可能性を提供する。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本科目では、現代社会の複雑な課題や消費者の多様な問題を踏まえ、経済の仕組みや社会システムの移り変わりを広い視野で捉える。特に、消費者の視点から企業経営を考察し、行政・企業・消費者の三者が協力して新しい社会システムを築くことを目指す。</p> <p>変化の激しい社会で直面する経済生活の課題を見つけ、その解決策をさまざまな角度から検討する。これにより、自立した消費者として、社会における経済活動のあり方を探求する姿勢と能力を身につけることを目指す。</p> <p>この学びを通じて、生活に役立つ経済の知識が深まるだけでなく、企業と消費者の新しい関係性や連携についても理解が進む。これは、就職活動の面接など、キャリア形成に直接つながる実践的な学びとなる。</p>							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>この授業では、消費と経済社会の基本的な知識を理解し、各自が学問領域を広げ、現代の様々な問題を見つけ出す「問題発見能力」、そして物事を深く見抜く「洞察力」と、論理的に分析する「分析力」を養うことを中間目標とする。</p> <p>最終的には、我々が暮らす社会とその仕組みがどう変化しているかを深く理解し、今まさに直面している具体的な問題や地域の経済的な課題に焦点を当てる。これらの学びを通して、生活経済をより広い視点から、総合的かつ具体的に理解することがこの授業の最終的な目標である。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
			○		○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>講義内容に合わせて、様々な関連文献・映像資料を使って、具体的でわかりやすく、興味を持てる授業にするよう工夫している。</p>							
〔教科書〕 丸山千賀子 『消費者志向経営 企業と商品・サービスについて考える』 開成出版							

〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 2回の小テストの他、授業中に小レポートや練習問題を課す。	
〔評価の基準及びスケール〕 2回の小テストにより評価する。 レポート課題・授業への参加姿勢も評価する。 ・小レポート・授業の参加態度 10% ・小テスト(2回) 90%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 丸山担当部分では、教科書を授業で使うほか、試験時には持ち込みを前提とする課題を出しますので、授業時には必ず教科書を持ってきてください。なお、試験時に持ち込む教科書は、他人の書き込みやアンダーライン等、解答のヒントとなる形跡があるものは認められません(自分で書き込んだものについては可)ので、注意してください。 秋葉担当部分は、授業用資料を配布し、試験への持ち込みを可とします。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 家計の所得と消費・貯蓄について 内 容: 消費と貯蓄の基礎理論 資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか): 日本の家計貯蓄の現状 内 容: (1)家計の貯蓄率の変化 資料配布
第3回	テーマ(何を学ぶか): 家計の金融資産について 内 容: (2)金融資産のグローバル化 資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか): 生活とリスク管理 内 容: (1)社会保障制度と保険 資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか): 生活とリスク管理 内 容: (2)消費者金融について 資料配布
第6回	テーマ(何を学ぶか): 第1回～第5回までの内容のまとめと小テスト

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODクシヨN</p> <p>内 容: 消費者政策と企業経営の関係について考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者志向経営とは何か</p> <p>内 容: 消費者志向経営の意義と注目されてきた社会的背景について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の社会的責任(CSR)と消費者志向経営</p> <p>内 容: 企業の社会的責任(CSR)からみた消費者志向経営の意義について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者の視点を考慮した商品とサービス</p> <p>内 容: オープンイノベーション・商品コンセプトについても考える。無印良品の事例や、成功した商品コンセプトの作り方について映像も併せて参照する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費者志向経営が社会に及ぼす効果</p> <p>内 容: 企業・消費者・社会の面から消費者志向経営の影響を解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報開示の重要性について</p> <p>内 容: 情報開示の重要性について整理するとともに、企業不祥事の事例を紹介する。内部告発から企業不祥事が明らかになった事例を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費社会の様々な環境変化(1)</p> <p>内 容: SDGsとESG投資</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 消費社会の様々な環境変化(2)</p> <p>内 容: シェアリングエコノミーなど、最近のテーマについて取り上げる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめと小テスト</p> <p>内 容: 第7回から第14回までのまとめと小テスト</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 経済変動論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目																					
〔担当者〕 高尾 築 Takao Kizuku	〔オフィス・アワー〕 時間:初回授業でアナウンスする 場所:初回授業でアナウンスする	〔授業の方法〕 講義																					
〔科目の概要〕 ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の基礎をすでに習得した学生を対象に、中級以上のマクロ経済理論を講義します。時間の経過を考慮に入れた動学的な分析や、ミクロ経済学における最適化行動の理論(いわゆるミクロ的基礎づけ: <i>micro foundation</i>)を取り入れる点が、基礎レベルの講義との大きな違いです。このような分析手法を用いて、将来予見の変化が家計や企業といった経済主体の意思決定にどのような影響を与え、それが現実のマクロ経済変数の動きにどう反映されるのかを考えます。 具体的な講義内容は以下の通りです。 (1) ライフサイクルモデルに基づき、定額給付金や消費税増税が家計の消費行動に与える影響を考察します。 (2) トービンの q 理論を中心に、金利環境の変化が企業の投資決定に与える影響を考察します。 (3) 資産価格理論を学んだ上で、日本の金融政策運営の変遷を理解します。 (4) 「成長会計」および「ソロー・モデル」を取り上げ、全要素生産性(TFP)や収束概念を理解します。 また、適宜、関連する実際の経済データを紹介し、現実の経済課題について検討します。																							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 これまでに学んだ経済理論や数学的手法を応用し、経済の動きや政策を理論的に考える力を養うことを目的としています。本講義は、金融経済学、ファイナンス理論、財政学、公共政策論など、マクロ経済学を活用する他の応用科目とも深く関連しています。大学院進学を目指す学生はもちろん、将来、官公庁や金融業界、データ分析などの分野で活躍したいと考えている学生にとっても、有意義な内容です。																							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <u>中間目標</u> ・数式を用いて時間推移を伴う分析を扱えるようになる。 ・限界概念や最適概念を理解できるようになる。 <u>最終目標</u> ・マクロ経済変数(消費、投資、金利、インフレ率等)の動きを分析するための手法・考え方を理解する。 ・日本や世界各国の様々な経済現象を知り、メカニズムを踏まえて現実のマクロ経済政策課題を検討できる。																							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕 <table border="1" data-bbox="102 1563 1426 1713"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○				○	○	
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○				○	○																		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 例年、受講生間の数学能力に著しい分散が認められるので、数学予備知識(具体的には、「指数・対数」、「微分(偏微分を含む)」、「ラグランジュ乗数法」)の確認を実施します。																							
〔教科書〕 特に指定しない。																							
〔指定図書〕 ・二神孝一・堀敬一、「マクロ経済学(第2版)」, 有斐閣, 2017年 ・福田慎一,「金融論 - 市場と経済政策の有効性 新版」, 有斐閣, 2020年																							

<ul style="list-style-type: none"> ・小林照義,「金融政策(第2版)」,中央評論社,2020年 ・西村幸浩,「財政学入門(経済学叢書 Introductory)」,新世社,2013年 	
〔参考書〕 <ul style="list-style-type: none"> ・デビッドローマー(著),堀雅博 他(翻訳),「上級マクロ経済学」,日本評論社,2010年 ・Pablo Kurlat(著),「A Course in Modern Macroeconomics」,Independently published,2020年 	
〔前提科目〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学,マクロ経済学,経済数学 	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 持ち帰り小レポート(宿題)を計2回実施する。また、授業内において小テスト(筆記試験)を1回実施する。成績評価の比重は、小レポート合計40%,小テスト60%である。小テストは資料すべて持ち込み可とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトに基づき,スライド投影と板書を併用して講義を行います。板書の綺麗さには定評があると自負しています。数学を使う場面が多いです。しかし,高度な数学知識は必要ありません。数式の取り扱い自体は他のどの授業よりも難しく見えるかもしれませんが,基本的には文字式が多いだけです。わかりやすく教えるので,加減乗除ができて,初歩的な指数対数・微分の知識があれば,大丈夫だと思います。ただし,経済数学単位未取得に相当する学生は絶対に受講しないでください。 	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 成長会計(1)
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 成長会計(2)
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ソローモデル(1)
第4回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ソローモデル(2)
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 消費のライフサイクルモデル(1)
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 消費のライフサイクルモデル(2)
第7回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 消費のライフサイクルモデル(3)

第8回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 新古典派投資理論
第9回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: トービンqの理論(1)
第10回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: トービンqの理論(2)
第11回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 金融政策(1)
第12回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 金融政策(2)
第13回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 金融政策(3)
第14回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 金融政策(4)
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: これまでの復習および総括と小テスト
試 験	実施しない

[科目名] 経済演習 I				[単位数] 2 単位		[科目区分] 演習科目	
[担当者] 青山直人						[授業の方法] 演習	
[演習テーマ] ミクロ経済学の理論を学ぶ							
[演習内容] ミクロ経済学の理論(経済演習 I と経済演習 II での継続的な学習を予定)を学びます。ミクロ経済学の中核にある理論を深く理解することは応用ミクロ経済学分野の経済理論を学ぶうえで役立ちます。経済演習 I では、消費者行動の理論、企業行動の理論を取り上げ、経済演習 II では、市場均衡、市場の失敗、独占、ゲーム理論、情報の経済学を取り上げる予定です。							
[科目の到達目標] ・消費者行動の理論を理解すること ・企業行動の理論を理解すること							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
[前提条件] 経済数学、経済学基礎論を履修済であること ミクロ経済学や公共経済学、環境経済学に関心をもっていること							
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) ゼミでの報告と毎時間の提出課題をもとに総合的に評価します							
[教科書等] 神取道宏著『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年。 その他、配布資料							
[実務経歴] 該当なし							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第 1 回 ～ 第 3 回	経済数学の復習						
第 4 回 ～ 第 6 回	第 1 部 価格理論 第 1 章 消費者行動の理論 合理的行動、消費者の選好と無差別曲線、最適消費、限界分析入門、最適消費の性質、補償需要関数、支出関数、所得効果と代替効果、価格弾力性など						
第 7 回 ～ 第 15 回	第 2 部 価格理論 第 2 章 企業行動の理論 生産要素が一つの場合の企業行動、生産要素が二つの場合の企業行動、利潤と所得分配など						

〔科目名〕 経済演習 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 演習科目				
〔担当者〕 大矢 奈美		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 社会保障とはなにか ―経済学からのアプローチ 社会保障制度の基本的な考え方を学び、経済という視点から考えるための準備をする						
〔演習内容〕 <p>人生において、疾病、失業、災害など様々なリスクがある。これらは経済的な不安をもたらすリスクでもある。長寿による貧困リスク、単身世帯の増加によって生じる介護問題など、深刻な問題も多い。そして家族のサイズが小さくなっている現在、個人の蓄えや家族内での助け合い(自助)では、これらに十分に備えることが難しくなっている。</p> <p>我々の社会は、これらに対して「社会保障制度」を持っている。日本では社会全体でリスクを負担しようという考えに基づき、自助を共助化する仕組みである社会保険制度を社会保障の柱に据えつつ、福祉や公衆衛生など、国の施策として制度を作り上げてきた。なぜ、国の施策として、公的に備える必要があるのだろうか。そうした考えは、いつ、どこで生まれ、妥当なものとして認知されるようになったのだろうか。産業構造や人口構成、経済情勢が変化する中、社会保障制度はどのように対応しようとしているのだろうか。</p> <p>経済演習 I では、まず社会保障制度の成立・発展と基本的な哲学を学び、日本の社会保障制度の特徴を経済の観点から考えるための準備をする。日本において現在のような制度の基礎が整えられたのは、1940 年代から 60 年代だが、現在とは経済情勢も人口構成も大きく異なるため、様々な問題が生じている。特に深刻なのが財政問題である。経済との関わりや社会の変化に伴う制度設計のあり方に関する議論は、3 年次の演習 II (田中秀明『新しい国民皆保険』構想』を予定)で行うこととする。</p> <p>(進め方)</p> <p>テキストを輪読する。報告者はテキストの内容をまとめるだけでなく、必要に応じ資料を集めて報告し、テーマを決めてディスカッションをおこなう。それらの過程で、プレゼンテーション能力やディスカッションする力、統計資料の収集方法などを身につけることも目標としたい。</p>						
〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・「社会保障」に関する基本的な考え方、日本の現状(特に労働市場と社会保障の関わり)を理解する。 ・プレゼンテーション能力やディスカッションする力、統計資料の収集方法などを身につける。 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3
〔前提条件〕 自分なりの問題意識をもち、また演習に積極的に参加する意欲をもっていること。 2 年次秋学期の労働経済学を履修すること。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 特別なレポートは課さないが、章ごとに担当者を決め、各章2回を割り当てて、報告とディスカッションを行い、以下の点により評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・担当回の報告(レジュメ、ディスカッションのテーマの設定を含む)、ディスカッションの進行への取り組み ・毎回のゼミへの取り組みの姿勢(積極的な発言、報告者から出される課題への取り組み) 						

【教科書等】

香取照幸(2022)『社会保障論 I』東洋経済新報社。 経済演習 I では第 1 章から 7 章を予定。

(参考図書)

棕野・田中(2025)『はじめての社会保障(第 22 版)』有斐閣。

【実務経歴】

なし

授業スケジュール

時期	テーマと内容
第 1 回	ガイダンス (ゼミの進め方、自己紹介、各章の担当者の決定)
第 2 回	テキスト第 1 章 に関する講義
第 3 回 ～15 回	テキスト第 2 章～7 章 ゼミ生による報告とディスカッション(各章について、報告・ディスカッション、各 1 回ずつ)

[科目名] 経済演習 I				[単位数] 2 単位		[科目区分] 演習科目	
[担当者] 河野秀孝						[授業の方法] 演習	
[演習テーマ] 本演習では、具体的な題材に基づき、経済学の観点から、少しでも <u>統一的・論理的分析ができるようになることと、経済学という学問の魅力</u> を満喫してもらえかと思います。一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限りません。毎日の経済現象を題材とした <u>体系的論理的思考の訓練</u> であると考えてください。							
[演習内容] 皆さんに <u>経済学的思考の面白さ</u> を知ってもらうために、 <u>著名な学者の考え方を紹介</u> いたします。同じテーマでも <u>個人の思想や視点の相違による思考の多様性が存在</u> することを理解してください。 ところで、 <u>皆さんはどの経済学者の考え方に</u> より共感を持たれるのでしょうか。それは <u>どうしてなのでしょう</u> か。このようなことを自問自答し、ゼミでの討論を重ねながら、皆さんの <u>思考力を伸ばすお手伝い</u> が出来ればと思います。							
[科目の到達目標] 今日の世界では、経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっています。この事は、私たちの日常生活までも、 <u>経済的側面から多大なる影響</u> を受けていることを示しているのです。本演習は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例をテーマとして考えながら、皆さんを取り巻く <u>経済の諸問題</u> を <u>統一的に理解・分析することの楽しさ</u> を味わってもらうとともに、 <u>今後履修される専門領域の紹介</u> になればと思います							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
[前提条件] ミクロ経済学は必修が望ましい。							
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) ゼミでの討論への参加状況と、レポートによる評価。							
[教科書等] *配布資料 *参考文献：ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、1997 年。							
[実務経歴] 製造業							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
9月下旬 から 10月中旬	革新性テコに米国復権、 ジャグディシュ・バクワティ 著 発展の裏に政府の役割、 ジョセフ・スティグリッツ 著 民主主義、世界的に興隆 アマルティア・セン 著 発展と破壊、時代を画す、 ジョン・K・ガルブレイス 著						

10月下旬 から	国民経済へ政府は行動を、 ジョン・K・ガルブレイス 著 終焉を迎えた「主義」の概念、 宇沢弘文 著
11月中旬	WTO 交渉： テーマは伝統分野優先で、 ジャグディシュ・バクワティ 著 為替政策を問う： 日米、円安定へ基準相場を、 ロナルド・マッキノン 著
11月下旬 から	新しい経済： 波乱呼ぶ情報革命、 アルビン&ハイディ・トフラー 著 新しい経済： 「第三の波」へ移行急激、 アルビン&ハイディ・トフラー 著
12月下旬	相互依存の時代： 未来への責任語ろう、 ジョン・K・ガルブレイス 著 変動米国株と世界景気： バブル後の調整続く、 ジョン・K・ガルブレイス 著
1月中旬 から	選択の自由 I、 ミルトン・フリードマン 著 選択の自由 II、 ミルトン・フリードマン 著
1月下旬	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 マックス・ウェーバー 著 雇用、利子、お金の一般理論 ジョン・メイナード・ケインズ 著
	※行数は適宜、加減してください。ただし全体で2ページ以内に収まるようにしてください。

〔科目名〕 経済演習 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 権 克裕						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 地域経済を学ぶ							
〔演習内容〕 この演習では、地方財政論のテキストの輪読(テキストの指定箇所を学生の皆様に発表してもらう)を行いたいと思います。また、経済演習 II では地域経済学のテキストを輪読予定です。 地方財政論は、ミクロ経済学やマクロ経済学を学んだ上で学習する応用科目の位置づけになっています。地方財政論を学ぶことで、地方自治体(都道府県・市町村)の地域経済に果たす役割や課題について、体系的に理解することができます。同様に、地域経済学も応用科目です。地域経済学を学ぶことで、地方から都会への人口移動、企業の立地行動、地価の決定等のメカニズムを理解できます。 地方財政論や地域経済学を学んで、将来的に地域経済を中心的に担っていく人材となってくれることを期待しています。							
〔科目の到達目標〕 ・輪読での発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける ・地域経済についての体系的な理解を深める。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済概論、財政学を履修していること(各科目の単位を修得していれば尚可)。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業における発表と参加で評価します。							
〔教科書等〕 菅原宏太・松本睦・加藤秀弥著 『地方財政の見取り図』 有斐閣ストゥディア 2023 年							
〔実務経歴〕 旧通産省							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第1回 第2回	イントロダクション(授業の進め方・レジュメの作り方・発表の際の留意事項)						
第3回 以降	テキストの輪読						
第15回	課題についての発表・討論						

〔科目名〕 経済演習 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 木立 力						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 ミクロ経済学を学ぶ							
〔演習内容〕 ミクロ経済学の下記の教科書を用い、ミクロ経済学の理解しづらいポイントを解説し問題練習を行います							
〔科目の到達目標〕 経済演習 II、2 年秋 3 年の専門科目、各種試験で成果を上げるためにミクロ経済学の問題を解けるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○						○	
〔前提条件〕 学習意欲が高いこと、財政学を履修していない場合、必修科目に F がある場合は要相談							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回参加すること。数回の課題に取り組むこと。これらで評価します。							
〔教科書等〕 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣							
〔実務経歴〕 特になし							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第 1 回 ～ 第 5 回	消費者理論						
第 6 回 ～ 第 10 回	生産者理論						
第 11 回 ～ 第 15 回	市場と厚生分析						

〔科目名〕 経済演習 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 工藤 恭嗣				〔授業の方法〕 演習			
〔演習テーマ〕 経済法と経済学							
〔演習内容〕 本演習では、ミクロ経済学で学んだ市場機構を支える需要と供給について掘り下げ、需要と供給の存在を支える規則を題材に経済学に対する理解を深めます。具体的には、生産者(供給者)間の公正で自由な競争を保護する規則(例:独占禁止法)や消費者(需要者)の適正な選択を支える規則(例:景品表示法)に係る法的措置を取り上げ、ミクロ経済学の知見に基づきそれらの措置が市場機構に果たす役割や機能を解釈するとともに、規制当局の過少な又は過剰な介入が同機構にもたらす影響について、特に、マクロ経済への影響という視点からマクロ経済学の知見に基づき考察します。 なお、大学設置基準(第 21 条第 2 項)を参考に、それなりの課題が課されます。							
〔科目の到達目標〕 ・論理的思考(ロジック)と説得力ある表現方法(レトリック)の素養を養うこと。具体的には、 →経済法と経済学の学習を通じて、その時点での自分の考えを整理すること(ロジック) →演習内での討論を通じて、自分の考えを他者(ここには未来の自分も含む。)が理解しやすい形で伝えること(レトリック)							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○		○	○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学、マクロ経済学							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習への参加状況、課題への取り組み状況、最終レポートの内容等を踏まえ、総合的に評価します。 (演習は学生による主体的な議論や発表を中心に行われる授業形態の一つであることから、公欠や病欠以外の欠席の場合、評価は不合格と成り得ます。)							
〔教科書〕 なし							
〔参考書〕 白石 忠志『法律文章読本』弘文堂、2024 川喜田 二郎『発想法』中央公論新社、2017(旧版あり)							
〔実務経歴〕 公正取引委員会、コンサルティング業							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第 1 回	独占禁止法及び景品表示法を経済学の観点から概説し、演習で取り上げる事例を概観したのち、各事例の担当者を決定する。						
第 2 回 以降	・各担当者が報告し、参加者による質問・議論を進める。 ・担当した事例以外の事例について、各々の考察をレポートにまとめる。						

〔科目名〕 経済演習 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 黄 年宏						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 経済学による経済課題の分析							
〔演習内容〕 本演習では、学生の興味・関心のある経済課題をテーマとして、経済学の知識を活かして現象の背後にある経済メカニズムを解明し、課題を分析する力を養うことを目指す。 具体的には、学生は自らテーマを選定する（例：『マーケティング施策におけるアンカリング効果の実証』（行動経済学）、『経済的豊かさと幸福度指数との相関』（幸福経済学）、『中絶率と犯罪率との相関性』（犯罪経済学)）。次に、選定したテーマについて抱く疑問を明確化し、研究課題を設定する。関連文献を調査・精読して先行研究を整理したうえで、理論的な議論を展開する。最終的に研究成果としてまとめる。							
〔科目の到達目標〕 自ら興味を持つ経済課題を発見し、研究課題として設定できるようになる。 先行研究や文献の内容を整理し、経済学の基礎理論を活用して研究手法を考案できるようになる。 レポートやプレゼンテーションで研究成果を的確に伝える表現力を身につける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○			○	○	
〔前提条件〕 特になし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 研究に対する取組み姿勢と演習で指導教員が総合的に評価。(100%)							
〔教科書等〕 学生の選択したテーマに合わせて適切なものを演習で指示する。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:本演習の趣旨・進め方の説明、履修者の自己紹介と興味分野の共有						
第2回	テーマ(何を学ぶか):経済学演習の概要 過去の演習事例や成果物の紹介、研究テーマの選定に向けたヒント						
第3回	テーマ(何を学ぶか):テーマ案の検討(1) 各自が興味を持つ経済現象をブレインストーミングし発表						

第4回	テーマ(何を学ぶか):テーマ案の検討(2) 意見交換、テーマ絞り込みと問題意識の共有
第5回	テーマ(何を学ぶか):研究課題の設定 研究目的・仮説の設定方法を学ぶ
第6回	テーマ(何を学ぶか):先行研究の探し方 文献検索(学術論文、新聞記事、政府統計)と情報整理の方法
第7回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(1) 文献を読み込み
第8回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(2) 文献を読み込み
第9回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(3) 文献に関する重要な概念や分析手法をまとめて発表
第10回	テーマ(何を学ぶか):文献レビュー(4) 先行研究の限界や新たな課題点を洗い出し、自身の研究に生かす
第11回	テーマ(何を学ぶか):文献結果の検討(2) 仮説との整合性を検証し、新たな視点や仮説修正の必要性を検討
第12回	テーマ(何を学ぶか):発表準備 各自の研究計画を整理し、プレゼン資料の作成を進める
第13回	テーマ(何を学ぶか):中間発表(1) 研究テーマ・仮説・文献レビュー状況などを報告
第14回	テーマ(何を学ぶか):中間発表(2) 研究テーマ・仮説・文献レビュー状況などを報告
第15回	テーマ(何を学ぶか):振り返り・講評 全体の講評・自己評価を行い、研究活動の成果や課題を総括。

〔科目名〕 経済演習 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 演習科目																						
〔担当者〕 七宮 圭		〔授業の方法〕 演習																						
〔演習テーマ〕 パソコン（Excel や R など）を利用したデータの統計分析 ※参加者の希望や教室の利用状況などにより内容が変わる場合があります。																								
〔演習内容〕 近年データ分析の必要性は高まっていますが、実際にデータの統計分析を行うためには、統計学の知識だけではなく、パソコンのアプリケーションソフトの利用が不可欠です。このため、本ゼミでは表計算ソフト Excel やフリーの統計ソフトである R などを利用したデータ解析手法の習得と、統計学や計量経済学、実証分析で使用する統計手法の習得を目指します。 主な内容（予定） <ul style="list-style-type: none"> ● Excel の基本的な操作方法の確認、および関数、ピボットテーブル、分析ツールなどを用いた統計分析。 ● 統計学：記述統計（度数分布表、ヒストグラム、分割表など）、推測統計（点推定、区間推定、仮説検定）。 ● 計量経済学：Excel で分析可能な重回帰モデルまで。 R などについては時間の余裕があったら学習します（R は経済演習Ⅱの前半で取り扱う予定です）。																								
〔科目の到達目標〕 以下の2つの点を到達目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・統計分析の基本的な知識を習得すること。 ・ソフトウェアを利用した基本的なデータ解析ができるようになること。 																								
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕																								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○	○		○	○	○	○
学部				学科																				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																		
○	○		○	○	○	○																		
〔前提条件〕 特になし。ただし、選考の際に「経済導入演習」（七宮担当回）の点数、「経済統計」の点数、「統計学」の 3 回の宿題の点数を利用します。 ※パソコンや Excel の操作については、初歩から確認を行いますので前提条件ではありません。																								
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 出席状況を含む授業態度、課題などへの取り組み方などにより、成績を評価します。																								
〔教科書等〕 特になし。 参加者の興味を参考にしたうえで、適宜紹介します。																								
〔実務経歴〕 なし																								

授業スケジュール	
時期	テーマと内容
第1回 ～ 第7回	統計分析のための Excel の基本的な操作方法
第8回 ～ 第15回	Excel による統計分析 ※必要に応じて gretl による統計分析の方法を紹介

〔科目名〕 経済演習 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 演習科目																					
〔担当者〕 橋本 悟		〔授業の方法〕 演習																					
〔演習テーマ〕 問題解決学習																							
〔演習内容〕 経済学の基本的知識の習得とデータ集計・加工の手法を身につける。次に、課題を見つけ、その課題に対して定量的・定性的分析を行って、解決策を提示する。具体的には以下の順で学習する。 ・政府や地方自治体の HP などから適切な資料や統計データを入手する。 ・そのデータを集計・加工(図表作成や簡単な計算)して特徴を見つけ出す。必要ならば分析をする。 ・特徴や分析結果を考察して、問題点等を見出す。それをプレゼンテーションする。 なお、発表、質疑応答の機会をなるべく多くとって、人前で話したり議論したりする能力をしっかりと身につける予定である。 データの加工、発表等は 2 人組のグループで行う予定である。																							
〔科目の到達目標〕 1) ミクロ経済学・産業組織論の知識を身につけること。 2) 経済学的な視点から物事を考えること、経済現象の背景が説明できるようになること。 3) 調査・研究能力を身につけて、簡単な定量分析ができるようになること。 4) プレゼンテーションが上手になること。																							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕																							
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>			学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	○			○		○	○
学部				学科																			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																	
○			○		○	○																	
〔前提条件〕 ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的知識																							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業への貢献度・積極性などを総合的に考慮して決める。																							
〔教科書等〕 (教科書) なし。 (参考書) 必要に応じて以下の参考書を使ってほしい。 1) 青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023 (原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017) 2) 長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社、1998 3) 井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治『入門・産業組織』有斐閣、2010 4) ネリス・パーカー『ビジネス・エコノミクス原理(第2版)』(訳岩本・小野)ピアソンエドケーション、2009 5) David M. Kreps, Microeconomics for Managers (Second Edition), Princeton University Press, 2019																							
〔実務経歴〕 なし。																							

授業スケジュール	
時期	テーマと内容
第1回	ガイダンス、自己紹介、今後の予定 経済学の復習
第2回	(講義形式) プレゼンテーションの方法 スライドの作成方法
第3回 第4回 第5回	(PC ルーム) データの取り方・加工についての学習 エクセルの使い方の学習
第6回 から 第15回	グループごとにデータを使って分析を行い、その結果を報告(発表)する。

〔科目名〕 経済演習 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 山本 俊				〔授業の方法〕 演習			
〔演習テーマ〕 私たちの暮らしと金融							
〔演習内容〕 ・私たちの暮らしと密接にかかわる金融の考え方や分析方法を確認し、PC を用いて実践する。 ・私たちに身近な地域金融機関のパフォーマンスや地域産業における経済波及効果を、PC を用いて計測する。							
〔科目の到達目標〕 ・金融リテラシー(金融に関する知識や判断力)と「私たちの暮らし」との関連について説明できるようになること。 ・実践した分析方法を自らが設定した問題にも応用できるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
			○	○		○	
〔前提条件〕 特になし。 ただし、不足する知識や技能があれば(演習内でも補足はするものの)積極的に補う姿勢があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ①中間課題(小テストまたはレポート):30% ②最終課題(レポートまたはプレゼン):70% をもとに評価します。評価のポイントは以下のようです。 ・学修したことを正しく理解し、活用できるか。 ・学修したことを適切な問題に応用できるか。 ・レポートやプレゼンは標準的な要件を満たしているか。							
〔教科書等〕 特に使用はしません。 演習と密接な参考書を示しますので、学修の参考としてください。 <2 回目ー7 回目> ・今喜典編著『ポストコロナ期にむかう青森県の産業』蒼天社出版、2023 年(4 章) ・ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン『現代ファイナンス論』(原著第 2 版)ピアソン桐原、2011 年(5、6 章) <8 回目ー11 回目> ・金融仲介の改善に向けた検討会議(金融庁)「地域金融の課題と競争の在り方」、2018 年(WEB 検索可) <12 回目ー15 回目> ・今喜典編著『ポストコロナ期にむかう青森県の産業』蒼天社出版、2023 年(第 2 章) ・白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学 第 2 版』日本評論社、2007 年(9 章) ※その他の参考書については演習内で適宜指示します。							
〔実務経歴〕 特になし。							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
1 回目	ガイダンス 受講者が経済演習 I の到達目標を無理なく達成できるよう、必要となる知識(入門的な数学、統計学、経済学)や技能(PC)について確認します。その状況に応じて、演習内でも適宜補足します。						

<p>2回目 ～ 4回目</p>	<p>ライフサイクル・フィナンシャル・プランニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融リテラシー(金融に関する知識や判断力)を身に着ければ、私たちの暮らしがどのように変化するのか、ICT は私たちの資産運用にどんな影響を与えるのか、ということ「金融リテラシー調査」などを用いて考えてみます。また、青森県民の金融リテラシーについても見てみましょう。 ・住宅を借りるのか買うのか、大学院へ進学すべきかどうか、ということについても考えてみます。
<p>5回目 ～ 7回目</p>	<p>投資計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の収益が定まっているとみなし得る投資の評価方法を考えてみましょう。 ・特に、IRRという評価方法はPCが無ければ計算は難しいので、ここでは、エクセルの Solver を用いてIRRを求めてみます。 ・実際に、資金調達方法を検討したうえで、青森県で販売されている「一棟売りの中古アパート」への投資を評価してみましょう。
<p>8回目 ～ 11回目</p>	<p>地域金融機関の役割と営業地盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森県では、独占禁止法の特例法を初めて適用した銀行間合併によって「青森みちのく銀行」が誕生しました。では、そもそも両行はどうして合併に踏み切ったのでしょうか。地域金融機関の役割と経営環境の変化とについて考えてみましょう。 ・地域金融機関のパフォーマンスを、フロンティア分析によって計測し、地域金融機関の規模や営業地盤における経済水準との関係を分析しましょう。ここでは、エクセルの Solver と VBA を用います。
<p>12回目 ～ 15回目</p>	<p>青森県産業における経済波及効果と「まとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森県庁の WEB ページでは、(2025年6月1日時点で)平成27年青森県産業連関表が公開されており、そこには青森県の産業間の取引や産業ごとの生産構造が示されています。ここから、青森県の産業の特徴を考えてみましょう。これは地域金融の在り方を考える上でも大切です。 ・特に、ここでは、青森県が公開している「産業連関分析ファイル(40部門)」を107部門版へとバージョンアップさせ、自らが考える特定のイベントが生み出す経済波及効果について分析してみましょう。 ・これまでの演習の振り返り。

〔科目名〕 地域企業論Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目（地域みらい） 展開科目（経営）		
〔担当者〕 生田泰亮 IKUTA Yasuaki			〔オフィス・アワー〕 時間：後ほど指示します。 場所：1305 研究室（大学院棟）			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 地域企業論Ⅱにおいては、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2025年版』を教科書として、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力することを求める。								
〔科目の到達目標〕 地域企業論Ⅰ、Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。 （１）地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための「基礎知識」を学ぶ。 （２）企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」ができる。 （３）企業の経営政策、事業戦略についてのデータ分析やケース・スタディを行い「問題解決策の立案」「戦略策定」や「政策提言」ができる。								
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕								
学部				学科				
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 用語の解説等に関しては、学生のみなさんが実際に予習復習されることを想定して解説するなどしており、その点を評価いただけて嬉しい限りです。声が聞き取りづらい時があった場合は、講義が終わってからでもよろしいので、遠慮なく質問、確認を申し出てください。								
〔教科書〕 中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2025年版 上』日経印刷株式会社、2025年。 他、適宜、資料を配布。								
〔指定図書〕								
〔参考書〕								
〔前提科目〕								
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 課題レポート：30%、期末試験：70%（詳細は講義内で説明する） ※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。								

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

予習として「教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席する」こと。

予習していることを前提に講義を進めるので、この点、十分に留意して取り組んでほしい。

大学での学びにおいて、講義はあくまでもその専門分野の初歩、イントロダクションであり、講義をきっかけにさらに自ら学習することが求められる。シラバスへの記載事項、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講し、評価アンケートに回答している学生が見受けられる。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めるよう求める。当然のことながら、履修した以上は、しっかりと学習することを求める。

受講態度の悪い学生（遅刻、欠席）、周囲の迷惑（私語等）になるような行為には厳しく対処する。

講義内容以外にも学習方法等についての相談にも応じているので、遠慮なく。

【実務経歴】

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション 内 容： 講義内容と進め方について 教科書・指定図書
第2回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 中小企業・小規模事業者の業況、金利・為替・物価、雇用環境 教科書・指定図書 第1部第1章、第2章、第3章
第3回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 労働生産性・設備投資・デジタル化・DX、価格転嫁、賃金・賃上げ 教科書・指定図書 第1部第4章、第5章、第6章
第4回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 倒産・休廃業・事業承継、中小企業・小規模事業者に求められる共通価値、 教科書・指定図書 第1部第7章、第8章、第9章
第5回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 経営戦略 教科書・指定図書 第2部第1章第1節
第6回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：経営の透明性・開放性 教科書・指定図書 第2部第1章第2節
第7回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：ガバナンス体制 教科書・指定図書 第2部第1章第3節
第8回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：人材戦略 教科書・指定図書 第2部第1章第4節
第9回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：経営者の成長意欲 教科書・指定図書 第2部第1章第5節、第6節

第10回	<p>テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く</p> <p>内 容：成長する中小企業が我が国経済に与える影響</p> <p>教科書・指定図書 第2部第2章第1節</p>
第11回	<p>テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く</p> <p>内 容：スケールアップに向けた課題</p> <p>教科書・指定図書 第2部第2章第2節</p>
第12回	<p>テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く</p> <p>内 容：スケールアップに向けた投資行動と海外展開（1）</p> <p>教科書・指定図書第2部第2章第3節（1）</p>
第13回	<p>テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く</p> <p>内 容：スケールアップに向けた投資行動と海外展開（2）</p> <p>教科書・指定図書 第2部第2章第3節（2）</p>
第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く</p> <p>内 容：まとめ（第2部第2章のまとめ）</p> <p>教科書・指定図書 第2部第2章第4節</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：講義のまとめ</p> <p>内 容：講義全体のまとめと期末試験について</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>期末試験を実施する。詳細は講義中に説明する。</p>

〔科目名〕 地域社会論Ⅱ				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕	
〔担当者〕 佐々木てる		〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:授業開始時に指示:				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 <p>青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」「強みをとことん生かす」ためのアイデアが重要視されている。</p> <p>この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。</p> <p>(1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。 (2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。 (3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。</p> <p>これら3つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。</p>							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。</p> <p>日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。</p>							
〔科目の到達目標〕 <p>人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。</p>							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○	○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。 コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。</p>							
〔教科書〕							
〔指定図書〕							

〔参考書〕	
〔前提科目〕	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。 ・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。 ・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。 主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 <p>毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。 特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。</p> <p>また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。</p>	
〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ：世界から青森へ、青森から世界へ</p> <p>内 容： ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ</p>
第2回	<p>テーマ：人口減少問題と外国籍労働力(1)</p> <p>内 容： 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としてのICTの導入と外国人労働者の導入について考える。</p>
第3回	<p>テーマ：人口減少問題と外国籍労働力(2)</p> <p>内 容： 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。</p>
第4回	<p>テーマ：人口減少問題と外国籍労働力(3)</p> <p>内 容： 前回は引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加にともなう課題と問題を考える。</p>
第5回	<p>テーマ：交流人口(1)</p> <p>内 容： インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。</p>
第6回	<p>テーマ：交流人口(2)</p> <p>内 容： 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。</p>

第7回	<p>テーマ：循環人口(1)</p> <p>内 容： 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。</p>
第8回	<p>テーマ：循環人口を考える(2)</p> <p>内 容： 内 容： 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。</p>
第9回	<p>テーマ：青森県の共生人口を考える(1)</p> <p>内 容：三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。</p>
第10回	<p>テーマ：青森県の共生人口を考える(2)</p> <p>内 容：青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。</p>
第11回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(1)</p> <p>内 容：多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。</p>
第12回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(2)</p> <p>内 容：世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。</p>
第13回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(1)</p> <p>内 容：外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。</p>
第14回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(2)</p> <p>内 容：現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ：青森から世界へ、世界から青森へ</p> <p>内 容：青森県の強みを再度考え、課題を考察する</p>
試験	

〔科目名〕 地形地理情報論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目				
〔担当者〕 三浦英樹	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所： 研究室(大学院棟 1203 室)	〔授業の方法〕 講義と演習				
〔科目の概要〕 <p>近年の深刻化する地球環境問題や大規模な自然災害の多発などにより、地域における人々の暮らしや、それを取り巻く環境には様々な課題が生じています。これらに対応するためには、地形学や地理情報システムを活用して、人間が生活する基盤となる地形の特徴や成り立ちを理解し、合わせて地域の自然現象や人文現象を、位置や空間的な広がりに着目して、可視化した地図として表現し、地理学的な思考で考察してゆくことが必要不可欠となります。この講義では、これらの知識や方法を身につけるため、以下の 4 つの内容を中心に展開します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間の生活舞台である地球表面の形態の成因と見方を理解するために、平野、台地、丘陵、山地、火山等の地形と第四紀の地殻変動・気候変動との関係、および地形発達史の考え方を説明すること ② 青森県で見られる代表的な自然景観の意味や成り立ちを理解するために、青森県の主要地域の自然環境や人々の暮らし、伝統文化、自然史、農林水産業・鉱工業などの産業、人工施設の配置・立地、防災・減災、観光等と地形発達史との関係を説明すること ③ 地理情報の基本と一般図である地形図の基本と読み方を習得するために、地球上の位置を座標によって表す測地系、地図投影法、等高線、地図記号等の概要について説明すること ④ 自然地理的・社会経済学的な現象を地形図上に可視化した主題図や統計地図の作成方法と読み方を身につける前段階として、地理情報システム(GIS)のひとつである「地理院地図」の基礎と使い方を説明すること 						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>地表の形態である地形は、人間が日々の生活を行う場であり、人間の生活、文化、民俗、経済活動とも密接に関係しています。地形を空間的・歴史的に認識し、様々な自然現象・社会現象と地形との相互関係を地図を活用して把握することは、地域の自然環境や人文環境に関する理解の深化、自然を活かした環境作りのための方策の検討、社会的な課題に対する政策提言のための基礎資料の作成など、地域創造への新たな発想やアイデアをもたらす源泉となります。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一般図である地形図の概要と読図方法を習得すること ② 第四紀の気候変動と地殻変動の概要を説明できること ③ 主要な地形の成り立ちを理解し、説明できること ④ 地形を中心とした自然環境と人間の生活・文化との関係について考えられるようになること ⑤ Web GIS の「地理院地図」の概要と基礎を習得すること 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>配布資料について、講義内でこのページについて言及しているかわからないことがあるとのことだったので、今後注意していきたい。</p>						

〔教科書〕

ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。

〔指定図書〕

ありません。

〔参考書〕

- 愛知大学三遠南信地域連携センター編（2021）『地域研究のための空間データ分析入門』。古今書院。
- 愛知大学三遠南信地域連携センター編（2022）『地域研究のための空間データ分析 応用編』。古今書院。
- 青木和人（2023）『初めての地理院地図：地図学習・防災学習にしよう』。古今書院。
- 朝日孝輔・大友翔一・水谷貴行・山手規裕（2018）『改訂新版 [オープンデータ+QGIS]統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図の作り方』。技術評論社。
- 伊藤智章（2016）『地図化すると世の中が見えてくる』。ベレ出版。
- 今木洋大・伊勢 紀編著（2022）『QGIS 入門 第3版』。古今書院。
- 貝塚爽平ほか編著（2019）『写真と図でみる地形学 増補新装版』。東京大学出版会。
- 金 徳謙（2022）『これで使える QGIS 入門 地図データの入手から編集・印刷まで』。ナカニシヤ出版。
- 金 徳謙（2022）『実践利用にステップアップを目指 QGIS 応用編—ベクタデータの利用からラスターデータの応用まで』。ナカニシヤ出版。
- 喜多耕一（2022）『改訂版 (Ver.3.22 対応)業務で使うQGISVer.3 完全使いこなしガイド』。全国林業改良普及協会。
- 小池一之ほか編著（2005）『日本の地形 3 東北』。東京大学出版会。
- 小島圭二ほか編著（1997）『日本の自然 地域編 2 東北』。岩波書店。(絶版のため講義中に資料を配付します)
- 西城 潔・藤本 潔・黒木貫一・小岩直人・楳原京子(2020)『地形でとらえる環境と暮らし』。古今書院。
- 杉本智彦（2022）『地形を感じる地図アプリ スーパー地形公式ガイドブック』。山と溪谷社。
- 地学団体研究会編(2024)『最新 地学事典』。平凡社。
- 中島 円（2021）『その問題、デジタル地図が解決します—はじめての GIS』。ベレ出版。
- 半井真明（2022）『まちの課題・資源を可視化する QGIS 活用ガイドブック』。学芸出版社。
- 日本地形学連合編(2017)『地形の辞典』。朝倉書店。
- 羽田康祐（2021）『地図リテラシー入門』。ベレ出版。
- 矢野桂司（2021）『GIS 地理情報システム』。創元社。

〔前提科目〕

教養科目の「地球科学」を履修していること、あるいは同等の知識を習得していることを前提とします。専門科目(展開科目)の「自然史・地理情報と地域創造」を履修する予定の方は、この科目を先に履修して下さい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- ① 授業の最後には、「リアクションペーパー」の時間を設けて、提出してもらいます。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、または重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業の冒頭で紹介・回答します。「リアクションペーパー」では、記述内容のわかりやすさや論理性、および授業内容への関心や取り組む姿勢を総合的に評価します。
- ② 期末に行う「試験」の内容は、地形学と地理空間情報システムの内容から出題します。暗記することよりも、論理的な考え方を重視した出題になります。「試験」では、地形学と地理情報システムの内容について、正しく論理的に理解して、説明できるという観点で評価します。
- ③ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 60%、「試験」の評価 40%の比率で、両者を合算して、合計 100 点満点で評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

私たちが、毎日、目にしている、地形を中心とした風景には、歴史と意味があります。そういった風景や様々な現象を合理的に表現するための道具として、地図があります。風景と地図を読むことができるようになると、自分のなかの時間と空間の世界がぐっと広がります。この興味深い世界をできるだけわかりやすく解説して、地理学的思考について理解してもらいたいと思います。是非、風景と地図を見ること、読むことを好きになって下さい。そして、さらには、その背景にある、地域に存在する様々な社会の仕組みや課題を考えるきっかけをつかんで、自分のなかで地域研究の「良き問い」を立てられるように発展させて欲しいと思います。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション： 地球規模・地域研究の課題と地形学・地理空間情報システムの役割と意義</p> <p>内 容： 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景の概説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地理情報システム(GIS)の概要と基礎、地形図と等高線、緯度経度の仕組みと全球測位衛星システム(GNSS)、地図の投影方法(1)</p> <p>内 容： 地形図から何がわかるか、地図の歴史と様々な種類の地図、地形図の特徴と読み方の解説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地理情報システム(GIS)の概要と基礎、地形図と等高線、緯度経度の仕組みと全球測位衛星システム(GNSS)、地図の投影方法(1)</p> <p>内 容： 地形図から何がわかるか、地図の歴史と様々な種類の地図、地形図の特徴と読み方の解説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地形の見方および東北地方の地形の配置と生活</p> <p>内 容： 地形をどのように把握するのかを解説し、日本列島と東北地方の地形の配置の概説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地形形成の背景となるプレートテクトニクスと地殻変動の基礎知識</p> <p>内 容： 地形を形成する営力としての地殻変動の仕組みとそれによってつくられる地形の見方を解説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地形形成の背景となる地球の第四紀の気候変動・海面変動の基礎知識</p> <p>内 容： 地形形成と地形発達史の枠組みとなる第四紀の気候変動と海面変動の歴史について解説</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方：①川がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用(1)</p> <p>内 容： 河川の営力によって作られる地形のできかたと見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する 教科書・指定図書： なし</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方：①川がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用(2)</p> <p>内 容： 河川の営力によって作られる地形のできかたと見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書： なし</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形の見でき方と見方:②海がつくる平野の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 海と風の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方:③台地と丘陵の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 台地や丘陵の地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方:③台地と丘陵の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 台地や丘陵の地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方:④山地の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 山地の地形のでき方(地殻変動、氷河、凍土、重力の営力を含む)と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域研究の基盤となる地形のでき方と見方:⑤火山の地形と人々の生活・土地利用</p> <p>内 容: 火山の営力によって作られる地形のでき方と見方を解説し、人々の生活、産業、文化との関連を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県各地域の地形発達史とその地理学・地域研究における応用(1)</p> <p>内 容: 青森県に見られる特徴的な地域の風景を取り上げて、その地域の地形発達史を解説し、自然史や人々の生活、産業、文化、観光との関連性を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県各地域の地形発達史とその地理学・地域研究における応用(2)</p> <p>内 容: 青森県に見られる特徴的な地域の風景を取り上げて、その地域の地形発達史を解説し、自然史や人々の生活、産業、文化、観光との関連性を考察する</p> <p>教科書・指定図書: なし</p>
試験	80分の筆記試験を実施します。

〔科目名〕 地域の産業 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 選択科目		
〔担当者〕 奥平 理				〔オフィス・アワー〕 時間:12:20-12:50 場所:授業日の教室		〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 本授業では、「津軽海峡圏」をテーマとしてその内容を深く掘り下げる。津軽海峡圏が交流圏・観光圏・経済圏としてどのような過去・現在をたどり、未来に向かうべきなのかを説明できる能力を身につけることを目標とする。 具体的には歴史的、地理的、文化的背景から津軽海峡圏を説明し、津軽海峡連絡船廃止と北海道新幹線開業が津軽海峡圏に与えた影響を説明する。そして津軽海峡圏の観光の現状と課題、産業構造の変化を説明することで、最終授業で「津軽海峡圏の未来」テーマにグループ討議を行い、受講生に津軽海峡圏への意識が高まることを期待している。								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 私たちは「津軽海峡圏」で生活をしている。皆さんは海峡を挟んで向かい側の函館について思ったり、考えたことはあるだろうか。青森市と函館市、地理学用語では「双子都市(ツインシティ)」の定義にピッタリとあてはまる。青森県は道南よりもずっと歴史が古いのに、青森市と函館市はほぼ同時期、幕末から明治にかけて都市としての体裁を整えていった。 双子都市の不思議な縁、今も脈々と受け継がれている交流の歴史、私たちのDNAに刻まれた津軽海峡圏を理解することで、この地に暮らすことの素晴らしさに気づくことができればと思う。								
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最後に「津軽海峡圏の未来」をテーマにプレゼンテーションと討議を行い、活発に議論することができる。 2. 議論した内容を踏まえて、「津軽海峡圏の未来」に関するレポートを作成することができる。 3. 期末試験で60点以上を取ることができる。								
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕								
学部				学科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
	○	○	○		○			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 予習の必要はありませんが、授業後に興味関心を持ったテーマについては復習することを推奨します。 2. シラバスについて、毎時間のはじめに当該時間の授業内容を確認します。 3. 授業の終了時刻を厳守します。								
〔教科書〕 テキストは使用しない。講義資料は Google ドライブのフォルダに毎時掲載する。								
〔指定図書〕 必要に応じて授業内で紹介する。								
〔参考書〕 必要に応じて授業内で紹介する。								
〔前提科目〕 該当なし								
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業ごとにレポート課題を提示し、最終授業日に期末試験を行う。								

<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>◎本授業では授業中の私語や携帯電話の使用等、他の受講者に迷惑となる行為は現に慎むこと。これらの行為が発覚した場合は1回につき40点/回の減点を行うので、十分に注意すること。</p> <p>◎写しと判断したレポート等の提出物は誰がオリジナルであろうとも関わった学生全員を 0 点とするので十分に注意すること。</p>	
<p>【実務経歴】</p> <p>該当なし</p>	
<p>授 業 ス ケ ジ ュ ー ル</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス・津軽海峡圏の歴史的背景</p> <p>内 容: 授業ガイダンス。青森と函館の歴史的背景を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 津軽海峡圏の地理的特徴と言語</p> <p>内 容: 函館と青森の地理的特徴と言語の特徴を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): マイクロツーリズムと津軽海峡圏</p> <p>内 容: マイクロツーリズムが浸透することによる地域への影響を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 津軽海峡圏の交流とその影響</p> <p>内 容: 津軽海峡圏の交流がもたらしたさまざまな影響を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 津軽海峡圏と青函連絡船</p> <p>内 容: 津軽海峡圏の発展に果たした津軽海峡連絡船の役割を理解できる</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 北海道新幹線開業の経済的影響</p> <p>内 容: 北海道新幹線開業が津軽海峡圏に与えた経済的な影響を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 函館の景観と観光</p> <p>内 容: 函館市にある独特の景観と観光との関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか): はこだてクリスマスファンタジーと津軽海峡圏</p> <p>内 容: はこだてクリスマスファンタジーと津軽海峡圏の関係を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 9 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 函館市における観光の現状と課題</p> <p>内 容: 函館市の観光の現状と課題を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森県における観光の現状と課題</p> <p>内 容: 青森県の観光の現状と課題を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか): DVD 鑑賞とポケットークにふれることから観光産業を考える</p> <p>内 容: DVD を視聴し、通訳機器「ポケットーク」に触れることから、観光産業の現状と課題を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):観光産業と地域の結びつき</p> <p>内 容:観光産業と地域の結びつきを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):観光産業と地域の結びつき</p> <p>内 容:交通網の整備により観光産業をどのようにして地域と結びつけるかを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):「観光」の定義とその意義</p> <p>内 容:『観光』の定義を理解するとともに、観光の地域における意義を理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):「観光」の歴史</p> <p>内 容:欧米の観光の歴史とわが国の観光の歴史が異なるようで実は類似性が強いことを理解できる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>15回の授業内容から5題を総合的に出題する。</p>

〔科目名〕 地域みらい特殊講義 I		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目			
〔担当者〕 竹浪 比呂央		〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:			〔授業の方法〕 講義と実習	
〔科目の概要〕 今や日本の火祭りとして世界にまで名を轟かせる「青森ねぶた祭」。国の重要無形文化財であり、まさに青森の宝でもある。本授業では、出陣する山車・ねぶたそのものに焦点を絞り、構想・原画・ラッセランド等、制作過程を掘り下げながら、その美術性・芸術性を追求してゆく。 民俗行事由来の祭りではあるが、祭りとはまた違った視点で造形としてのねぶたに迫ってゆく。100年先のねぶた祭に繋げるためのねぶた学である。						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ねむり流しとしての灯ろう行事から毎年、延べ200万人以上の観光客が訪れる巨大な祭りとなるまでの歴史的流れを理解し、さらにねぶた制作史とでもいべき造形と表現の変化を学びながら、この先を展望し、青森の素晴らしさ発信に結びつけたい。						
〔科目の到達目標〕 前半はねぶた学。特に祭りの歴史や歴代ねぶた名人の作品を掘り下げ、さらに技法・表現についても講義してゆく。最終的には、学生各々が、ねぶたの面のデザイン画を描く。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業の最後にコメント用紙に書いてもらい、次の授業に活かしてゆきたい。						
〔教科書〕 特になし						
〔指定図書〕 特になし						
〔参考書〕 必要に応じて授業時に紹介する。						
〔前提科目〕 なし						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回出席は取る予定である。 コメント用紙を書いてもらい評価。 試験は行わない。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 地域の文化であるねぶたに興味を持ち、知識を豊かにしてほしい。 ねぶた文化発信者として、社会に働きかける気持ちを育ててほしい。						

〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた学とは</p> <p>内 容: ガイダンス。ねぶたについてそれぞれの考え方を知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(1)</p> <p>内 容: 藩政時代(ねむり流し)から。ルーツは一緒、ねぶた ねぶた</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(2)</p> <p>内 容: 青森市の歴史</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(3)</p> <p>内 容: 青森港祭から日本の火祭り青森ねぶた祭へ 現在の審査について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた制作について</p> <p>内 容: 柿崎琴章・坂田金作</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(1)(2)</p> <p>内 容: 北川金三郎・北川啓三とその作品</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(3)</p> <p>内 容: 佐藤伝蔵とその作品</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(4)</p> <p>内 容: 鹿内一生とその作品</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(5)</p> <p>内 容: 千葉作龍とその作品</p> <p>教科書・指定図書</p>

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(1)</p> <p>内 容:ねぶた師とは</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(2)</p> <p>内 容:発想と構想</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(3)</p> <p>内 容:構想から原画へ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(4)</p> <p>内 容:原画から本体制作へ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(5)</p> <p>内 容:これからのねぶた。ねぶたからNEBUTAへ ねぶた師からねぶた制作</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):</p> <p>内 容:面を描く</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	

[科目名] ミクロ経済学				[単位数] 4単位		[科目区分] 専門科目 基礎科目(必修科目)	
[担当者] 工藤 恭嗣			[オフィス・アワー] 時間:初回の講義で提示する。 場所:初回の講義で提示する。			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] ミクロ経済学は、消費者、企業、政府などの経済主体がどのように意思決定を行い、限られた資源をどのように配分するかを分析する学問です。たとえば、消費者がどの商品を購入するか、企業がどのように生産を行うかなど、日常の経済活動を理論的に捉えます。本科目では、次の問いを通じてミクロ経済学の基本的な概念と理論を学びます： 1. (経済主体)誰が意思決定を行うのか 2. (財・サービスの選択)何が生産・消費されるのか 3. (数量の決定)どの程度生産・消費されるのか 4. (技術と資源の配分)どのように生産されるのか 5. (分配と所得)誰がどれだけ受け取るのか これらを学ぶことを通じてミクロ経済学の概念や理論を理解し、現実の経済問題に対する分析力を養います。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] ミクロ経済学では、消費者・生産者・行政機関などの経済主体が、それぞれの制約(予算、時間、技術、制度、社会的感情など)のもとで、目的達成のためにどのような選択を行うかを分析します。この考え方は、環境・金融・公共・財政・労働・国際・産業組織など、経済学の他分野に共通する分析枠組みであり、経営・マーケティング・会計・財務といった実務系科目とも関連します。 また、法制度が経済主体の行動に与える影響を分析する法と経済学、関連会社を国外に有する企業によるB EPS(税源浸食と利益移転)問題への対応(移転価格税制への応用)など、法律分野との接点も多くあります。さらに、分配の望ましさを福祉(well-being)の観点から考察する際には、倫理や哲学など、教養科目との関連も見いだされます。 ミクロ経済学を学修する過程に視点を移せば、経済主体の行動を定式化し、課題を解く過程を経験します。この過程では、「問題の構造を理解し、解決の手順を言葉で整理する」という思考が求められます。これは、プログラミングにおける命令文の構築と本質的に共通しており、論理的思考力や情報処理能力の向上にもつながります。したがって、ミクロ経済学の学修は、課題解決能力の育成という観点からも、情報・データサイエンス教育と接点を持つといえるでしょう。							
[科目の到達目標] 1. 専門用語を理解し、具体例を挙げるなどして説明できるようになる(学科 DP3)。 2. 経済モデルの構造と前提を理解し、基本的な使い方に慣れる(学科 DP2・DP3)。 3. 教科書を読みながら、客観的な事実と主観的な見解を区別する力を養う(学科 DP2・DP3)。 4. 経済モデルを用いて、経済現象を論理的に分析する基礎的な力を身につける(学科 DP1・DP2・DP3)。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 今年度から担当します。							

<p>〔教科書〕 ハル・R・ヴァリアン 著 佐藤隆三 監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015年</p>	
<p>〔指定図書〕 なし</p>	
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・N.G.マンキュー著、片桐満・篠潤之介・溝口哲郎訳『マンキュー入門経済学 第4版』東京化学同人、2025年(経済学基礎論で使用した教科書)のミクロ経済学の部分 ・N.G.マンキュー著、片桐満・篠潤之介・溝口哲郎訳『マンキュー経済学 I ミクロ編』東京化学同人、2025年 ・小野崎保・山口和男『ミクロ経済学 15講』新世社、2023年 	
<p>〔前提科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経済学基礎論」で学んだミクロ経済学の基本(需要・供給、効用、限界など)を理解していることを前提に進めます。内容を忘れていた場合は、教科書などで用語や考え方を事前に確認しておきましょう。 ・「経済数学」(春学期開講)で扱った数学(方程式、図形、関数、微分及び最適化問題)を必要に応じて参照します。履修済みの方は復習をして、未履修の方は「経済数学」の教科書や参考書(春学期のシラバス参照)を活用して、必要に応じて内容を補ってください。 	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>講義への参加(受動的な出席ではなく、内容への積極的な関与を指します。出席の有無は加点の対象としません。)、宿題(3回程度、計20%程度)、小テスト(2回、各20%程度)と定期試験(40%程度)の結果に基づき、成績を評価します。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p><取り組む姿勢></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う内容については、具体例や図を使用するなど、視覚的に理解しやすいよう工夫して講義します。 ・適宜アンケートを実施し、学生の反応を見ながら、講義方法の改善に努めます。 <p><学生への要望></p> <p>この講義は4単位科目であり、授業外で毎週8時間程度(各講義について4時間程度)の学修が必要とされます(学生便覧IVのI. 単位制(12頁)を参照。)。各講義について、事前に教科書に目を通す(1~2時間程度)、講義で学んだ内容を次回までに復習する(2~3時間程度)など、3年間での卒業要件の充足を前提とするのではなく、4年間での卒業を見据えた履修計画を検討し、4年間の時間を有効に活用してはいかがでしょうか。</p>	
<p>〔実務経歴〕 公正取引委員会、コンサルティング業</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の目的と方法</p> <p>内 容: 特定の取引(市場)を題材に需要と供給について復習しながら、ミクロ経済学の全体像をつかむ</p> <p>教科書 第1章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):需要の理論(1) 予算制約</p> <p>内 容: 消費者(需要者)が直面する代表的な制約である「予算」について学びます</p> <p>教科書 第2章</p>
第3~5回	<p>テーマ(何を学ぶか):需要の理論(2) 選好と効用</p> <p>内 容: 「消費者は何を選択するか?」を考察するための準備として、消費者の好みを記述する方法を学びます。</p> <p>教科書 第3章及び第4章</p>

第6～8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 需要の理論(3) 選択と需要</p> <p>内 容: 「消費者は何を選択するか?」を考察するための分析用具として、消費者の需要を記述する方法を学びます。応用例として、消費と貯蓄の選択を取り上げます。</p> <p>教科書 第5章、第6章、第10章(10.1～10.3)</p>
第9～10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 需要の理論(4) 顕示選好とスルツキー方程式</p> <p>内 容: 価格変化による消費者の反応を詳細に分析するため、財の交換比率の変化による部分(代替効果)と購買力の変化による部分(所得効果)に分解するスルツキー方程式を学びます。</p> <p>教科書 第7章(7.1～7.6)、第8章、第10章(10.4)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 小テストと解説</p> <p>内 容: 第1回～第10回の小テストを実施し、小テストの解説をします。</p> <p>教科書 第1回～第10回で扱った範囲</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 需要の理論(5) 消費者余剰</p> <p>内 容: 観察された需要者の行動から需要者の好みや効用を測る消費者余剰について学び、政策等による消費者厚生分析に応用します。</p> <p>教科書 第14章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 需要の理論(6) 市場の需要</p> <p>内 容: これまで学んだ個別需要者の需要関数を基に、市場全体の需要関数を構成する方法について学び、需要の価格弾力性と収入の関係に応用します。</p> <p>教科書 第15章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 供給の理論(1) 生産技術</p> <p>内 容: 企業行動の検討に当たり、生産要素から生産物を生産する技術の記述方法について学びます。</p> <p>教科書 第19章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 供給の理論(2) 利潤最大化</p> <p>内 容: 利潤最大化問題を題材に企業の最適化問題について学び、利潤を最大化するときの生産要素の選択について学びます。</p> <p>教科書 第20章</p>
第16～17章	<p>テーマ(何を学ぶか): 供給の理論(3) 費用最小化と費用曲線</p> <p>内 容: 費用最小化問題を検討し生産量と費用の関係を表す費用関数を導出し、長期と短期における様々な費用関数(平均費用、限界費用)について学びます。</p> <p>教科書 第21章及び第22章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 供給の理論(4) 企業の供給</p> <p>内 容: 利潤最大化問題から企業の供給行動を検討して供給関数を導出し、供給行動からの利益を測る生産者余剰について学びます。</p> <p>教科書 第23章</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 供給の理論(5) 産業の供給</p> <p>内 容: 企業個別の供給曲線を基に産業の供給曲線(市場供給曲線)を構成する方法を学んだ上で、長期における参入や退出による産業の供給への影響を分析します。</p> <p>教科書 第24章(24.10～24.11を除く)</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): 小テストと解説</p> <p>内 容: 第12回～第19回</p> <p>教科書 第12回から第19回で扱った範囲</p>

第 21～ 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 部分均衡分析</p> <p>内 容: 市場需要曲線と市場供給曲線から市場の均衡価格がいかにかに決まるか検討するとともに、課税、価格統制、炭素税、人口減少等、市場をめぐる環境の変化(制度の変更を含む。)が均衡価格や数量にどのような影響を与え得るか学びます。</p> <p>教科書 第 16 章、第 24 章(24.10～24.11)</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占</p> <p>内 容: 供給する企業が1社に限られる市場(独占市場)について学び、競争圧力が働かない市場での均衡価格と数量について学ぶ。</p> <p>教科書 第 25 章</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 初期保有資源の売買</p> <p>内 容: 一般均衡分析の準備として、当初保有している資源(財、時間等)の配分を選択する問題を扱い、応用例として消費者による労働供給の決定について学びます。</p> <p>教科書 第 9 章</p>
第 25～ 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 一般均衡分析</p> <p>内 容: 部分均衡分析では、特定の財市場における均衡価格や取引量を、他の市場からの影響を考慮せずに独立して分析していました。一般均衡分析では、この前提を緩和し、複数の市場における需要と供給がどのように相互に影響し合い、多数の財の価格がどのように決定されるのか理論的に考察します。</p> <p>教科書 第 32 章</p>
第 27～ 28 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 一般均衡分析と市場の失敗(1)・・・外部性</p> <p>内 容: 消費者の選択が、他の経済主体の生産や消費に影響を及ぼす場合(自動車の排気ガスやタバコの煙など)、これを「消費の外部性」といいます。生産についても同様に、企業の生産可能性が他の企業や消費者の選択によって影響を受ける場合、「生産の外部性」が生じます。公害や環境問題のほか、SNSやオンラインショッピングサイトのプラットフォームのネットワーク効果など、消費や生産に外部性が存在する市場において、市場均衡がどのように形成されるかを学びます。</p> <p>教科書 第 35 章及び第 36 章(36.4～36.8)</p>
第 29～ 30 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 一般均衡分析と市場の失敗(2)・・・公共財</p> <p>内 容: ある人が消費しても他者の消費可能量が減らず、かつ、特定の消費者を消費から排除することが困難な性質を持つ財を公共財と呼びます(注:「公共性」がある財を「公共財」と呼ぶわけではありません。)。国防や外交はこのような性質を備えており、道路、公園、環境などもこれに近い性質をもつといえます。公共財は消費の外部性を伴う財の特殊な例であり、ある人が消費することで、他のすべての人も同じ量を消費することになります。このような財は、他者が供給すれば、自身もその恩恵を受けられる可能性があるため、個々の経済主体による自発的な供給が行われにくいという特徴があります。公共財をめぐる様々な問題とその解決策について、入門的なモデル分析を通じて学びます。</p> <p>教科書 第 37 章</p>
試 験	定期試験期間中に実施します。

[科目名] 財 務 会 計 論 I				[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目 基幹科目(経営) 展開科目(経済・地域)		
[担当者] 金子輝雄		[オフィス・アワー] 時間: 研究室に表示 場所: 513			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] <p style="text-align: center;">～なぜ? どうして? から簿記・会計を理解する!～</p> <p>2・3級の簿記検定は取り敢えず暗記すれば受かりますが、それでは使い物にはなりません。</p> <p style="text-align: center;">ましてや「会計がわからんで経営ができるか!」(稲盛和夫)</p> <p>会計は、マネジメントの基本であり、国や地域の経済発展を支えています。</p> <p>企業の資本を可視化して、その運動と増殖を記録を通して計算することが、簿記の役割です。簿記によって得られた数値は、マネジメントはもちろん、企業の株主・債権者・従業員・国などのステーク・ホルダーに提供(これを財務会計と言います)され、それぞれの意思決定に役立てられています。このような財務会計の社会性および会計が人間の行為(すべてをAIに置き換えることはできません。)であることから、そこには会計基準というルールが必要となります。国際財務報告基準(IFRS)が今日のグローバルスタンダードになっていますが、これを学ぶことも財務会計論の学修の目標になっています。IFRSでは株式投資に役立つ予測指向の会計が志向され、利潤の概念が実現ベースの「純利益」から発生ベースの「包括利益」に改められています。それはまた企業の簿記に影響を及ぼしています。</p>							
[[授業科目群]・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
<ul style="list-style-type: none"> 会計学基礎論で学んだ内容を復習しながらより発展的な内容を学びます。その理解を前提として、財務分析、監査論、税務会計およびNPO会計等へと展開します。 日商簿記3・2級の理解はもちろん、難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式・論文式)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立ちます。 <p style="text-align: center;">*本学では3・2級の簿記講座しかありませんので、上を目指す人は必ず受講してください。</p>							
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]							
<ul style="list-style-type: none"> 中間目標・企業会計の基本原理(財務会計の機能、簿記と財務諸表の関係、一般原則等)を理解すること。 最終目標・中級程度の記録・計算をマスターし、それに係る財務会計理論を理解する。 							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]							
昨年度、特に意見・要望はありませんでした。							
[教科書] 八田進二・橋本尚著『財務会計の基本を学ぶ<最新版>』同文館出版 *財務会計論Ⅱでも同テキストを使用します。							
[指定図書] 桜井久勝著『財務会計講義(最新版)』中央経済社 ¥3,800(税抜き) * 会計士・税理士・簿記1級の必読書です。							

<p>【参考書】 藤井・内藤・吉岡編著『フランス会計の歴史と制度 ―国際的統合化への道筋―』白桃書房 2024年 他、適宜紹介します。演習問題としては市販のものを各自の目的とレベルに合わせて活用してください。</p>	
<p>【前提科目】 「会計学基礎論」が理解できていることが望ましいです。</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</p> <p>① 確認テスト (45%) ② 期末テスト (45%) ③ 小テスト (10%)</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>本学卒業生にも公認会計士・税理士・国税専門官になって活躍している人がいます。皆さんもチャレンジしませんか？</p>	
<p>【実務経歴】</p> <p>銀行業及び税理士事務所での実務経験</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 会計とは? 青い森鉄道の決算書を読む!</p> <p>教科書・指定図書 本シラバスおよび 教科書 第1章 第1節</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財務会計の基礎理論 会計って何のためだれのため? 内 容: 制度として行われる会計について</p> <p>教科書・指定図書 第1章 第2・3節</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 複式簿記の仕組みと財務諸表 やっぱ簿記だね! 内 容: 利益計算の仕組み お金を貸したのに借方に記入! Why?</p> <p>教科書・指定図書 第2章 第1~4節</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財務会計の基礎理論 会計が目指すもの 会計の大前提! 内 容: 概念フレームワークというもの 会計公準という決めごと</p> <p>教科書・指定図書 第3章 第1・2節</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業会計原則 7つの原則! 継続性が命! 内 容: 一般原則について</p> <p>教科書・指定図書 第3章 第4・5節</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 損益計算と資産評価 現金主義と発生主義の違いは? 内 容: 発生主義会計の基本原則と資産評価</p> <p>教科書・指定図書 第4章 第1~3節</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 現金と有価証券 株投資! ? 内 容: 金融商品の会計</p> <p>教科書・指定図書 第5章 第1~3節 (第4・5節は財務会計論Ⅱで扱います)</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中間テスト 内 容: 中間テストとその解説</p> <p>教科書・指定図書 プリントを用いる</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):商製品の計算 いろいろな払出単価の計算方法! 内 容: 棚卸資産の会計</p> <p>教科書・指定図書 第7章 第1~4節</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産の取引について 補助金・修繕と改良について 内 容:有形固定資産の会計</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第1・2節</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):資産会計 減価償却の本当の意味! 内 容:減価償却の会計</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第3節</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):資産会計 アウガはなぜ消滅したか? 内 容:減損会計、繰延資産</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第4節</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):リース会計 借り物なのに資産になる? 内 容:リース取引の考え方と会計処理</p> <p>教科書・指定図書 第8章 第5節</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):資産会計 ブランド価値ってどう? 内 容:総合償却、無形資産・ソフトウェア・研究開発費の会計</p> <p>教科書・指定図書 第9章 第1~3節</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容: 補足説明と問題演習</p> <p>教科書・指定図書 プリント配布</p>
定期試験	